

八女市内遺跡23

福岡県八女市柳瀬所在 茶ノ木ノ本遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第140集

2024

八女市教育委員会

八女市内遺跡23

福岡県八女市柳瀬所在 茶ノ木ノ本遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第140集

2024

八女市教育委員会

序

昭和57年度から開始されました八女南部地区県営圃場整備事業の進展に伴い、当教育委員会では事業地内の埋蔵文化財発掘調査を昭和60年度から進めてまいりました。その結果、縄文時代を中心としたアモメ遺跡や、まとまった規模の甕棺墓列が発見された松ノ本遺跡など、貴重な遺跡が発見され、この地域の文化を考える上で重要な成果を上げることができました。

これらの遺跡については報告書が未刊行となっておりますが、八女市では現地における記録をとりまとめ、未刊行となっている報告書を刊行する作業を現在進行形で進めております。これらの遺跡の周知については、今後も八女市が取り組まなければならない重要な課題です。

今回刊行する報告書に含まれる遺跡は、平成5年度に実施された八女南部第2地区県営圃場整備事業に伴い、調査を行った八女市酒井田地区で、弥生後期の甕棺墓と共に、鏡や銅剣、ガラス玉が出土した茶ノ木ノ本遺跡です。

当時の発掘調査およびこの度の報告書刊行に当たりまして、終始ご協力いただきました福岡県教育委員会、地元行政区をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

令和6年3月31日

八女市教育委員会

教育長 橋 本 吉 史

例言

- ・本書は八女市南部地区県営圃場整備に伴う、平成5年度に実施された八女市柳瀬に所在する茶ノ木ノ本遺跡の発掘調査報告書である。
- ・発掘調査と一部の整理作業については国・県の補助を受けて八女市教育委員会が実施した。
- ・出土遺物は文化財整理室（旧岩戸山歴史資料館）で現地での調査時及び調査後作成された遺構・遺物の実測図の再整理を実施し、本書に関する調査記録、及び出土遺物は現八女市において保管・収蔵している。
- ・再整理については国・県の補助を受けて八女市教育委員会が実施した。
- ・本書使用の方位については、すべて座標北を基準としている。
- ・本書で使用する遺構の記号はそれぞれSB（竪穴住居・建物）、SD（溝状遺構）、SK（土坑）、ST（石棺墓）、K（甕棺墓）、P（ピット）を指す。

<参考文献>

橋口達也2005『甕棺と弥生時代年代論』雄山閣

本文目次

1 はじめに	1
(1)調査に至る経緯	1
(2)調査体制	1
2 位置と環境	4
3 発掘調査の成果	7
(1)竪穴建物	7
(3)石棺墓	9
(5)不明遺構	24
(2)土坑	8
(4)甕棺墓	15
4 まとめ	26
5 八女市茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈について	36
6 茶ノ木ノ本遺跡出土銅鏡の歴史的意義	63

插图目次

第 1 图	茶ノ木ノ本遺跡 位置図[1/1, 250, 000]	1
第 2 图	茶ノ木ノ本遺跡 周辺遺跡図[1/25, 000]	2
第 3 图	茶ノ木ノ本遺跡 周辺遺跡発掘調査区域図[1/3, 000]	3
第 4 图	茶ノ木ノ本遺跡 遺構配置図[1/400]	4
第 5 图	茶ノ木ノ本遺跡 1号竪穴建物【SB01】[1/40]	5
第 6 图	茶ノ木ノ本遺跡 2号竪穴建物【SB02】[1/40]	5
第 7 图	茶ノ木ノ本遺跡 3号竪穴状遺構【SB03】[1/40]	6
第 8 图	茶ノ木ノ本遺跡 4号竪穴状遺構【SB04】[1/40]	6
第 9 图	茶ノ木ノ本遺跡 出土遺物 竪穴建物【SB】[1/4]	7
第 10 图	茶ノ木ノ本遺跡 1号土坑【SK01】[1/40]	9
第 11 图	茶ノ木ノ本遺跡 2号土坑【SK02】[1/40]	9
第 12 图	茶ノ木ノ本遺跡 4号土坑【SK04】[1/40]	9
第 13 图	茶ノ木ノ本遺跡 7, 8号土坑【SK07, 08】[1/40]	9
第 14 图	茶ノ木ノ本遺跡 9号土坑【SK09】[1/40]	9
第 15 图	茶ノ木ノ本遺跡 10号土坑【SK10】[1/40]	9
第 16 图	茶ノ木ノ本遺跡 11号土坑【SK11】[1/40]	9
第 17 图	茶ノ木ノ本遺跡 12号土坑【SK12】[1/40]	9
第 18 图	茶ノ木ノ本遺跡 13号土坑【SK13】[1/40]	10
第 19 图	茶ノ木ノ本遺跡 14号土坑【SK14】[1/40]	10
第 20 图	茶ノ木ノ本遺跡 16号土坑【SK15・16】[1/40]	10
第 21 图	茶ノ木ノ本遺跡 17号土坑【SK17】[1/40]	10
第 22 图	茶ノ木ノ本遺跡 18, 19号土坑【SK18・19】[1/40]	10
第 23 图	茶ノ木ノ本遺跡 21号土坑【SK21】[1/40]	10
第 24 图	茶ノ木ノ本遺跡 22号土坑【SK22】[1/40]	10
第 25 图	茶ノ木ノ本遺跡 23号土坑【SK23】[1/40]	11
第 26 图	茶ノ木ノ本遺跡 24号土坑【SK24】[1/40]	11
第 27 图	茶ノ木ノ本遺跡 25号土坑【SK25】[1/40]	11
第 28 图	茶ノ木ノ本遺跡 26, 27号土坑【SK26, 27】[1/40]	11
第 29 图	茶ノ木ノ本遺跡 28号土坑【SK28】[1/40]	11
第 30 图	茶ノ木ノ本遺跡 29号土坑【SK29】[1/40]	11
第 31 图	茶ノ木ノ本遺跡 30, 31号土坑【SK30, 31】[1/40]	11
第 32 图	茶ノ木ノ本遺跡 32号土坑【SK32】[1/40]	12
第 33 图	茶ノ木ノ本遺跡 33号土坑【SK33】[1/40]	12
第 34 图	茶ノ木ノ本遺跡 34号土坑【SK34】[1/40]	12
第 35 图	茶ノ木ノ本遺跡 35号土坑【SK35】[1/40]	12
第 36 图	茶ノ木ノ本遺跡 36号土坑【SK36】[1/40]	12
第 37 图	茶ノ木ノ本遺跡 37号土坑【SK37】[1/40]	12
第 38 图	茶ノ木ノ本遺跡 39号土坑【SK39】[1/40]	12
第 39 图	茶ノ木ノ本遺跡 40号土坑【SK40】[1/40]	12
第 40 图	茶ノ木ノ本遺跡 41号土坑【SK41】[1/40]	12
第 41 图	茶ノ木ノ本遺跡 42号土坑【SK42】[1/40]	12
第 42 图	茶ノ木ノ本遺跡 43号土坑【SK43】[1/40]	12
第 43 图	茶ノ木ノ本遺跡 45号土坑【SK45】[1/40]	12
第 44 图	茶ノ木ノ本遺跡 46号土坑【SK46】[1/40]	12
第 45 图	茶ノ木ノ本遺跡 47号土坑【SK47】[1/40]	12
第 46 图	茶ノ木ノ本遺跡 48号土坑【SK48】[1/40]	13
第 47 图	茶ノ木ノ本遺跡 49号土坑【SK49】[1/40]	13
第 48 图	茶ノ木ノ本遺跡 50号土坑【SK50】[1/40]	13
第 49 图	茶ノ木ノ本遺跡 出土遺物 土坑【SK】[1/4]	13
第 50 图	茶ノ木ノ本遺跡 1号石棺墓【ST01】[1/40]	14
第 51 图	茶ノ木ノ本遺跡 2号石棺墓【ST02】[1/40]	14
第 52 图	茶ノ木ノ本遺跡 3号石棺墓【ST03】[1/40]	14
第 53 图	茶ノ木ノ本遺跡 4号石棺墓【ST04】[1/40]	15
第 54 图	茶ノ木ノ本遺跡 5号石棺墓【ST05】[1/40]	15
第 55 图	茶ノ木ノ本遺跡 6号石棺墓【ST06】[1/40]	16
第 56 图	茶ノ木ノ本遺跡 出土遺物 石棺【ST】[1/4]	16
第 57 图	茶ノ木ノ本遺跡 1号甕棺墓【K01】[1/40]	17
第 58 图	茶ノ木ノ本遺跡 2号甕棺墓【K02】[1/40]	17
第 59 图	茶ノ木ノ本遺跡 3号甕棺墓【K03】[1/40]	17
第 60 图	茶ノ木ノ本遺跡 4号甕棺墓【K04】[1/40]	17
第 61 图	茶ノ木ノ本遺跡 5号甕棺墓【K05】[1/40]	17
第 62 图	茶ノ木ノ本遺跡 6号甕棺墓【K06】[1/40]	18
第 63 图	茶ノ木ノ本遺跡 7号甕棺墓【K07】[1/40]	18
第 64 图	茶ノ木ノ本遺跡 8号甕棺墓【K08】[1/40]	18
第 65 图	茶ノ木ノ本遺跡 9号甕棺墓【K09】[1/40]	18
第 66 图	茶ノ木ノ本遺跡 10号甕棺墓【K10】[1/40]	18
第 67 图	茶ノ木ノ本遺跡 11号甕棺墓【K11】[1/40]	18

第 68図 茶ノ木ノ本遺跡 12号甕棺墓【K12】〔1/40〕	18
第 69図 茶ノ木ノ本遺跡 13号甕棺墓【K13】〔1/40〕	19
第 70図 茶ノ木ノ本遺跡 14号甕棺墓【K14】〔1/40〕	19
第 71図 茶ノ木ノ本遺跡 15号甕棺墓【K15】〔1/40〕	19
第 72図 茶ノ木ノ本遺跡 16号甕棺墓【K16】〔1/40〕	19
第 73図 茶ノ木ノ本遺跡 17号甕棺墓【K17】〔1/40〕	19
第 74図 茶ノ木ノ本遺跡 18号甕棺墓【K18(SK38)】〔1/40〕	20
第 75図 茶ノ木ノ本遺跡 19号甕棺墓【K19】〔1/40〕	20
第 76図 茶ノ木ノ本遺跡 20号甕棺墓【K20】〔1/40〕	20
第 77図 茶ノ木ノ本遺跡 20号土坑【SK20】 21号甕棺墓【K21】〔1/40〕	20
第 78図 茶ノ木ノ本遺跡 22号甕棺墓【K22】〔1/40〕	20
第 79図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 1号甕棺墓【K01】〔1/8〕	21
第 80図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 2号甕棺墓【K02】〔1/8〕	21
第 81図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号甕棺墓【K03】〔1/8〕	21
第 82図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号甕棺墓【K03】(鉄戈)〔1/2〕	22
第 83図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号甕棺墓【K03】(銅鏡)〔1/2〕	22
第 84図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 4号～6号甕棺墓【K04～K06】〔1/8〕	23
第 85図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 5号甕棺墓【K05】(細形銅剣)〔1/2〕	24
第 86図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 7号～9号、18号甕棺墓【K07～K09】〔1/8〕	25
第 87図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 (ガラス玉)9号甕棺墓【K09】〔1/1〕	26
第 88図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 10号～15号、17号、19号、20号甕棺墓【K10～K15、K17、K19、K20】〔1/8〕	27
第 89図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 21号、22号甕棺墓【K21、22】〔1/8〕	28
第 90図 茶ノ木ノ本遺跡 1号不明遺構【SX01】〔1/40〕	28
第 91図 茶ノ木ノ本遺跡 3号不明遺構【SX03】〔1/40〕	28
第 92図 茶ノ木ノ本遺跡 4号不明遺構【SX04】〔1/40〕	28
第 93図 茶ノ木ノ本遺跡 5号不明遺構【SX05】〔1/40〕	28
第 94図 茶ノ木ノ本遺跡 6号不明遺構【SX06】〔1/40〕	29
第 95図 茶ノ木ノ本遺跡 8号不明遺構【SX08】〔1/40〕	29
第 96図 茶ノ木ノ本遺跡 9号不明遺構【SX09】〔1/40〕	29
第 97図 茶ノ木ノ本遺跡 10号不明遺構【SX10】〔1/40〕	29
第 98図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 不明遺構【SX】〔1/4〕	29
第 99図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 4号不明遺構【SX04】(ガラス玉)〔1/1〕	29
第100図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号不明遺構【SX03】(ヤリガンナ)〔1/2〕	30
第101図 茶ノ木ノ本遺跡 調査区南東側 甕棺形式別分布〔1/200〕	30

図版目次

図版 1 茶ノ木ノ本遺跡 上空から	39
図版 2 茶ノ木ノ本遺跡 竪穴建物	40
(1) 1号竪穴建物【SB01】(北から)..... 40	(4) 1号竪穴建物【SB01】カマド(北から)..... 40
(2) 1号竪穴建物【SB01】カマド(北から)..... 40	(5) 2号竪穴建物【SB02】(南西から)..... 40
(3) 1号竪穴建物【SB01】カマド(北から)..... 40	(6) 3号竪穴状遺構【SB03】(南西から)..... 40
(7) 4号竪穴状遺構【SB04】(北東から)..... 40	
図版 3 茶ノ木ノ本遺跡 土坑	41
(1) 8号土坑【SK08】(南西から)..... 41	(4) 20号土坑【SK20】遺物出土状況(南東から) 41
(2) 10号土坑【SK10】(東から)..... 41	(5) 23号土坑【SK23】(西から)..... 41
(3) 20号土坑【SK20】(南から)..... 41	(6) 25号土坑【SK25】(西から)..... 41
(7) 26号土坑【SK26】(南西から)..... 41	(8) 39号土坑【SK39】(南東から)..... 41
図版 4 茶ノ木ノ本遺跡 土坑・溝状遺構	42
(1) 土坑【SK41】(東から)..... 42	(3) 土坑【SK46】(北から)..... 42
(2) 土坑【SK42】(北から)..... 42	(4) 溝状遺構【SD02】(南から)..... 42
図版 5 茶ノ木ノ本遺跡 石棺墓	43
(1) 1号石棺墓【ST01】(北から)..... 43	(4) 3号石棺墓【ST03】(南から)..... 43
(2) 1号石棺墓【ST01】(北から)..... 43	(5) 3号石棺墓【ST03】(北から)..... 43
(3) 2号石棺墓【ST02】(南西から)..... 43	(6) 4号石棺墓【ST04】(南から)..... 43
(7) 4号石棺墓【ST04】(南東から)..... 43	
図版 6 茶ノ木ノ本遺跡 石棺墓・甕棺墓	44
(1) 5号石棺墓【ST05】(南から)..... 44	(4) 6号石棺墓【ST06】(北東から)..... 44
(2) 5号石棺墓【ST05】(南から)..... 44	(5) 1号甕棺墓【K01】(北東から)..... 44
(3) 6号石棺墓【ST06】(北東から)..... 44	(6) 1号甕棺墓【K01】(北から)..... 44
(7) 3号甕棺墓【K03】(北西から)..... 44	
図版 7 茶ノ木ノ本遺跡 甕棺墓	45
(1) 3号甕棺墓【K03】(鉄戈出土状況 西から) 45	(4) 4号甕棺墓【K04】(南東から)..... 45
(2) 3号甕棺墓【K03】(銅鏡出土状況1 北東から) 45	(5) 5号甕棺墓【K05】(北東から)..... 45
(3) 3号甕棺墓【K03】(銅鏡出土状況2 北東から) 45	(6) 5号甕棺墓【K05】(石蓋除去後1 南東から) 45
(7) 5号甕棺墓【K05】(石蓋除去後2 北東から) 45	

図版 8 茶ノ木ノ本遺跡 甕棺墓	46
(1) 6号甕棺墓【K06】(北から)	46
(2) 6号甕棺墓【K06】(北から)	46
(3) 7号甕棺墓【K07】(東から)	46
(4) 7号甕棺墓【K07】(東から)	46
(5) 9号甕棺墓【K09】(北から)	46
(6) 10号甕棺墓【K10】(南東から)	46
(7) 12号甕棺墓【K12】(北西から)	46
(8) 14号甕棺墓【K14】(南から)	46
図版 9 茶ノ木ノ本遺跡 甕棺墓	47
(1) 15号甕棺墓【K15】(南東から)	47
(2) 17号甕棺墓【K17】(南から)	47
(3) 19号甕棺墓【K19】(東から)	47
(4) 20号甕棺墓【K20】(北西から)	47
(5) 21号甕棺墓【K21】(北から)	47
図版 10 茶ノ木ノ本遺跡 不明遺構	48
(1) 不明遺構【SX02】(南から)	48
(2) 不明遺構【SX03】(北から)	48
(3) 不明遺構【SX04】(西から)	48
(4) 不明遺構【SX06】(西から)	48
(5) 不明遺構【SX08】(南東から)	48
図版 11 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 竪穴建物(SB)	49
(1) 第9図1(底部)	49
(2) 第9図2	49
(3) 第9図3	49
(4) 第9図4	49
(5) 第9図5	49
(6) 第9図6	49
(7) 第9図8	49
図版 12 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 土坑(SK)(1)	50
(1) 第49図1	50
(2) 第49図2	50
(3) 第49図3	50
(4) 第86図4	50
(5) 第49図5	50
(6) 第49図6	50
(7) 第49図8	50
(8) 第49図9	50
図版 13 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 土坑(SK)(2)、石棺墓(ST)	51
(1) 第49図11	51
(2) 第49図12	51
(3) 第49図13	51
(4) 第56図1	51
(5) 第56図2	51
(6) 第56図3	51
図版 14 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(1~3号甕棺墓)	52
(1) 第79図	52
(2) 第80図	52
(3) 第81図	52
(4) 第81図	52
(5) 第81図	52
図版 15 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(4~7号甕棺墓)	53
(1) 第84図1	53
(2) 第84図3	53
(3) 第84図4	53
(4) 第86図1	53
図版 16 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(8~10号甕棺墓)	54
(1) 第86図2	54
(2) 第88図2	54
(3) 第86図3	54
(4) 第88図1	54
図版 17 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(11~14号甕棺墓)	55
(1) 第88図3	55
(2) 第88図4	55
(3) 第88図5	55
(4) 第88図6	55
(5) 第88図7	55
図版 18 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(15, 17号甕棺墓)	56
(1) 第88図8	56
(2) 第88図9	56
(3) 第88図10	56
(4) 第88図11	56
図版 19 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(18, 19, 20, 22号甕棺墓)	57
(1) 第86図4	57
(2) 第88図12	57
(3) 第89図2	57
(4) 第89図3	57
(5) 第88図13	57
(6) 第88図14	57
図版 20 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(3, 5号甕棺墓)	58
(1) 第82図	58
(2) 第83図	58
(3) 第85図	58
図版 21 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(9号甕棺墓 ガラス玉)(第87図)	59
図版 22 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(9号甕棺墓 ガラス玉)(第87図)	60
図版 23 茶ノ木ノ本遺跡不明遺構出土遺物(3, 4号不明遺構)(第98図)	61
(1) 第98図1	61
(2) 第98図2	61
(3) 第98図3	61
(4) 第98図4	61
(5) 第98図5	61
(6) 第98図6	61
図版 24 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物(3, 4号不明遺構)	62
(1) 第99図	62
(2) 第100図	62

表目次

第1表 茶ノ木ノ本遺跡 出土遺物観察表	31
第2表 鉄戈出土遺跡	37



1 はじめに

(1) 調査に至る経緯

1995年に刊行された「八女南部地区県営圃場整備事業地内 埋蔵文化財調査概報5 福岡県八女市大字酒井田・柳瀬・宮野所在遺跡の調査概報 八女市文化財調査報告書第34集」によると、茶ノ木ノ本遺跡の調査は八女南部地区県営圃場整備事業に伴うもので、現地での調査は平成5年12月6日から開始し、平成6年3月25日に終了している。今回の再整理の内容は、遺構実測図の浄書、遺物の接合・実測(一部はすでに完了)、浄書、撮影である。

(2) 調査体制

【平成5年度】(現地調査)

八女市教育委員会

教育長

教育部長

社会教育課 課長

同 課長補佐兼文化財係長

同 係員

同 嘱託

坂 田 不二夫

渡 辺 勲

山 口 龍 一

中 村 武 紀

赤 崎 敏 男 大 塚 恵 治

中 川 寿 賀 子

【令和5年度】(本報告刊行時)

八女市教育委員会

教育長

教育部長

文化振興課 課長

同 課長補佐兼文化財係長

同 文化財係 主任

同 同 係員

同 歴史文化交流館係 係長

同 同 係員

同 会計年度任用職員

橋 本 吉 史

平 武 文

鵜 木 英 希

片 山 あづさ(総括・事務担当)

永 田 寧(報告書紙筆)

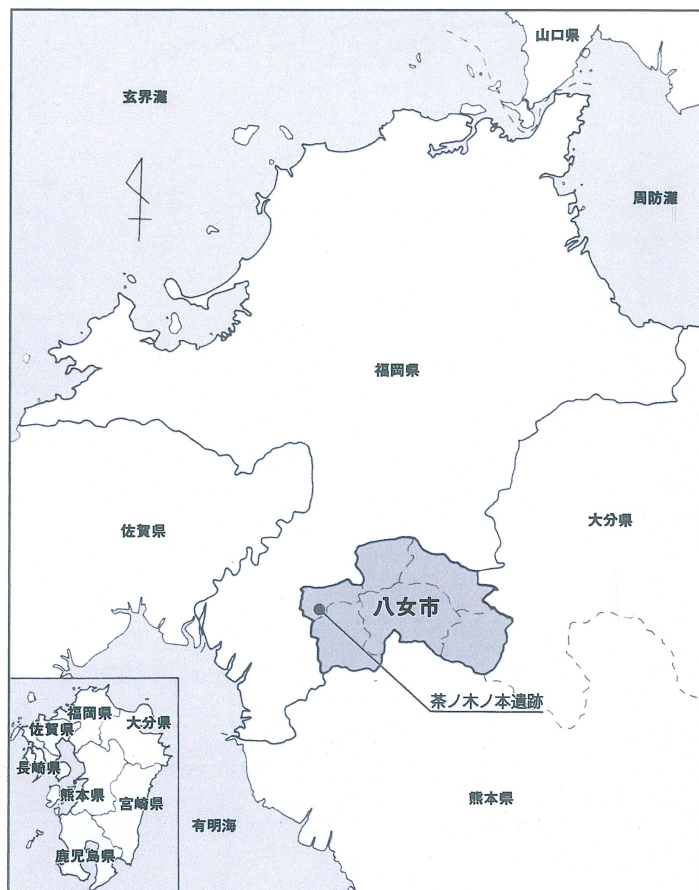
江 頭 俊 介 甲 斐 郁 木 原 堯

鹿子生 秀 大

山 口 美 佐 子

檀 佳 克

平 俊 隆 平 島 昌 美 赤 司 桃 子

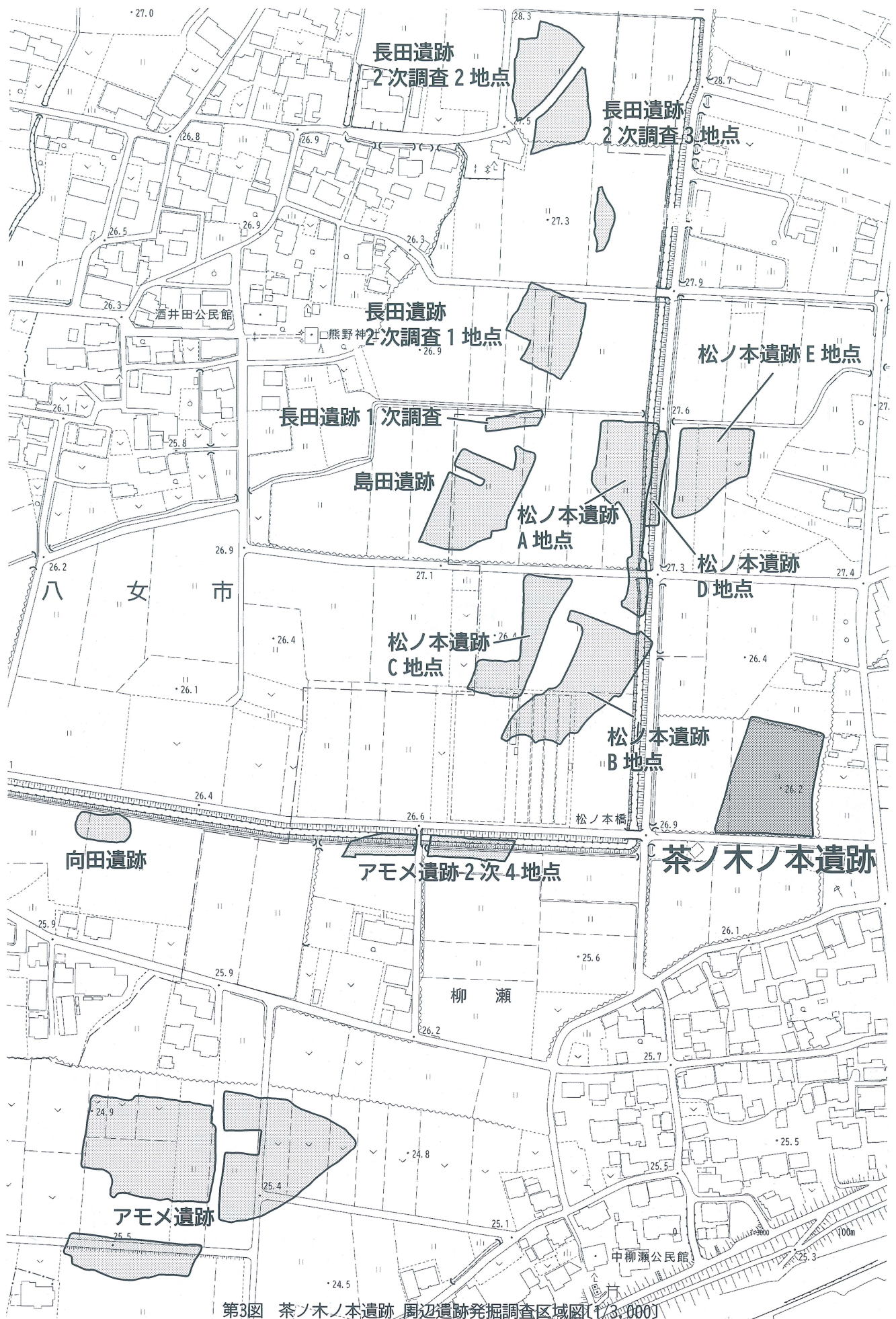


第1図 茶ノ木ノ本遺跡 位置図[1/1, 250, 000]

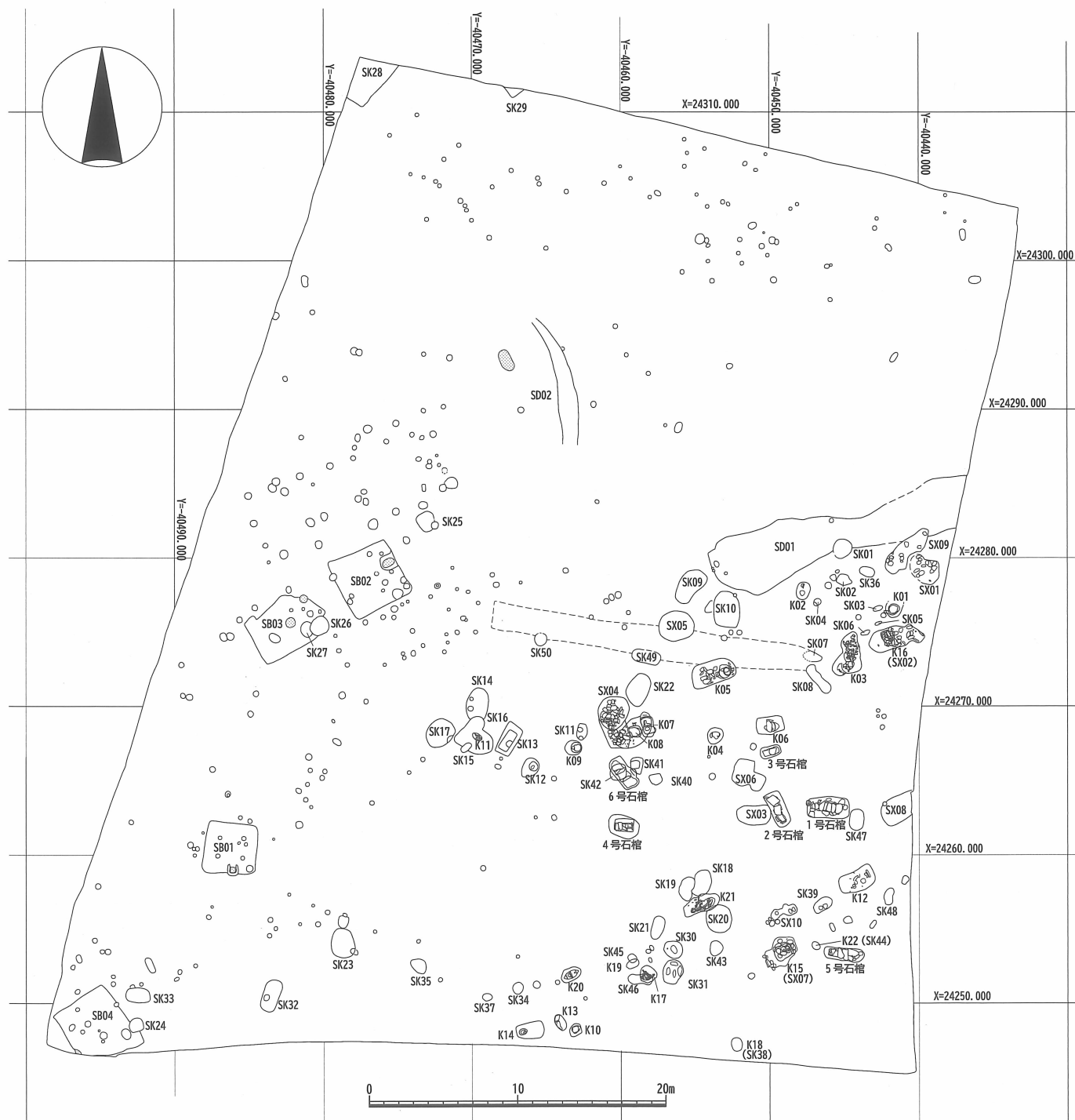


- | | | | |
|---------------|-----------|---------------|------------|
| 1. 茶ノ木ノ本遺跡 | 11. 新替遺跡 | 21. 鳥井遺跡 | 31. 宮ノ后遺跡 |
| 2. 前田遺跡 | 12. 池上遺跡 | 22. 島田遺跡 | 32. 亀ノ甲遺跡 |
| 3. 篠原遺跡 | 13. 野田遺跡 | 23. 松ノ本遺跡 | 33. 西山ノ上遺跡 |
| 4. 立野・大坪遺跡 | 14. 水洗遺跡 | 24. 曲松遺跡 | 34. 向田遺跡 |
| 5. 川原遺跡 | 15. 宿町遺跡 | 25. アモメ遺跡 | 35. 乗場古墳 |
| 6. 大坪・前田遺跡 | 16. 宮ノ前遺跡 | 26. 国伏遺跡 | 36. 福島城址 |
| 7. 中里遺跡 | 17. 二反田遺跡 | 27. 前古賀・五反田遺跡 | 37. 岩戸山古墳 |
| 8. 大坪遺跡 2 次調査 | 18. 深田遺跡 | 28. 川犬古墳群 | |
| 9. 打越遺跡 | 19. 京田遺跡 | 29. 新庄・六反田遺跡 | |
| 10. 袴田遺跡 | 20. 石町遺跡 | 30. ヒヤケ遺跡 | |

第2図 茶ノ木ノ本遺跡 周辺遺跡図[1/25,000]



第3図 茶ノ木ノ本遺跡 周辺遺跡発掘調査区域図(1/3,000)

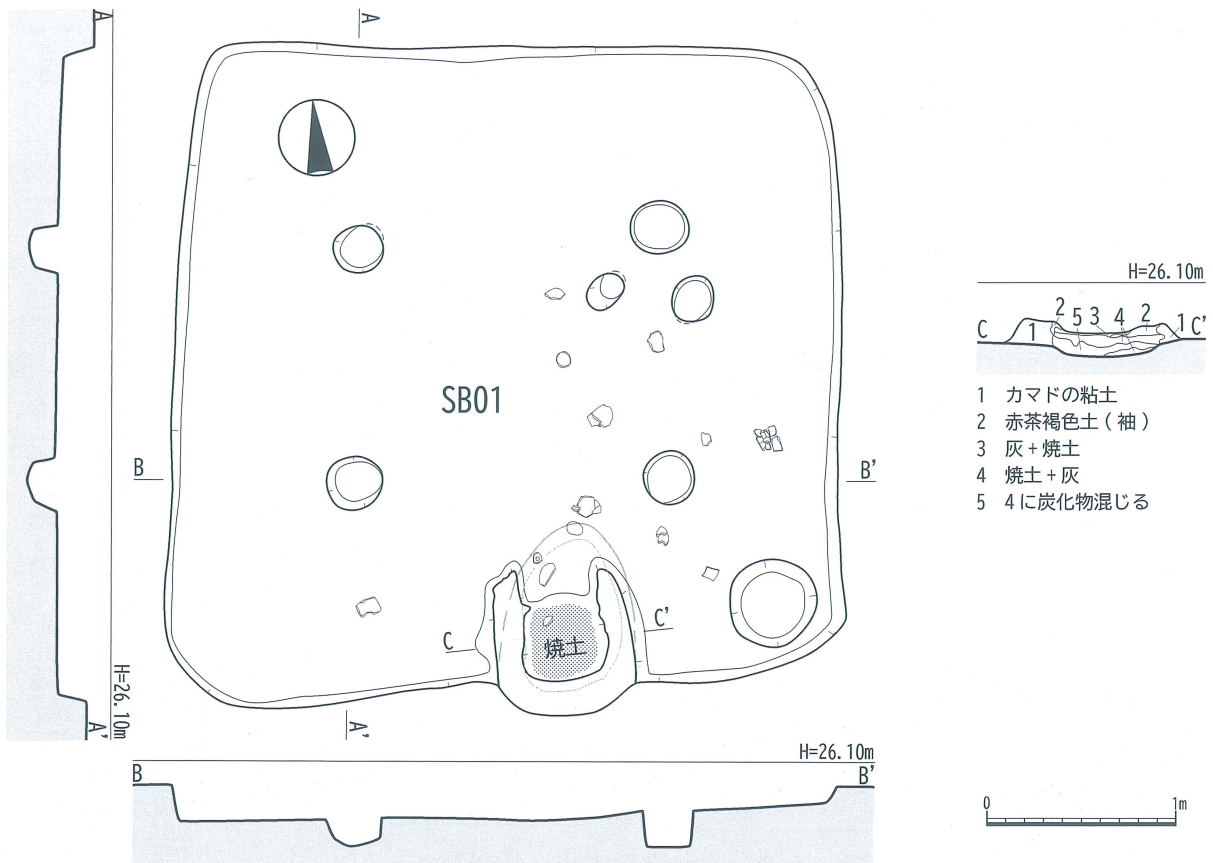


第4図 茶ノ木ノ本遺跡 遺構配置図[1/400]

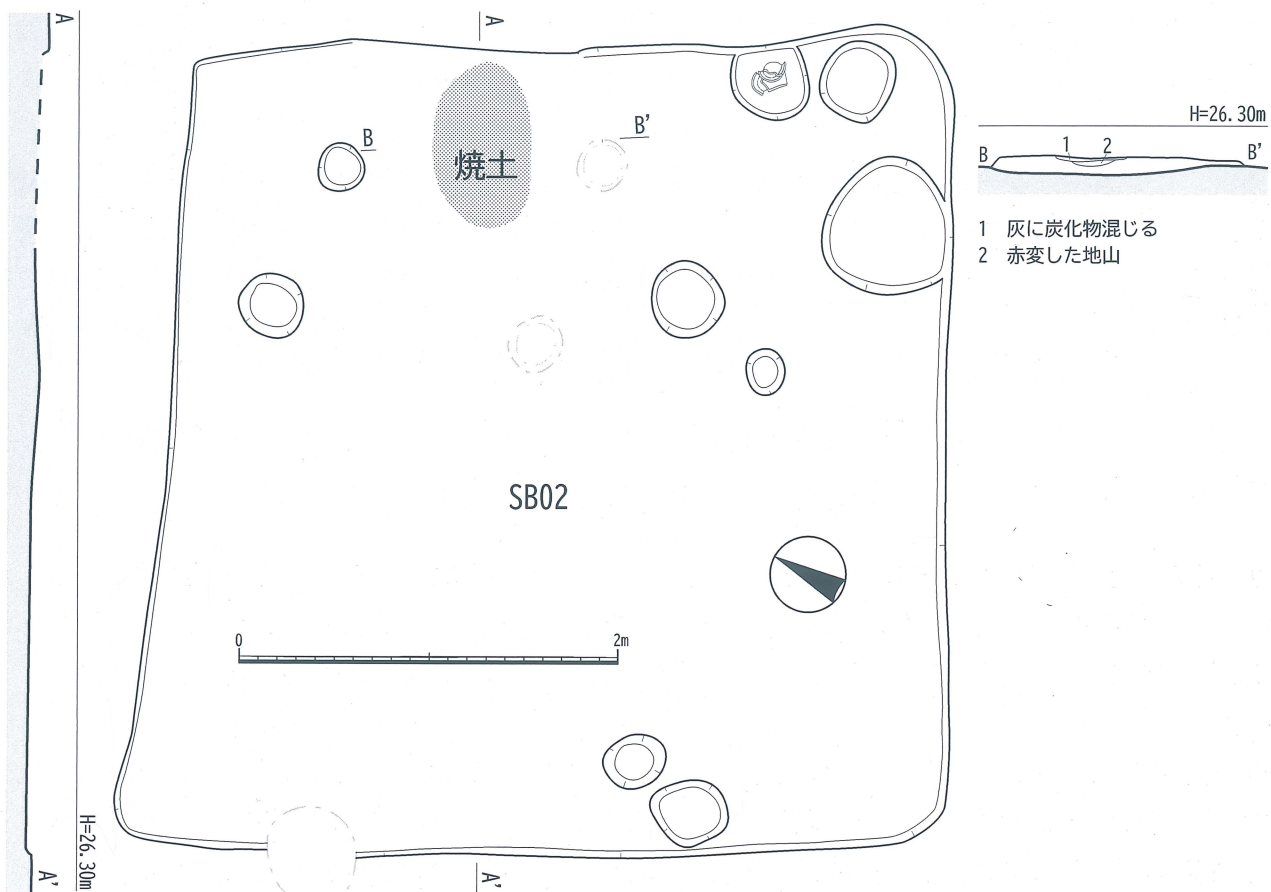
2 位置と環境

八女市は福岡県南部に位置する。平成18年に上陽町、平成22年に立花町・黒木町・星野村・矢部村と合併し、南は熊本県山鹿市、東は大分県日田市と接する福岡県下2位の広大な面積を有する自治体となった。北の耳納山地、東の釈迦岳、南の筑肥山地に囲まれ、矢部川水系の上流域から平野部が広がる中流域に当たる。

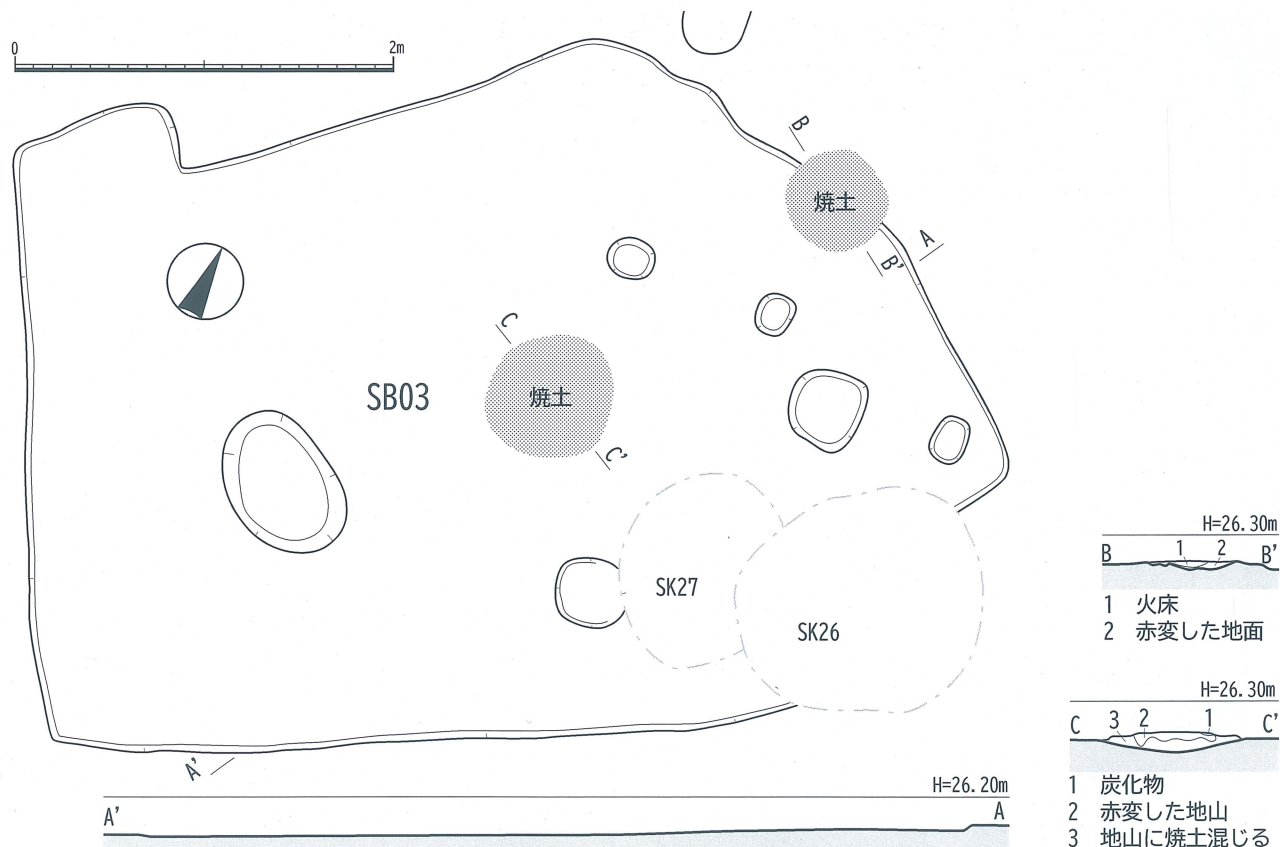
今回報告する茶ノ木ノ本遺跡は、酒井田地区に所在している。東側から南側に大きくカーブして流れる矢部川の氾濫によって形成された自然堤防上に位置しており、河川堆積による厚い砂や粘土、礫などの堆積の上に遺跡が展開している。当遺跡は弥生後期の甕棺墓から出土した銅鏡や銅剣、鉄戈などが調査当初から話題となっていたが、近年の過年度報告書の刊行により、弥生後期の甕棺出土例の資料が整いつつあ



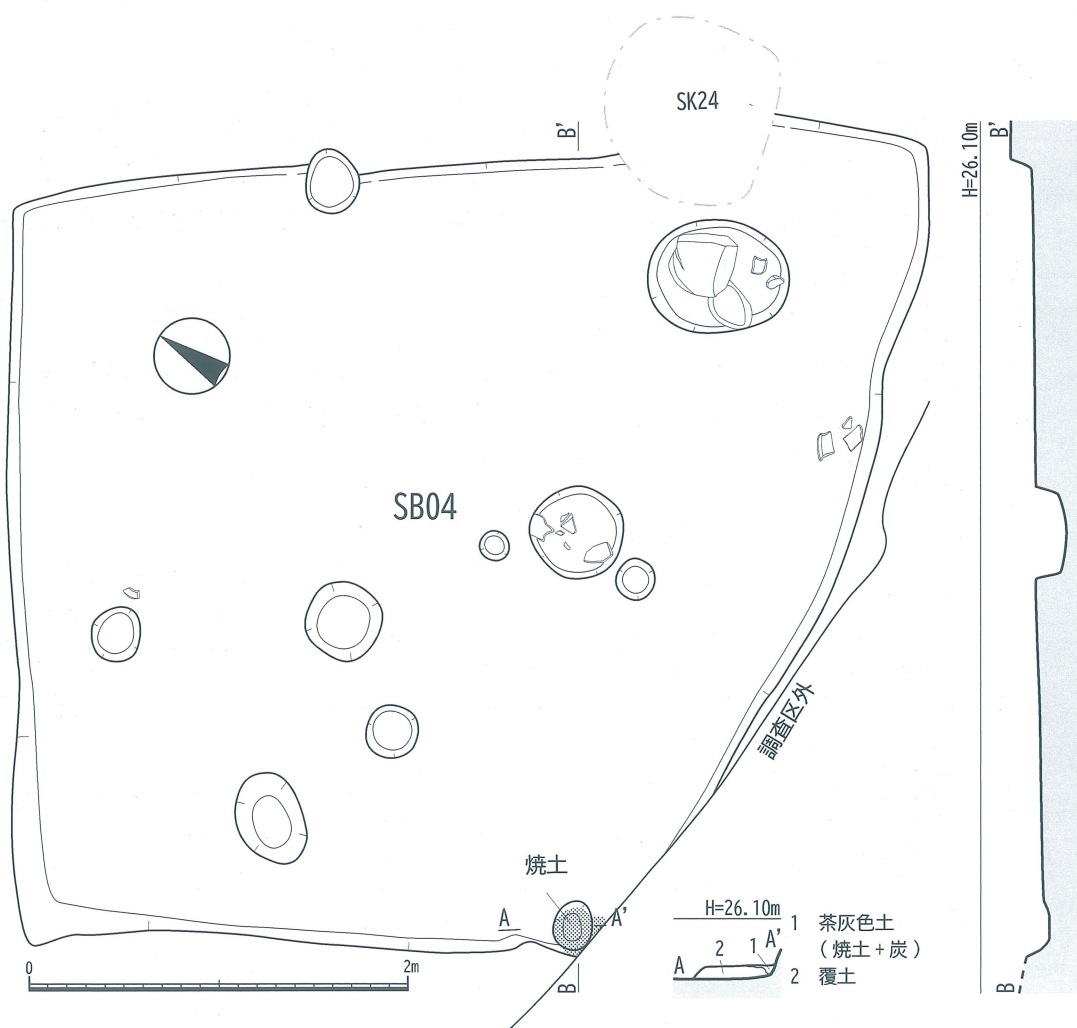
第5図 茶ノ木ノ本遺跡 1号竪穴建物【SB01】〔1/40〕



第6図 茶ノ木ノ本遺跡 2号竪穴建物【SB02】〔1/40〕



第7図 茶ノ木ノ本遺跡 3号竪穴状遺構【SB03】〔1/40〕



第8図 茶ノ木ノ本遺跡 4号竪穴状遺構【SB04】〔1/40〕

る。八女市内における主な後期甕棺墓は、亀ノ甲遺跡、辻の西遺跡、野田遺跡、松ノ本遺跡、そして今回の茶ノ木ノ本遺跡から矢部川の対岸にある旧立花町域の北山地区の曲松遺跡に出土例がある。

3 発掘調査の成果

(1) 竪穴建物

茶ノ木ノ本遺跡では竪穴建物として4番まで付番されている。いずれも調査区の西側中央から南西側にあり、うち少なくとも2基にカマドが設けられる。

1号竪穴建物【SB01】〔第5図 図版2〕

調査区南西側で検出された遺構で、方形の平面プランを呈し、南壁中央やや東寄りに確認できる焼土はカマドか。支柱は4カ所検出され、いずれも深さ約25cmである。出土遺物から7c頃と考えられる。出土遺物〔第9図1～3 図版11〕1は中央北寄り出土した土師器の高台付きの椀、2は中央南東より出土した土師器の坏、3はカマドの西側で出土した土師器の甕。

2号竪穴建物【SB02】〔第6図 図版2〕

調査区西側中央で検出された遺構で、方形の平面プランを呈し、北東中央やや北寄りに確認できる焼土はカマドか。明確な支柱は検出されなかった。出土遺物から7c頃と考えられる。

出土遺物〔第9図4～6 図版11〕4は遺構内北東壁東隅付近のピットから出土した須恵器のつまみ付きの蓋。5, 6は土師器の坏。

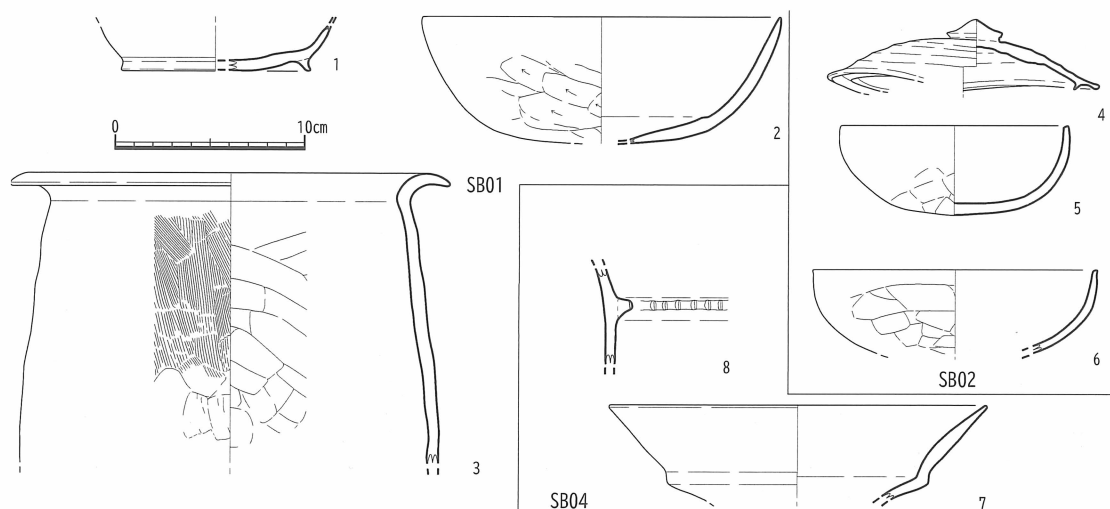
3号竪穴建物【SB03】〔第7図 図版2〕

2号竪穴建物の南西側にある不定形を呈する遺構である。26号土坑と27号土坑に切られる。支柱跡は確認できない。中央部北東寄り、北東壁中央付近に焼土が確認できる。竪穴建物か判断し難い為、竪穴状遺構とした。あるいは、2号竪穴建物(SB02)と主軸を等しくする方形の遺構と他の遺構が切り合っている可能性がある。出土遺物は無い。

4号竪穴建物【SB04】〔第8図 図版2〕

調査区の南西隅で検出された遺構で、24号土坑に切られる。支柱跡は確認できていない。

出土遺物〔第9図7, 8 図版11〕いずれも弥生土器で7は北西壁西寄り出土した高坏の坏部、8は刻み目のある突帯をもつ胴部片である。



第9図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 竪穴建物【SB】〔1/4〕

(2) 土坑

土坑は50番まで付番されている。途中で判断し直されて付番が甕棺墓のものと重複するなどしているものは甕棺墓として報告するが、それ以外にも石棺墓や土墳墓、そして甕棺墓の墓墳と考えられるものも散見される。しかし遺物の出土状況の精査がなされていない為詳細が不明で、いずれも土坑として報告する。主に遺物の出土があるもの、特筆すべき事項があるものののみ報告する。

1号土坑【SK01】〔第10図〕

調査区東側の溝状遺構(SD01)を切る。

出土遺物〔第49図1 図版12〕中心のピットから出土した土師器の甕。

10号土坑【SK10】〔第15図 図版3〕

1号溝状遺構(SD01)の西側端付近で検出された土坑で、東西方向に長い歪んだ円形の土坑である。出土遺物〔第49図2～4 図版12〕すべて弥生土器の甕で、2と3は短い口縁がくの字に開く。4は平底の底部片、いずれも弥生の後期頃。

13号土坑【SK13】〔第18図〕

石棺墓、あるいは土墳墓と考えられる。現地で作成された図面にレベルの情報が無く、未堀の可能性もある。規模は主軸N-32°-E、小口幅50～56cm、側壁長128～131cm程度と考えられる。

18号土坑【SK18】〔第22図〕

19号土坑(SK19)との切り合い関係が図面からははっきりしない。21号甕棺墓(K21)を切る。焼土の検出されたレベルが断面に記載されないで性格がわからない。

出土遺物〔第49図5～8 図版12〕5は三角口縁の直下に三角突帯が廻る甕の口縁部片。6は台付きの甕の底部。7は二重の突帯が廻る甕の体部片か。8は平底の底部片で、いずれも21号甕棺と切り合う箇所で出土している。

19号土坑【SK19】〔第22図〕

付番されていない遺構に北側で切られている。18号遺構との切り合い関係は不明。

出土遺物〔第49図9 図版12〕弥生中期の甕の口縁部。三角口縁直下に突帯が巡る。

20号土坑【SK20】〔第4図 図版3〕

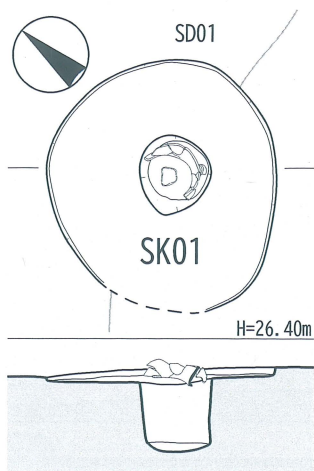
18, 19号土坑と21号甕棺墓を挟む形で南東側に確認できる土坑だが、平板図上でしか確認できず詳細は不明。

出土遺物〔第49図10～12 図版13〕10は弥生中期の甕の口縁部で変形三角口縁の口唇部を凹湾させ若干内傾気味。11は長頸壺の体部で、底部はレンズ状を呈し、四重に突帯が巡る。弥生後期。12は上げ底の甕の底部で弥生中期。

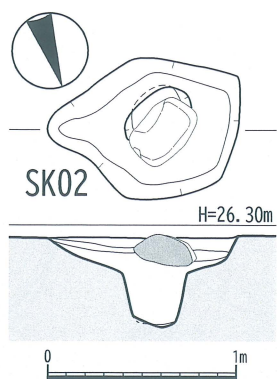
36号土坑【SK36】〔第36図〕

調査区西側の、1号土坑の南東側で検出された土坑で、やや隅丸方形を呈する。

出土遺物〔第49図13 図版13〕ミニチュア土器の鉢。



第10図 茶ノ木ノ本遺跡 1号土坑【SK01】〔1/40〕



第11図 茶ノ木ノ本遺跡 2号土坑【SK02】〔1/40〕



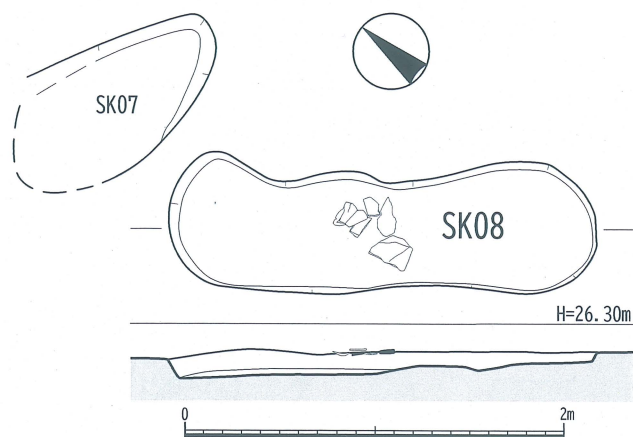
第12図 茶ノ木ノ本遺跡 4号土坑【SK04】〔1/40〕

(3) 石棺墓

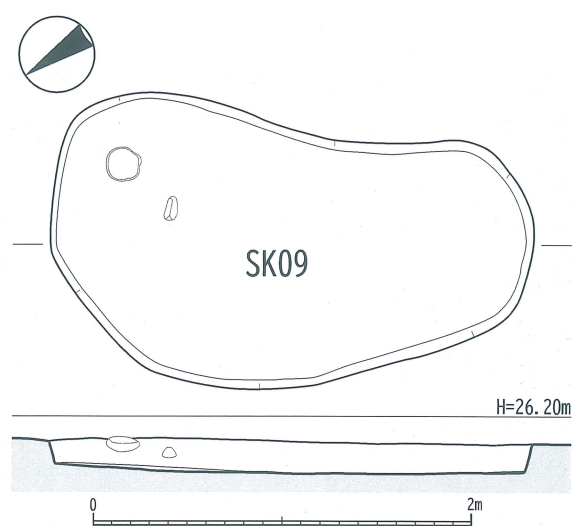
石棺墓は概報によると5基みづかったとあるが、図面上では6基確認できた。

1号石棺墓【ST01】〔第50図 図版5〕

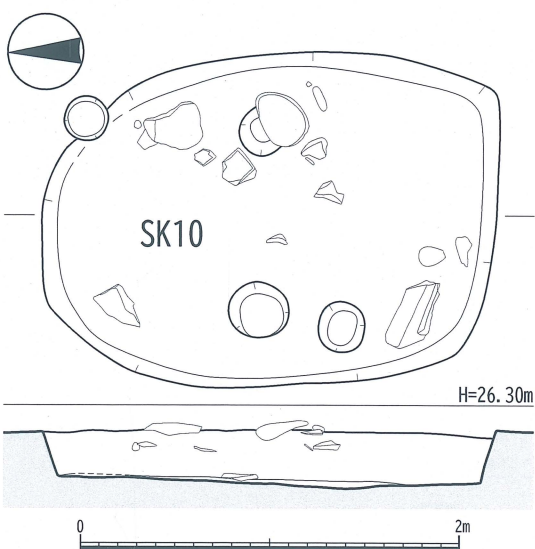
調査区の東側やや南寄りの遺構で、主軸をほぼ南北方向とし、 $N-87^{\circ}-W$ である。小口幅は西側が25.7cm、東側が27.2cm、側壁長は179.3～180.8cmである。蓋石から死床床面は17.9～



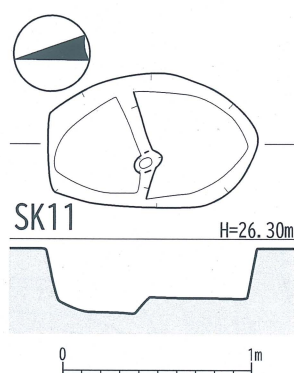
第13図 茶ノ木ノ本遺跡 7,8号土坑【SK07, 08】〔1/40〕



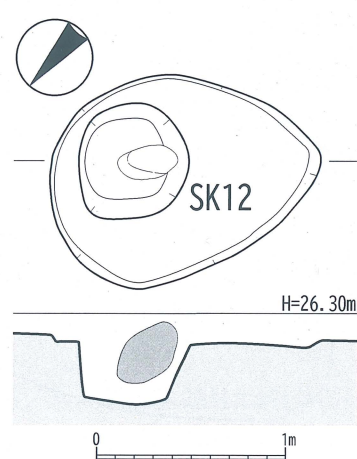
第14図 茶ノ木ノ本遺跡 9号土坑【SK09】〔1/40〕



第15図 茶ノ木ノ本遺跡 10号土坑【SK10】〔1/40〕



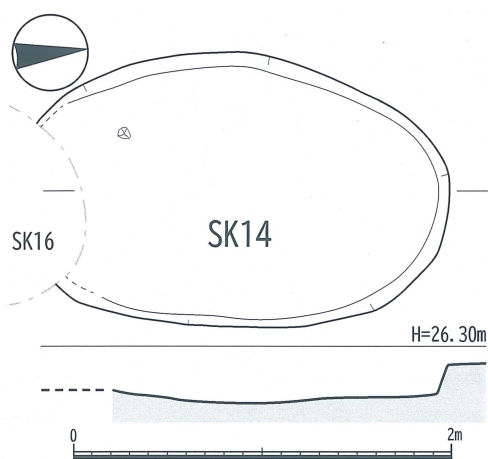
第16図 茶ノ木ノ本遺跡 11号土坑【SK11】〔1/40〕



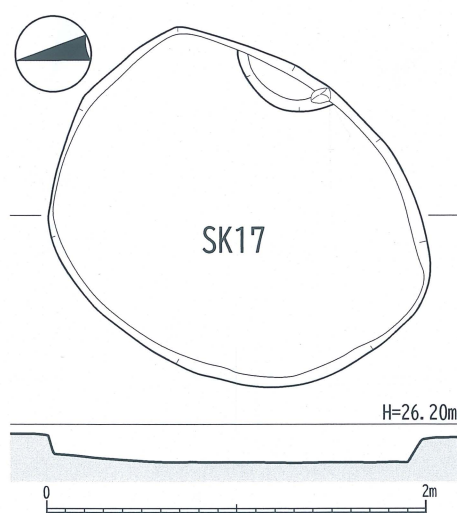
第17図 茶ノ木ノ本遺跡 12号土坑【SK12】〔1/40〕



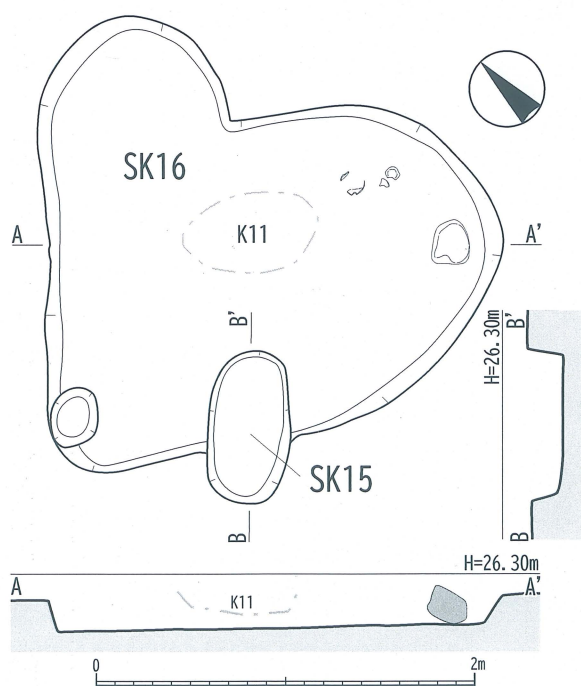
第18図 茶ノ木ノ本遺跡 13号
土坑【SK13】〔1/40〕



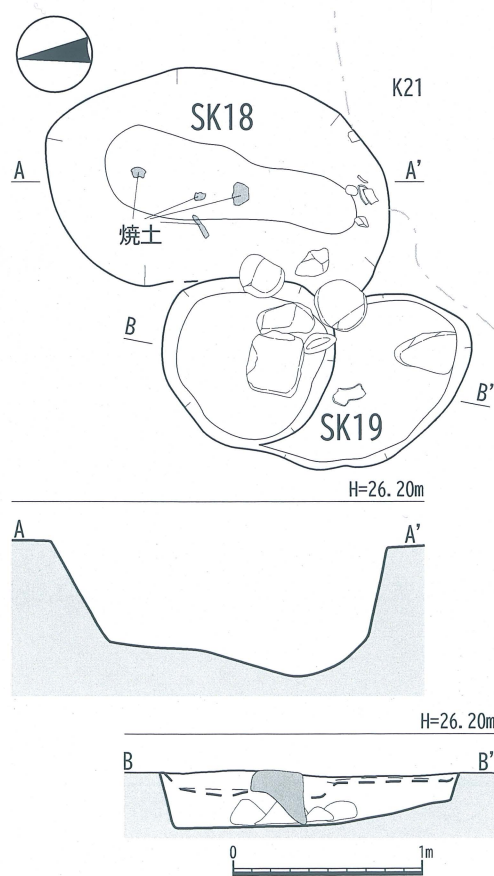
第19図 茶ノ木ノ本遺跡 14号土坑【SK14】
〔1/40〕



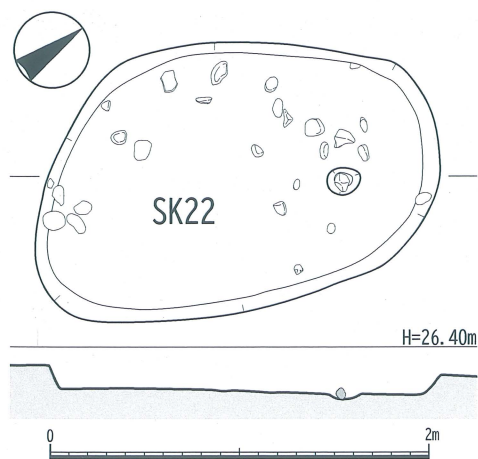
第21図 茶ノ木ノ本遺跡 17号土坑【SK17】
〔1/40〕



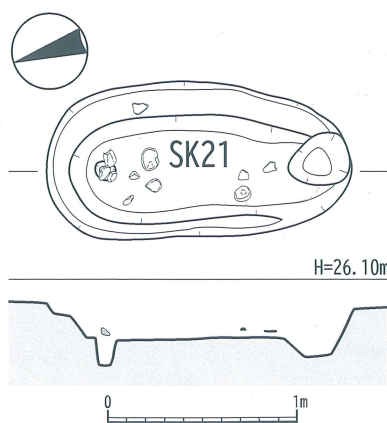
第20図 茶ノ木ノ本遺跡 16号土坑【SK15・16】〔1/40〕



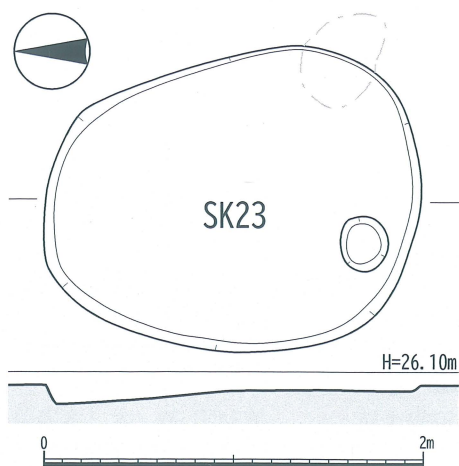
第22図 茶ノ木ノ本遺跡 18, 19号
土坑【SK18・19】〔1/40〕



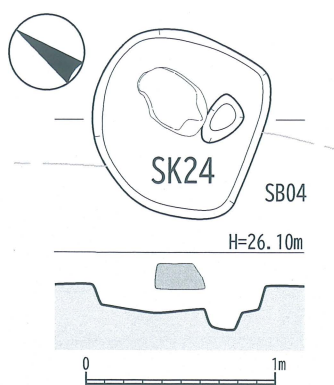
第24図 茶ノ木ノ本遺跡 22号土坑【SK22】
〔1/40〕



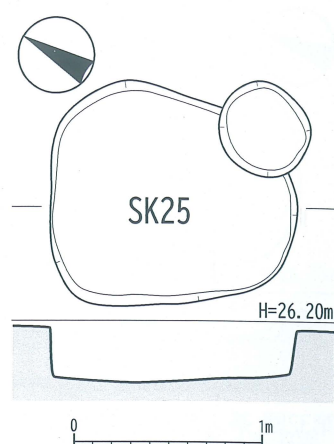
第23図 茶ノ木ノ本遺跡 21号
土坑【SK21】〔1/40〕



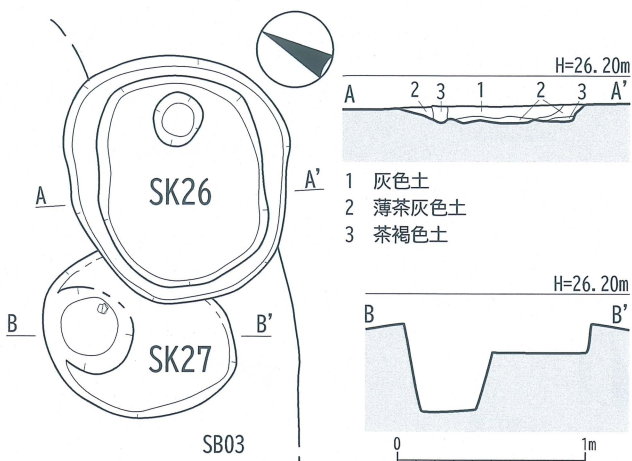
第25図 茶ノ木ノ本遺跡 23号土坑【SK23】
〔1/40〕



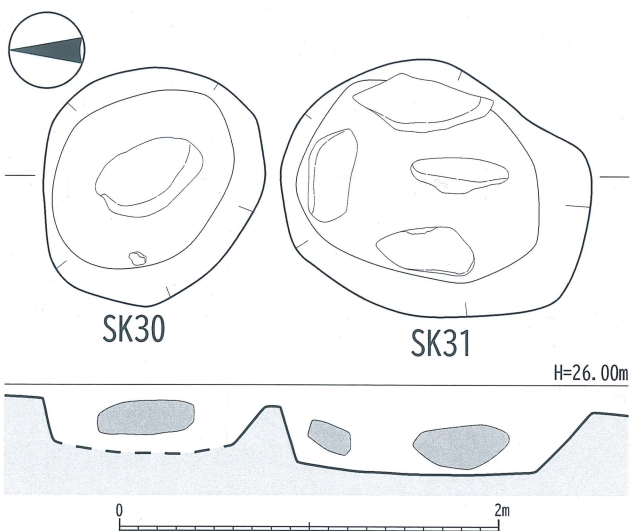
第26図 茶ノ木ノ本遺跡 24号土坑
【SK24】〔1/40〕



第27図 茶ノ木ノ本遺跡 25号
土坑【SK25】〔1/40〕



第28図 茶ノ木ノ本遺跡 26, 27土坑【SK26, 27】〔1/40〕

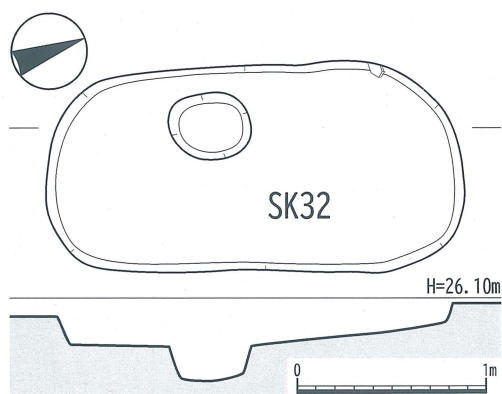


第31図 茶ノ木ノ本遺跡 30, 31土坑【SK30, 31】〔1/40〕

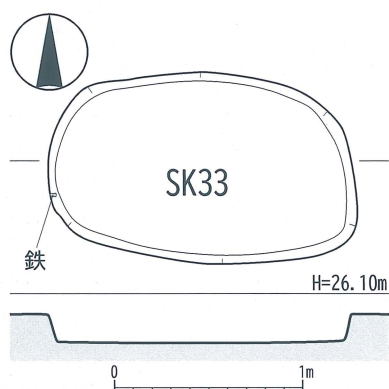


第29図 茶ノ木ノ本遺跡 28号
土坑【SK28】〔1/40〕

第30図 茶ノ木ノ本遺跡 29号土坑【SK29】
〔1/40〕



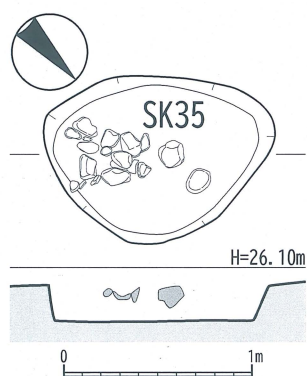
第32図 茶ノ木ノ本遺跡 32号土坑【SK32】
〔1/40〕



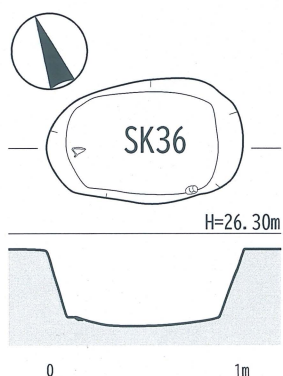
第33図 茶ノ木ノ本遺跡 33号土坑
【SK33】〔1/40〕



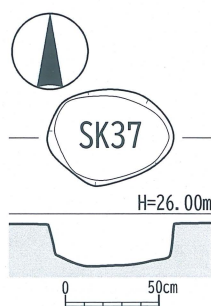
第34図 茶ノ木ノ本遺跡 34号土坑【SK34】〔1/40〕



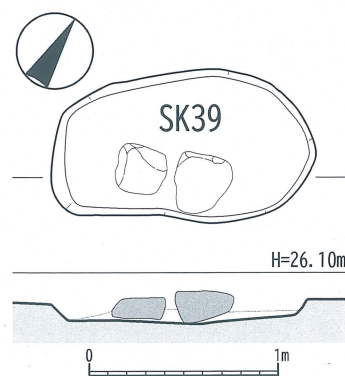
第35図 茶ノ木ノ本遺跡 35号土坑【SK35】〔1/40〕



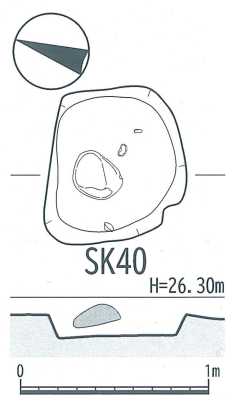
第36図 茶ノ木ノ本遺跡 36号土坑【SK36】〔1/40〕



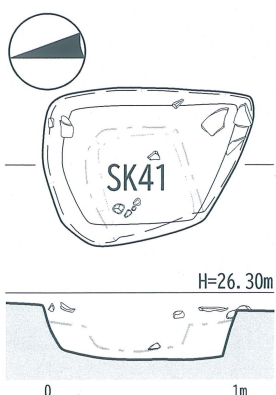
第37図 茶ノ木ノ本遺跡 37号土坑【SK37】〔1/40〕



第38図 茶ノ木ノ本遺跡 39号土坑【SK39】〔1/40〕



第39図 茶ノ木ノ本遺跡 40号土坑【SK40】〔1/40〕



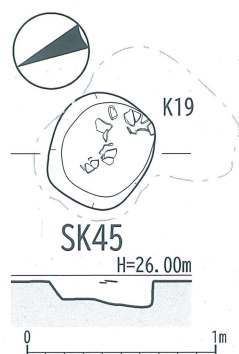
第40図 茶ノ木ノ本遺跡 41号土坑【SK41】〔1/40〕



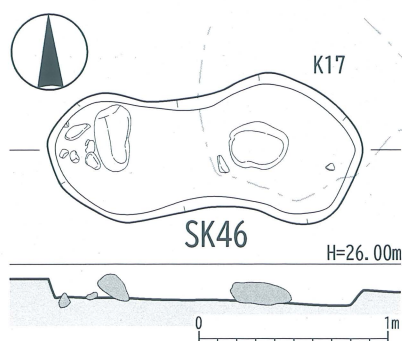
第41図 茶ノ木ノ本遺跡 42号土坑【SK42】〔1/40〕



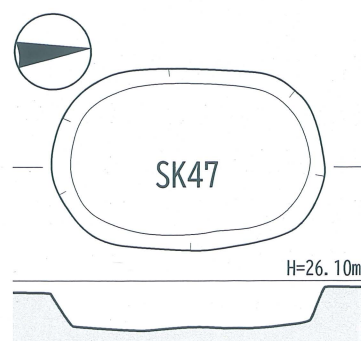
第42図 茶ノ木ノ本遺跡 43号土坑【SK43】〔1/40〕



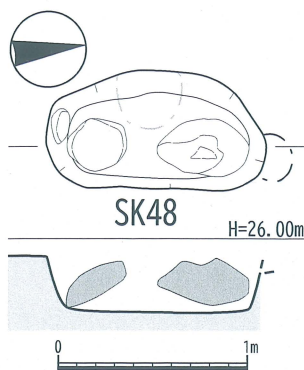
第43図 茶ノ木ノ本遺跡 45号土坑【SK45】〔1/40〕



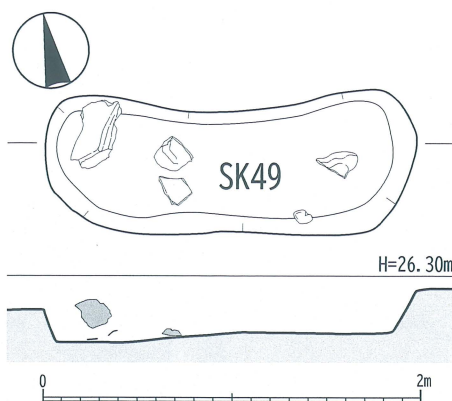
第44図 茶ノ木ノ本遺跡 46号土坑【SK46】
〔1/40〕



第45図 茶ノ木ノ本遺跡 47号土坑
【SK47】〔1/40〕



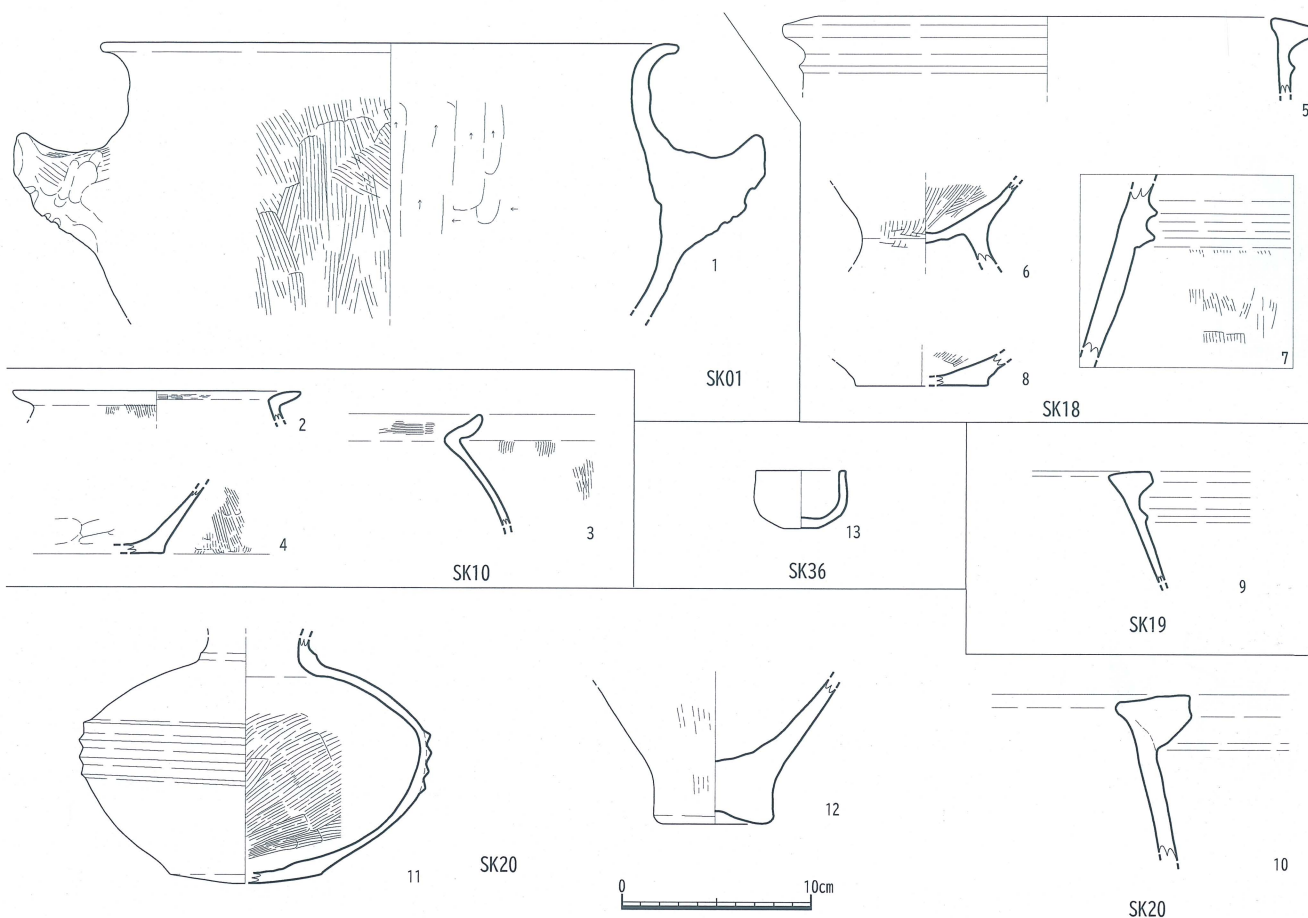
第46図 茶ノ木ノ本遺跡 48号土坑
【SK48】〔1/40〕



第47図 茶ノ木ノ本遺跡 49号土坑【SK49】
〔1/40〕



第48図 茶ノ木ノ本遺跡
50号土坑【SK50】〔1/40〕



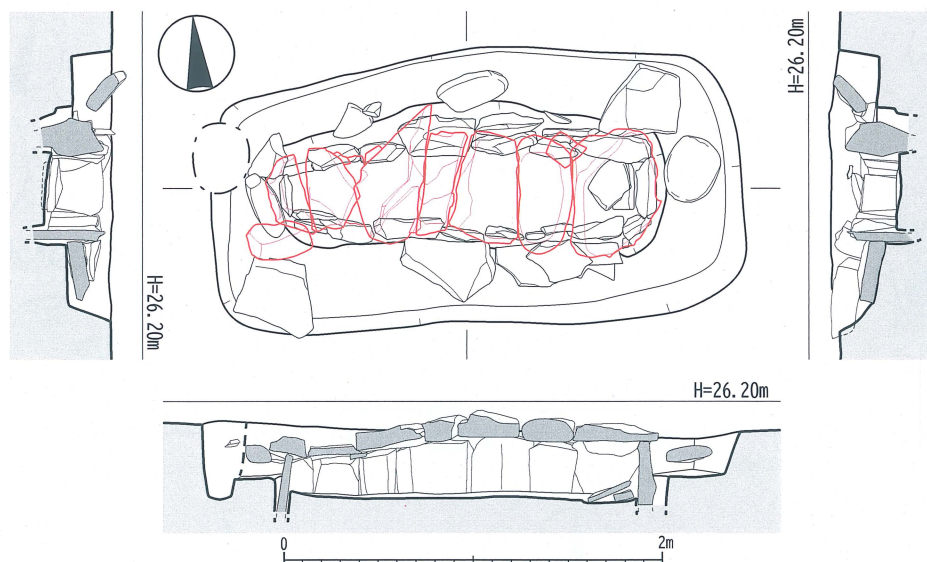
第49図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 土坑【SK】〔1/4〕

30.6cmを測る。西側に向かうにつれ幅がやや窄まり、東側を被葬者の頭位としたとすれば、東側の死床上に確認できる板石は枕石と考えられる。

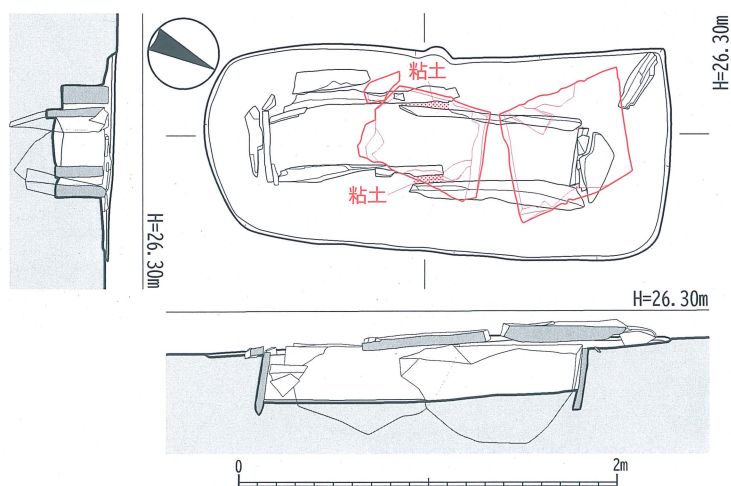
出土遺物〔第56図1 図版13〕1は須恵器の椀の底部。7c頃か。石棺の床面で出土。

2号石棺墓【ST02】〔第51図 図版5〕

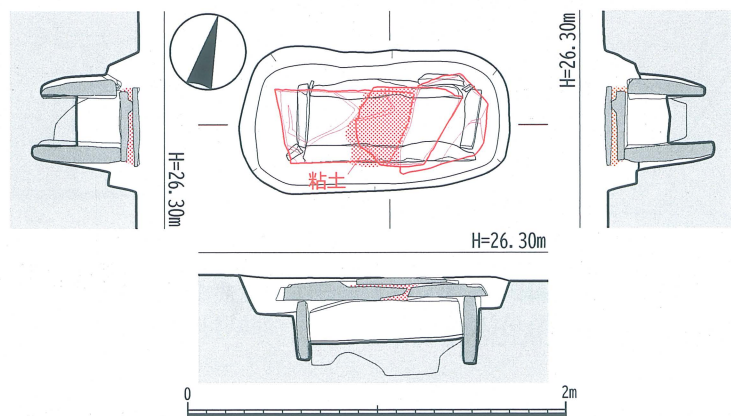
1号石棺墓の西側で検出された石棺墓で、主軸はN-24°-W、小口幅は22.9~27.8cm、側石は両側とも2枚で構成され、間を粘土で閉塞する。側壁長は161.7cm~156.1cm、蓋石から死床床面までの高さは23.4~28.2cm。出土遺物は無い。



第50図 茶ノ木ノ本遺跡 1号石棺墓【ST01】〔1/40〕



第51図 茶ノ木ノ本遺跡 2号石棺墓【ST02】〔1/40〕



第52図 茶ノ木ノ本遺跡 3号石棺墓【ST03】〔1/40〕

3号石棺墓【ST03】〔第52図 図版5〕

2号石棺墓の北側で検出された石棺墓で、3枚ある石蓋のうち、中央の石蓋が上方に重なり、下方の石蓋との間を粘土で閉塞する。主軸はN-75°-W、小口幅は22.7~26.1cm、側石は両側とも1枚石で側壁長は81.1~81.4cmと今回検出された石棺墓の中で最も短い。蓋石から死床床面の高さは21.6~22.2cmを測

る。出土遺物は無い。

4号石棺墓【ST04】〔第53図 図版5〕

調査区東側の1~3号石棺墓の1群から10mほど西に4号、6号石棺墓が検出された。主軸はほぼ東西方向でN-89°-W、側石に傾きが見られるが、小口幅は19.7~21.5cm、側壁長は105.0~111.1cm、蓋石から死床床面の高さは17.5~22.9cm程度である。側壁は両側とも2枚で北側の側石間に粘土による閉塞を確認した。出土遺物は無い。

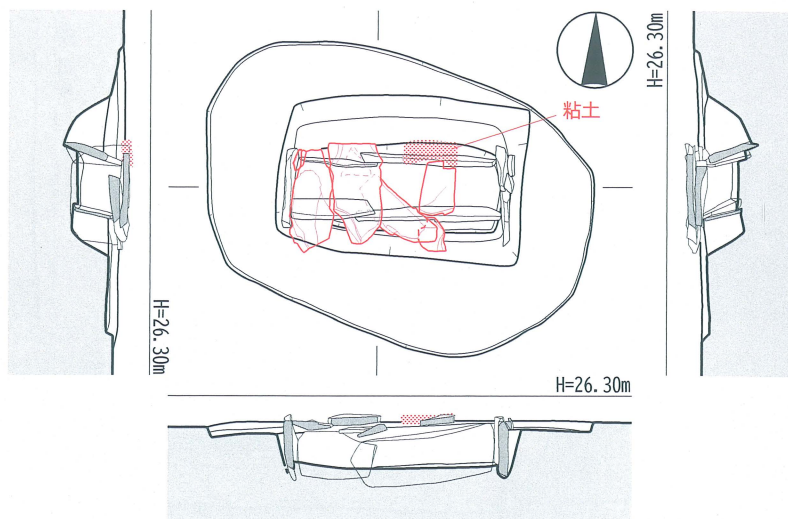
5号石棺墓【ST05】〔第54図 図版6〕

調査区の南東隅付近で検出された石棺墓で、主軸はほぼ東西方向でN-80°-W、側石、及び東側の小口石が内側に傾いているが、小口幅は26.9~28.7、側壁長は177.8~181.1cm程度と考えられる。蓋石から死床床面までの高さは22.1~35.0cmと今回検出された石棺墓中で最も規模が大きい。蓋石が粘土で閉塞されている。側石は両側とも4枚で構成されているが、東側から大きな側石を選択しており、被葬者は東側に頭位を向けていると考えられる。

出土遺物[第56図2, 3 図版13]いずれも弥生後期の高坏の口縁である。

6号石棺墓【ST06】[第55図 図版6]

4号石棺の北側で検出された石棺墓で主軸はN-38°-W、側壁長は172.6～179.1cm、蓋石から死床床面までの高さは21.9～26.6で、南東側が広がっている。



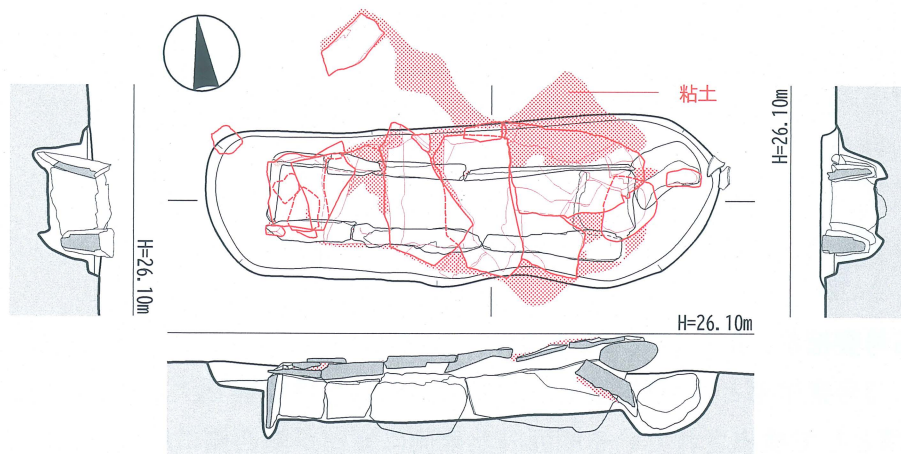
第53図 茶ノ木ノ本遺跡 4号石棺墓【ST04】〔1/40〕

(4) 甕棺墓

甕棺墓は22番まで付番されており、調査区の南東域に分布している。削平が著しく1次墓墳が明確に検出できるものはない。

1号甕棺墓【K01】[第57図 図版6]

調査区の東側中央付近で検出される。甕棺埋設のための墓墳を西側に掘って埋置し、角度は46°である。主軸はN-86°-E。



第54図 茶ノ木ノ本遺跡 5号石棺墓【ST05】〔1/40〕

出土遺物[第79図 図版14]下

甕で、削平を受けているため上甕の存在は不明である。く

の字に直線的に開く口縁を持つ。長胴型で、頸部と胴部最大径よりやや上部にコ字型の突帯が廻る。内外面共にハケメは胴部の突帯上部のみ確認できる。底部はレンズ状を呈する。

2号甕棺墓【K02】[第58図]

1号甕棺墓の西側で検出され、甕の口縁が墓墳とおもわれる中から出土している。

出土遺物[第80図 図版14]甕の口縁～体部上半で、くの字にわずかに外反する口縁をもつ。頸部よりわずかに下にコ字型の突帯が廻る。調整は内外共にハケメ。

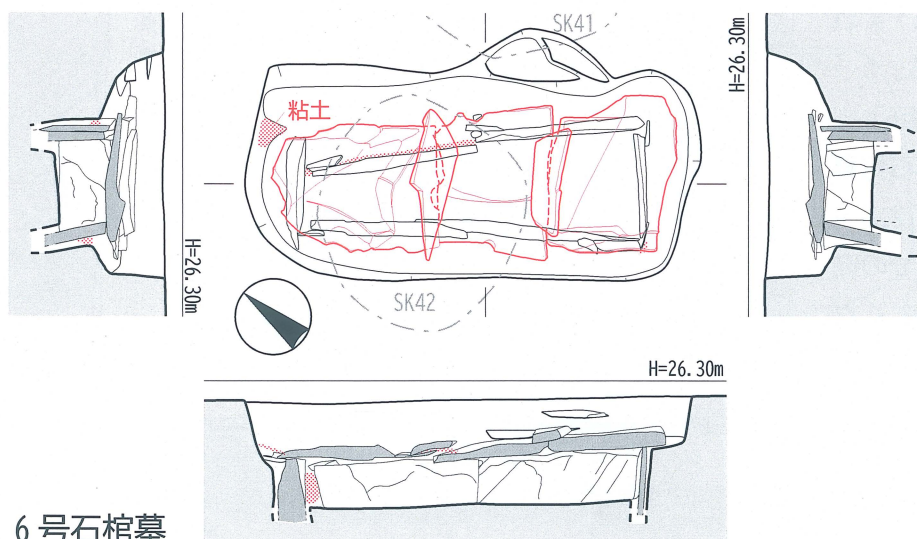
3号甕棺墓【K03】[第59図 図版6]

1号甕棺の南西で検出された甕棺墓で、墓墳として検出された範囲の南西側に甕棺が北東に底部を向け埋置されており、主軸はN-56°-E。鉄戈と銅鏡が出土した。

出土遺物[第81図1, 2 図版14]1は甕棺の上甕で口縁を欠く。やや長胴化がすすみつつある卵形の器形である。胴部最大径付近にコ字型の突帯が廻り、底部は平底である。内外共に調整はハケメである。

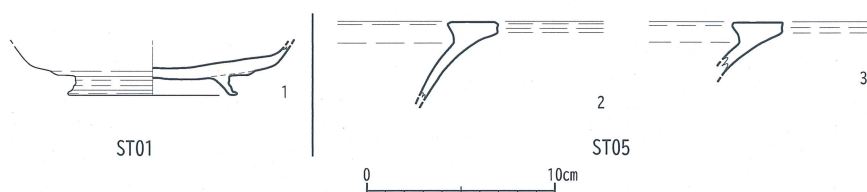
2は下甕で、上甕より長胴化が進んでいる印象の器形である。くの字に外反する短い口縁を持つ、頸部より少し下と胴部最大径より下にコ字型の突帯が廻る。底部は平底で、調整は内外共にハケメ。

[第82図 図版7 図版20]甕棺上部から鉄戈が出土している。甕棺は北側に破片が広がる形で削平を受けており、鉄戈が当初置かれてあった位置から動いている可能性は十分考えられるが、図面と写真か



6号石棺墓

第55図 茶ノ木ノ本遺跡 6号石棺墓【ST06】〔1/40〕



第56図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 石棺【ST】〔1/4〕

ら、出土時には甕棺の上部外面で鋒を下甕の底部に向け水平の状態を確認されたようである。全長30.8cm、関の端部を欠き、残存幅7.4cm。[第83図 図版7 図版20]上甕の下から破鏡(後漢鏡)が出土した。復元径は11.2cm。写真と図面によると4片のうち2片は鏡面を上、2片は下にしたかたちで出土している。

4号甕棺墓【K04】[第60図 図版7]

6号甕棺墓と8号甕棺墓の間に検出された甕棺墓で、大きく削平を受けている。

出土遺物[第84図1 図版15]甕棺の胴部下部～底部片で、胴部下よりにコの字型の突帯が廻り、底部は平底。

5号甕棺墓【K05】[第61図 図版7]

3号甕棺墓と7号甕棺墓との間で検出された甕棺墓で、上甕は無く、石蓋により閉塞されている。墓墳として検出されている範囲の北東側に甕棺が南西側に底部を向けて埋置されており、傾斜角は47°、主軸はN-59°-Eである。甕棺の西側で細型銅剣が出土している。出土時の状況の写真、及び土層図が残されおらず詳細は不明だが、調査時に作成された断面図を確認すると、甕棺を埋置した南南西側に確認できる2次墓墳の端部よりさらに西側を掘り下げた場所で銅剣は出土している。

出土遺物[第84図2, 3 図版15]石蓋により閉塞されているので上甕は無いが、甕棺以外の土器が出土している。2のくの字に直線的に開く口縁をもつ甕の口縁部片で、頸部にコの字型の突帯が廻る。3は甕棺で、くの字に開く短い口縁は外反する。長胴型を呈し、頸部と胴部最大幅より下にコの字型の突帯が廻る。底部は平底である。内外共にハケメ。

[第85図 図版20]細型銅剣で、調査時に書かれた図面から、甕棺の西側に散在する石の下から出土したようである。刃方から元部側を欠く。残存長24.0cm、最大幅2.6cm、厚さ2.5mm

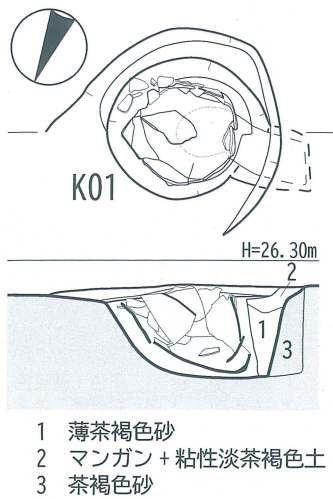
6号甕棺墓【K06】[第62図 図版8]

3号石棺墓の北側で検出された甕棺墓で、傾斜角は37°。東側を石蓋で閉塞し、主軸はN-87°-Eである。

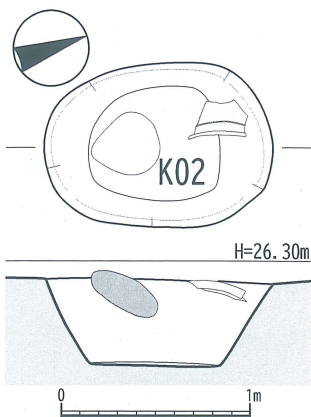
出土遺物[第84図4 図版15]下甕で石蓋で閉塞するため上甕は無い。卵形の器形でくの字に直線的に開く口縁をもち、頸部と胴部最大径よりわずかに上にコの字型の突帯が廻る。底部は平底で、調整は内外面ハケメ。

7号甕棺墓【K07】[第63図 図版8]

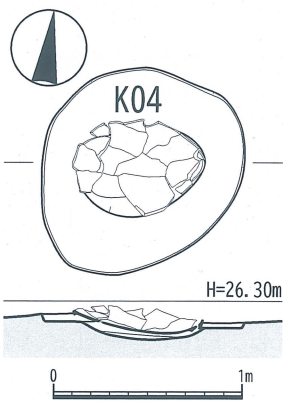
8号甕棺との切り合い関係が図面では判別できず、前後関係は不明。主軸はN-14°-Wで傾斜角は36°。



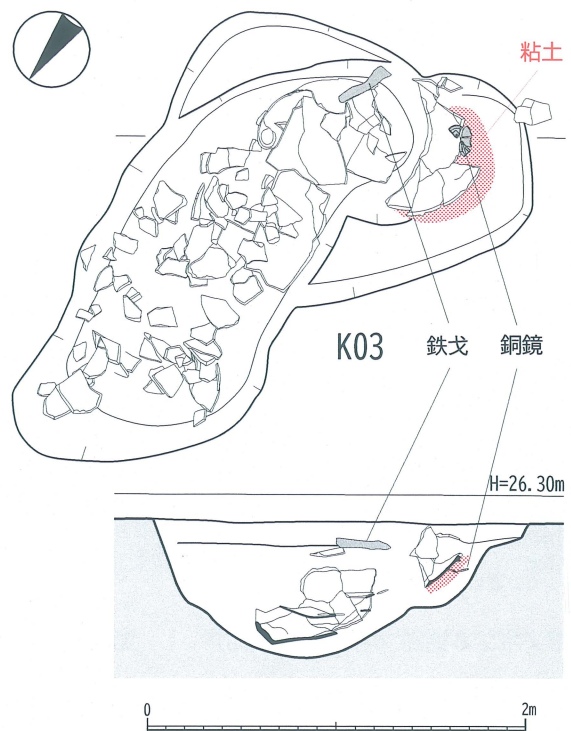
第57図 茶ノ木ノ本遺跡
1号甕棺墓【K01】〔1/40〕



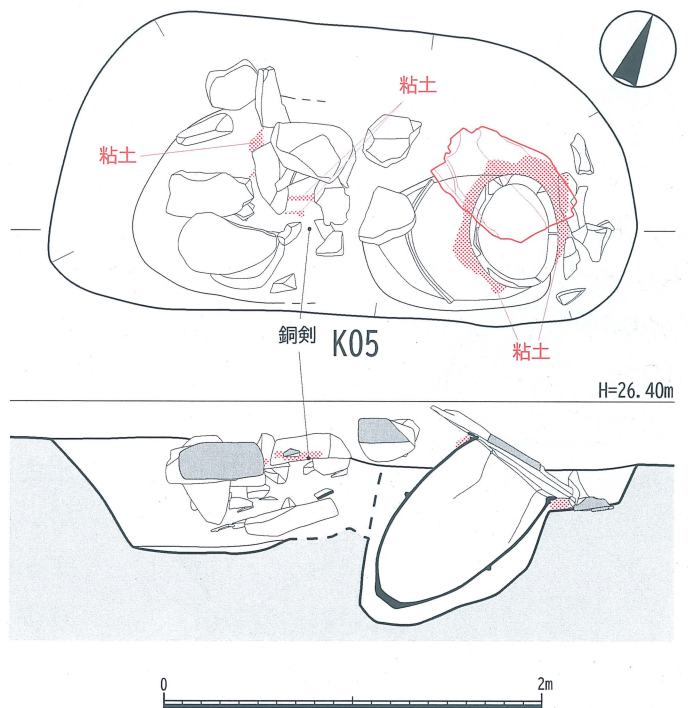
第58図 茶ノ木ノ本遺跡
2号甕棺墓【K02】〔1/40〕



第60図 茶ノ木ノ本遺跡
4号甕棺墓【K04】〔1/40〕



第59図 茶ノ木ノ本遺跡 3号甕棺墓【K03】〔1/40〕

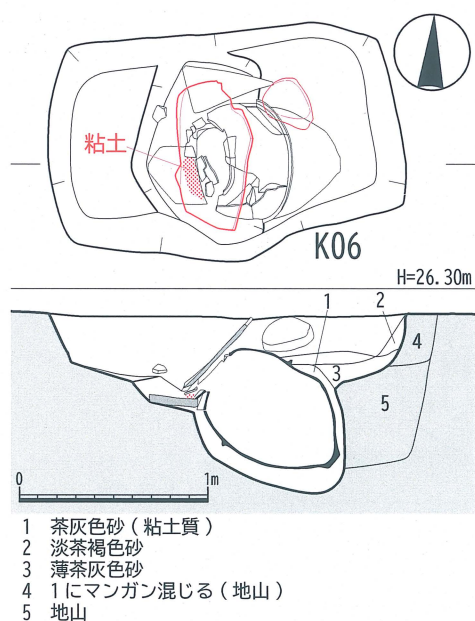


第61図 茶ノ木ノ本遺跡 5号甕棺墓【K05】〔1/40〕

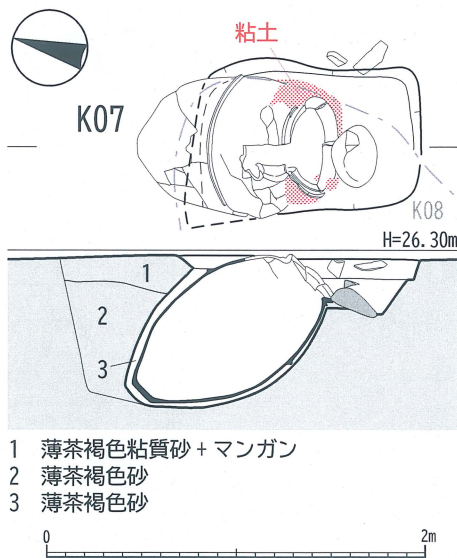
出土遺物〔第86図1 図版15〕1は甕棺で、やや長胴化が進んだ卵形の器形で、くの字に開き外反する短い口縁をもつ。頸部と胴部最大径より少し上にコの字型の突帯が廻り、底部は平底である。調整は内外面共にハケメ。

8号甕棺墓【K08】〔第64図 図版8〕

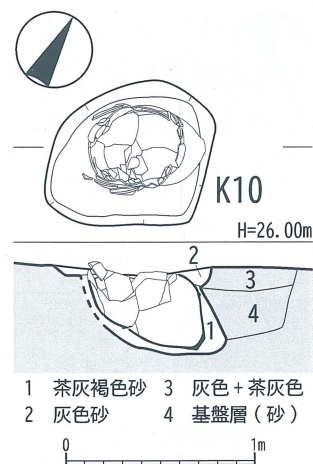
西側で4号不明遺構に切られる。東側で7号甕棺墓と切り合い関係にあるが図面からは前後関係は不明。東側に向けて埋め入れられ、主軸はN-80°-E、傾斜角は45°である。



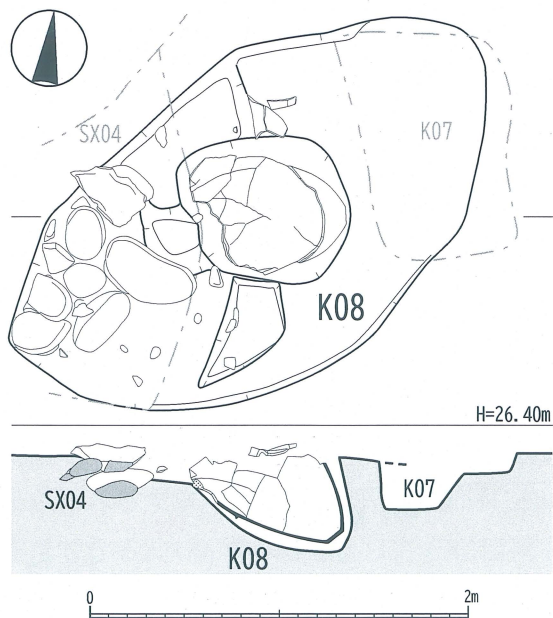
第62図 茶ノ木ノ本遺跡 6号甕棺墓【K06】
〔1/40〕



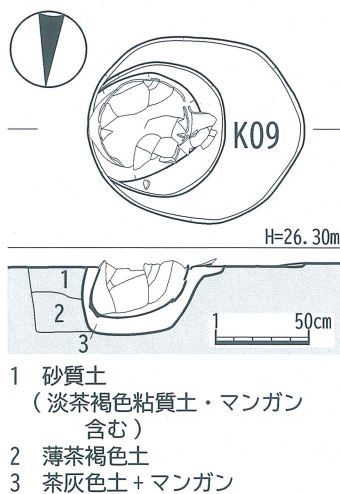
第63図 茶ノ木ノ本遺跡 7号甕棺墓【K07】
〔1/40〕



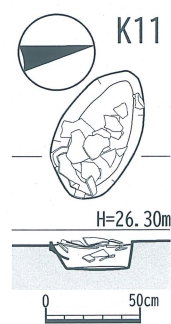
第66図 茶ノ木ノ本遺跡 10号
甕棺墓【K10】〔1/40〕



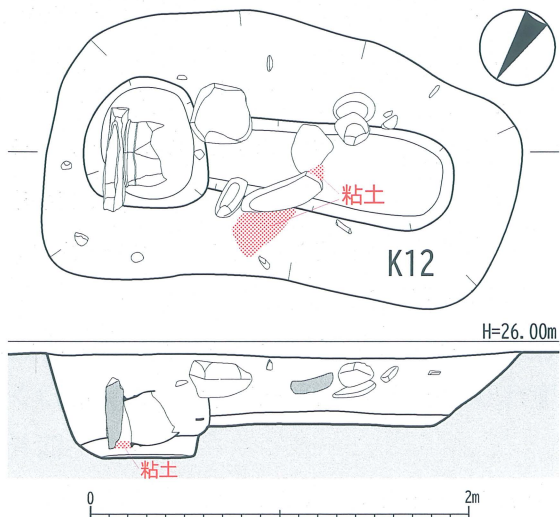
第64図 茶ノ木ノ本遺跡 8号甕棺墓【K08】〔1/40〕



第65図 茶ノ木ノ本遺跡 9号甕棺墓
【K09】〔1/40〕



第67図 茶ノ木ノ本遺跡
11号甕棺墓【K11】
〔1/40〕



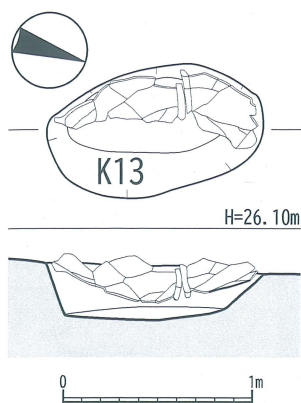
第68図 茶ノ木ノ本遺跡 12号甕棺墓【K12】〔1/40〕

出土遺物〔第86図2 図版16〕甕棺で、上甕は見つかっていない。やや長胴気味の器形で、くの字に開き、わずかに外反する短い口縁をもち、頸部と胴部中程より少し上にコの字型の突帯が廻る。底部は平底で、調整は内外共にハケメ。

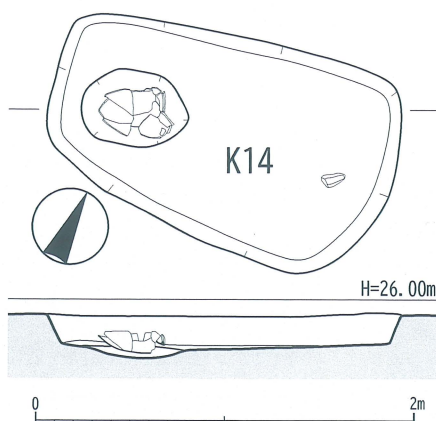
9号甕棺墓【K09】〔第65図〕

8号甕棺の西側で検出され、東側に埋め入れられ、主軸はN-83°-Eで、傾斜角は38°である。

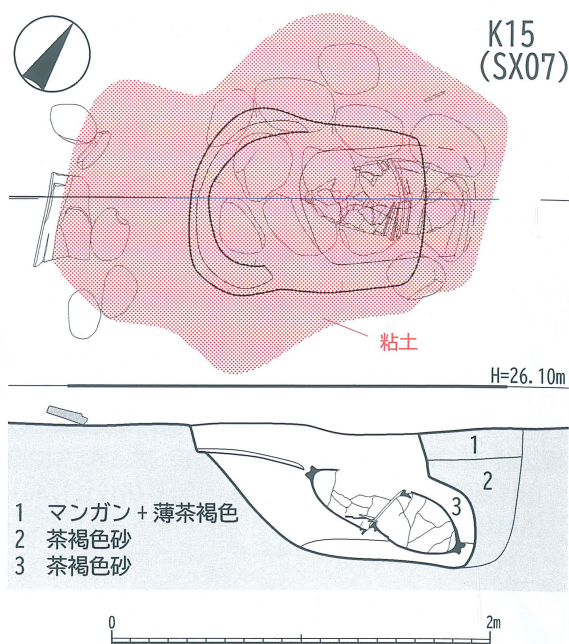
出土遺物〔第86図3 図版16〕3は甕棺で体部上方を欠く。卵形の器形で、くの字に外反して開く口縁で、胴部最大径付近に刻み目をもつ突帯が廻る。底部はレンズ状で調整は内外共にハケメ。〔第87図 図版21 図版22〕120個のガラス玉が出土しているが、出土状



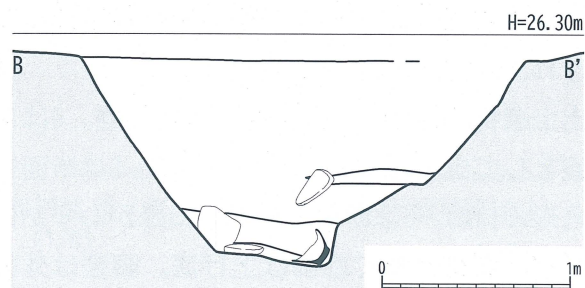
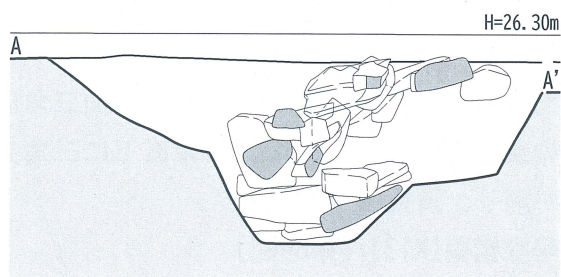
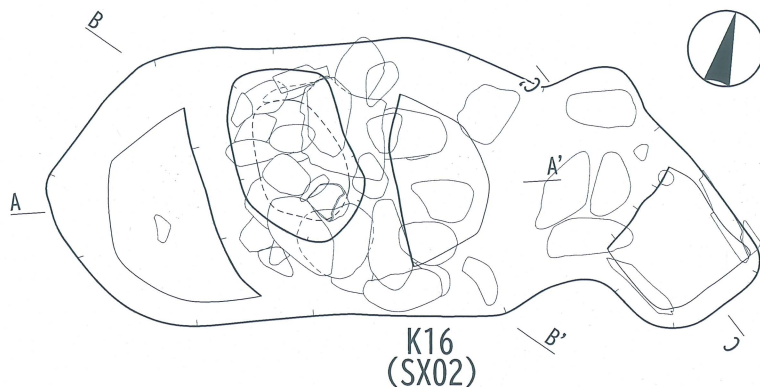
第69図 茶ノ木ノ本遺跡
13号甕棺墓【K13】
〔1/40〕



第70図 茶ノ木ノ本遺跡 14号甕棺墓
【K14】〔1/40〕

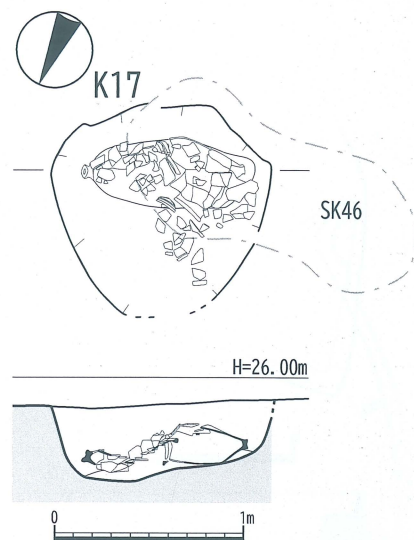


第71図 茶ノ木ノ本遺跡 15号甕棺墓【K15】
〔1/40〕



第72図 茶ノ木ノ本遺跡 16号甕棺墓【K16】〔1/40〕

出土遺物〔第88図1, 2 図版16〕1は甕棺の上甕で胴部と底部が見つかった。胴部最大径付近にコの字型の突帯が廻り、底部はレンズ状、調整は内外共にハケメ。2は下甕で、胴部上半は大きく窄まる。くの字に外反しながら開く口縁をもつ。口縁下に三角突帯、胴部最大径下に2条の刻み目のあるコの字型突帯が廻る。底部は平底だが、丸底化の傾向が見える。調整は内外共にハケメ。

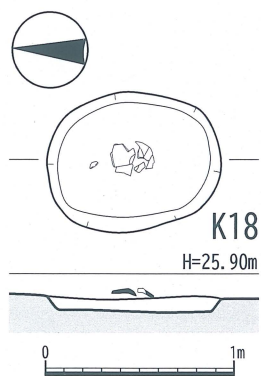


第73図 茶ノ木ノ本遺跡 17号甕棺墓
【K17】〔1/40〕

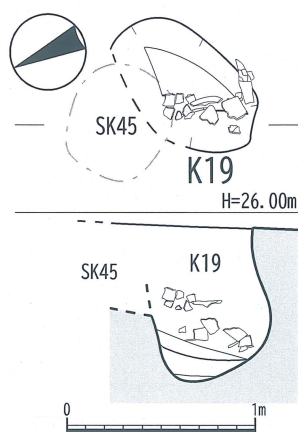
況などは記録が残っていないため不明。

10号甕棺墓【K10】〔第66図 図版8〕

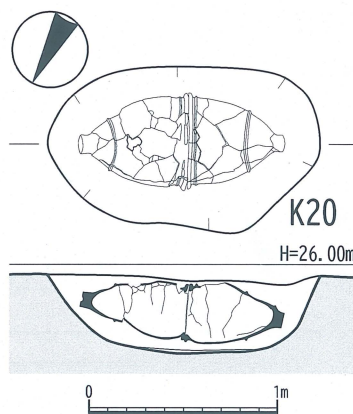
調査区南側端中央からやや東寄り付近で検出された甕棺墓で、北東に底部を向けて甕棺を埋置し主軸はN-59°-E、傾斜角は43°である。



第74図 茶ノ木ノ本遺跡
18号甕棺墓
【K18(SK38)】〔1/40〕



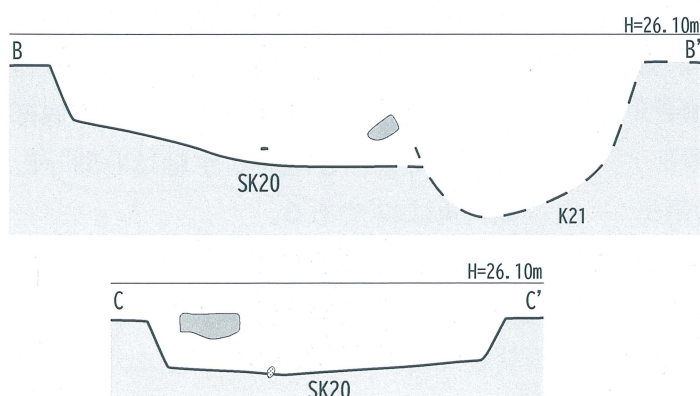
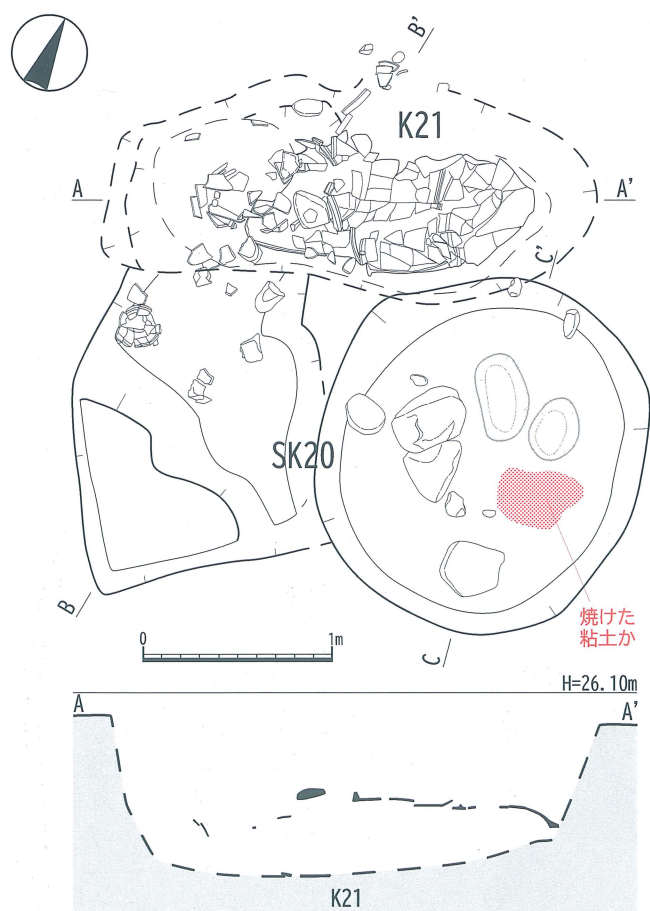
第75図 茶ノ木ノ本遺跡 19号
甕棺墓【K19】〔1/40〕



第76図 茶ノ木ノ本遺跡 20号
甕棺墓【K20】〔1/40〕



第78図 茶ノ木ノ本遺跡
22号甕棺墓【K22】
〔1/40〕



第77図 茶ノ木ノ本遺跡 20号土坑【SK20】 21号甕棺墓【K21】
〔1/40〕

11号甕棺墓【K11】〔第67図〕

16号土坑内で検出された甕棺墓。大きく削平を受けている。

出土遺物〔第88図3 図版17〕3は甕棺で、写真は無く、図面からは出土状況が分からない。口縁はく字上にわずかに外反して開き、突帯は無い。底部は平底で、調整は内外共にハケメ。

12号甕棺墓【K12】〔第68図 図版8〕

調査区の南東隅付近、1号石棺墓と5号石棺墓の間で検出された甕棺墓で、石蓋により閉塞される。

出土遺物〔第88図4 図版17〕口縁が断面三角形の甕棺で、底部を欠く。口縁直下に三角突帯が廻り、調整は外面ハケメ。

13号甕棺墓【K13】〔第69図〕

調査区の南端中央より東寄り、14号甕棺墓の東で検出され、上下の甕がほぼ水平に埋置され、主軸はN-22°-Wである。

出土遺物〔第88図5, 6 図版17〕5は上甕、6は下甕として出土時に記録されている。5は断面三角形の口縁。6は断面三角形の口縁がわずかに窄む。突帯は無く底部は上げ底。調整は外面ハケメ。

14号甕棺墓【K14】〔第70図 図版8〕

13号甕棺墓の西側で検出された甕棺墓で、大きく削平を受けているが、写真と図面から、水平に近い傾斜角で埋置している可能性が高い。

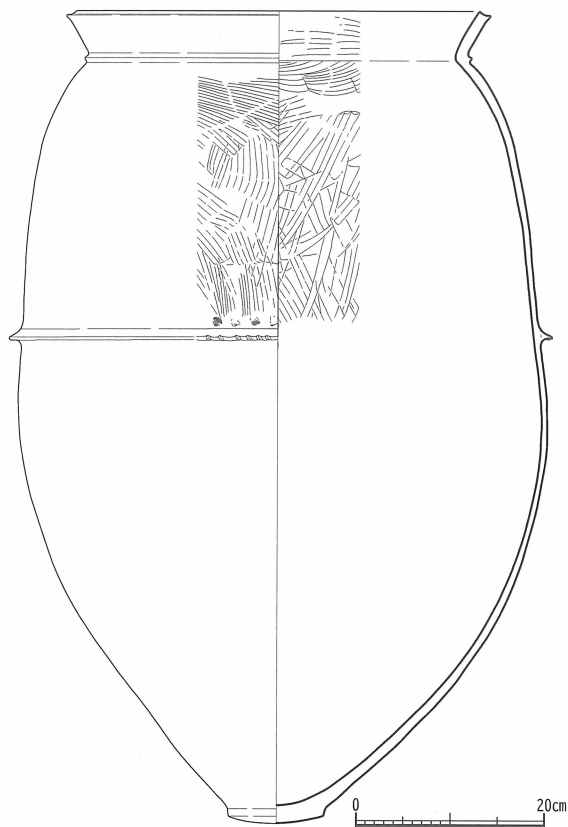
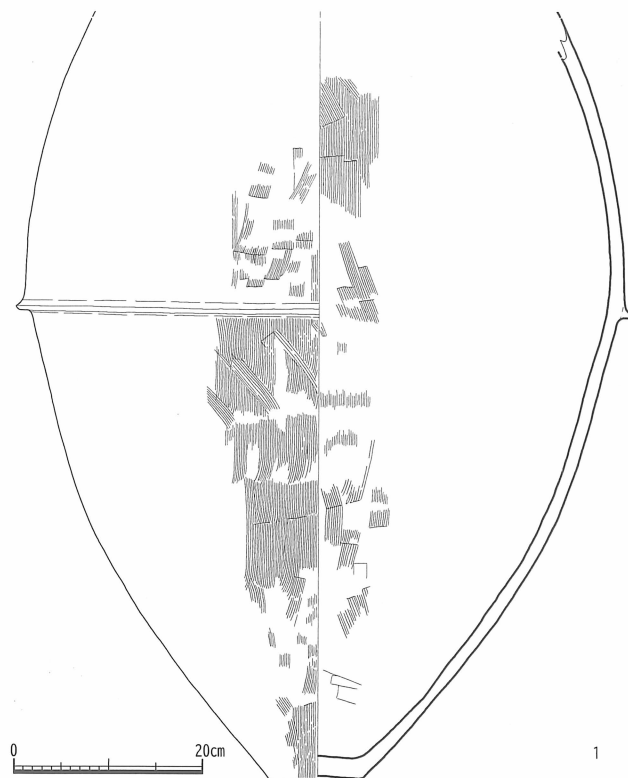
出土遺物[第88図7 図版17]

断面三角形の口縁をもつ甕棺の口縁部片。

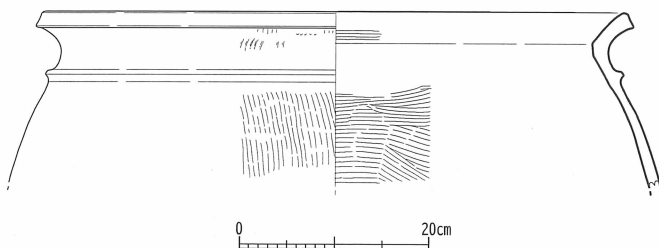
15号甕棺墓【K15】[第71図 図版9]

調査区南東隅付近、5号石棺墓の西側で検出された甕棺墓で、北東側に下甕底部を向け倒立に埋置され、主軸はN-56°-E、傾斜角は29°である。

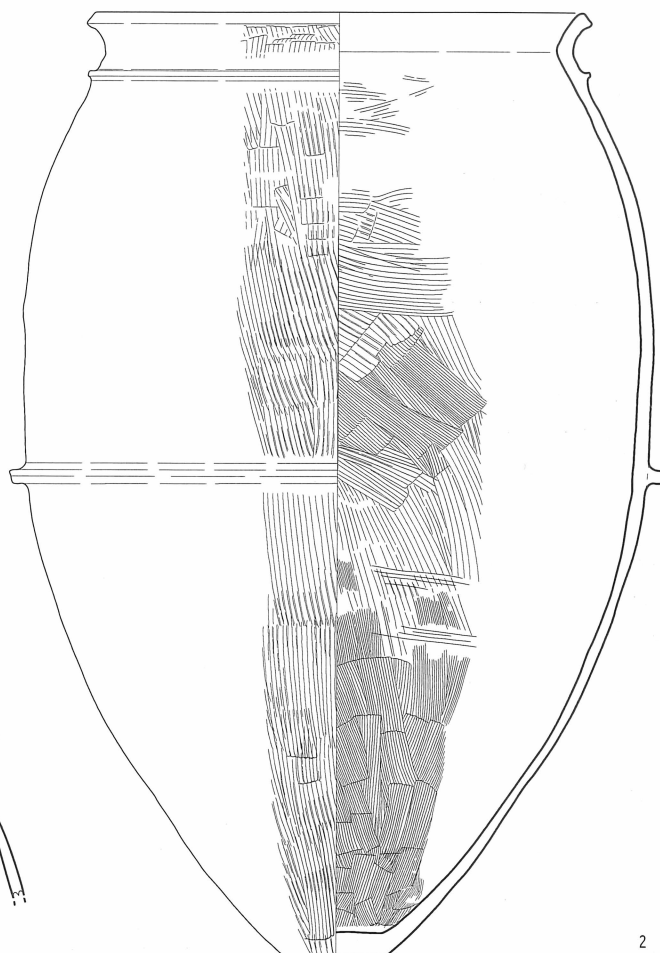
出土遺物[第88図8, 9 図版18]8は上甕で三角口縁の口唇部を凹湾させ若干内傾する。口縁直下と胴部下に三角突帯が廻る。底部は上げ底。調整は外面ハケメ。9は下甕で、若干内傾した三角口縁の直下に三角突帯が廻る。底部は上げ底。調整は外面ハケメ。



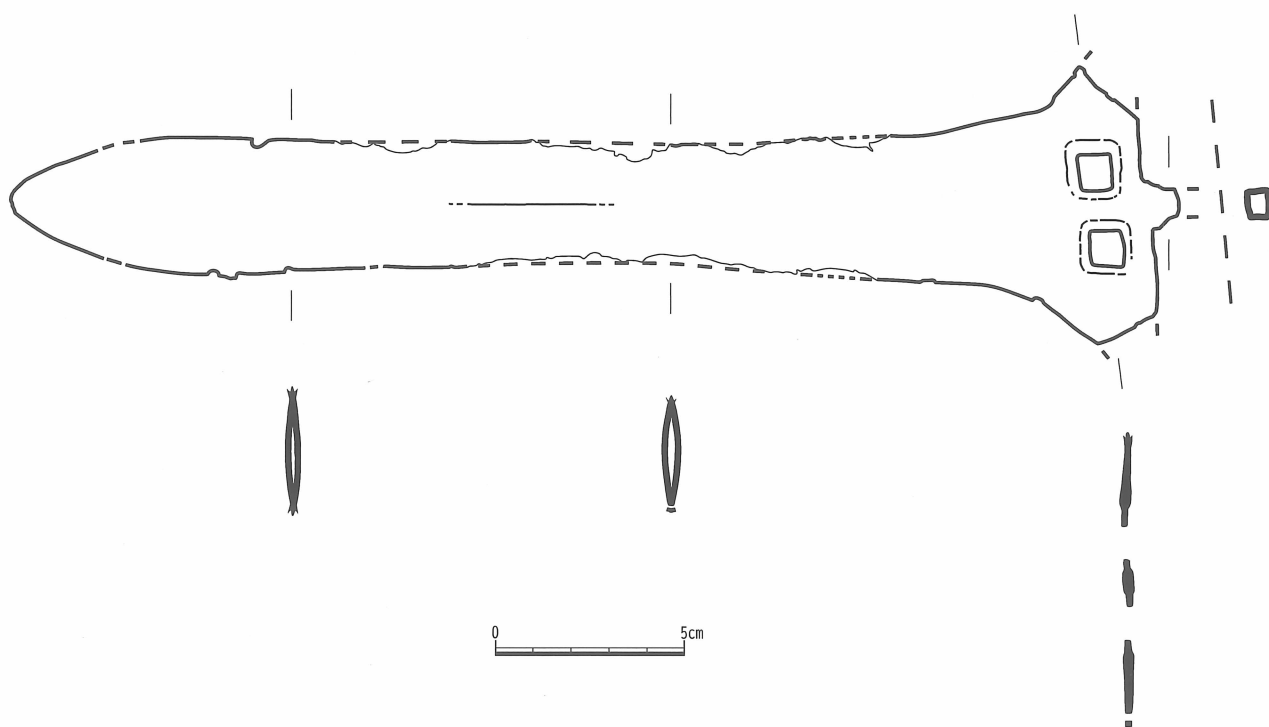
第79図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 1号甕棺墓【K01】
[1/8]



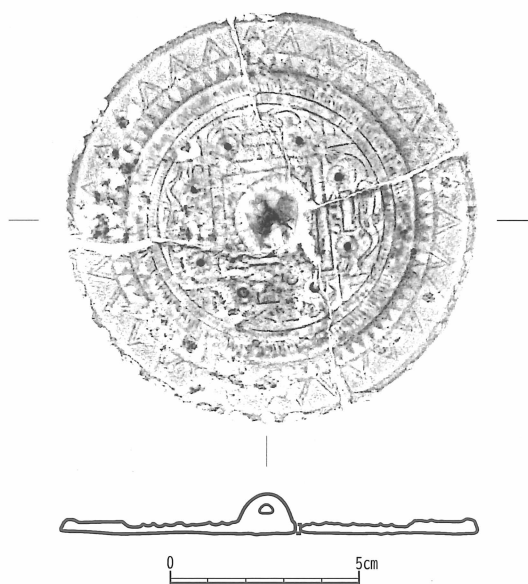
第80図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 2号甕棺墓【K02】[1/8]



第81図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号甕棺墓【K03】[1/8]



第82図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号甕棺墓【K03】(鉄戈)〔1/2〕



第83図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号甕棺墓【K03】(銅鏡)〔1/2〕

16号甕棺墓【K16】〔第72図〕

調査区の東端中央付近、3号甕棺墓の東側で検出された甕棺墓で、図面から傾斜角は39°程度と考えられる。

出土遺物〔第98図3〕2号不明遺構の出土遺物とされるレンズ状を呈する底部片が甕棺のものである可能性がある。

17号甕棺墓【K17】〔第73図 図版9〕

南端付近東寄り、31号土坑西側で検出された甕棺墓で46号土坑を切り、主軸はN-70°-E、傾斜角ほぼ水平である。

出土遺物〔第88図10, 11 図版18〕10は出土時上甕として記録された甕棺で、わずかに内傾する三角口縁の直下に三角突帯が廻る。底部は上げ底

で、調整は外面下部のみハケメが確認できる。11は下甕として記録されていた甕棺で、若干内傾した三角口縁直下に三角突帯が廻り、底部は上げ底、調整は外面ハケメ。

18号甕棺墓【K18】〔第74図〕

南東隅から10mほど西で検出された甕棺墓として記録されているが、図面中にみえる遺物は残っておらず詳細は不明。

19号甕棺墓【K19】〔第75図 図版9〕

17号甕棺墓の北西側で検出された甕棺墓で、45号土坑に切られる。出土遺物〔第88図12 図版19〕三角口縁の下に三角突帯が廻る甕棺で、底部は上げ底。調整は外面ハケメ。



第84図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 4号～6号甕棺墓【K04～K06】〔1/8〕

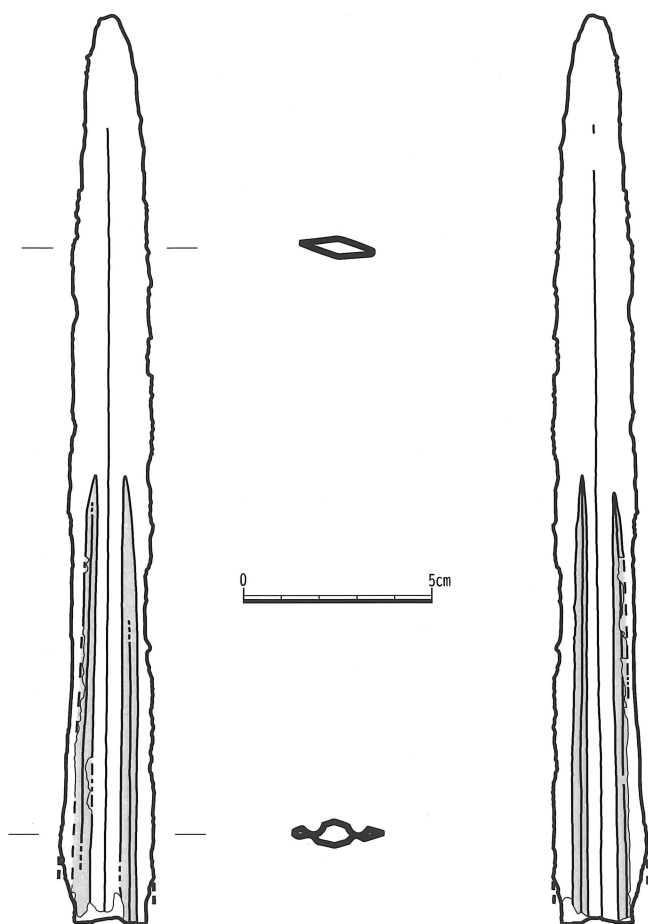
20号甕棺墓【K20】〔第76図 図版9〕

19号甕棺墓の西側で検出された甕棺墓で、ほぼ水平に埋置され、主軸はN-61°-E
出土遺物〔第88図13, 14 図版19〕13は上甕、14は下甕として出土時には整理されている。どちらも三角
口縁直下と胴部下に三角突帯が廻り、底部は上げ底。外面はハケメ。

21号甕棺墓【K21】〔第77図 図版9〕

19号甕棺墓の北東側で検出された甕棺墓で、図面から、ほぼ上下の甕棺が水平に埋置されているよ
うである。

出土遺物〔第89図1〕甕棺の胴部片でコの字突帯が廻る。



第85図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 5号甕棺墓【K05】(細形銅剣)[1/2]

22号甕棺墓【K22】[第78図]

5号石棺墓と15号甕棺墓の間で検出された甕棺墓で、大きく削平を受けている。

出土遺物[第89図2, 3 図版 19]2は三角口縁の直下に三角突帯が廻る甕棺で、外面の調整はミガキ。3は平底の甕の底部か。

(5) 不明遺構

不明遺構としてSX10まで附番されているが、2号、7号不明遺構はそれぞれ16号、15号甕棺墓の1次墓壇との判別が図面からは難しい。

1号不明遺構【SX01】[第90図]

調査区の東端中央で検出された不定形の遺構で、9号不明遺構を切る。遺物の出土は無い。

2号不明遺構【SX02】[第72図 図版10]

16号甕棺の東側の方形の遺構を指すのか不明。

出土遺物[第98図1～3 図版23]1はミニチュア土器の甕。2, 3はレンズ状を呈する甕の底部で、そのうち2は切り合いのある16号甕棺墓の出土遺物か。

3号不明遺構【SX03】[第91図 図版10]

2号石棺墓を北東側で切る。図面から、検出面の2号石棺墓と切り合いになるあたりでヤリガンナが出土している。共伴する遺物は無い。

出土遺物[第100図 図版24]鉄製ヤリガンナは全長27.3cmで、中央に木質が残る。

4号不明遺構【SX04】[第92図 図版10]

南側にこの遺構に切られる別の遺構があったようだが附番されていない。プランはややいびつな円形。

出土遺物[第98図4～6 図版 23]4はくの字に外反して開く口縁部片。5はミニチュア土器か。6は平底の甕の底部片で内外調整ハケメ。(ガラス玉)[第99図]ガラス玉が15個出土しているが、出土状況の記録が無い。

5号不明遺構【SX05】[第93図]

調査区中央南東寄りで検出された円形の遺構で、出土遺物は無い。

6号不明遺構【SX06】[第94図 図版10]

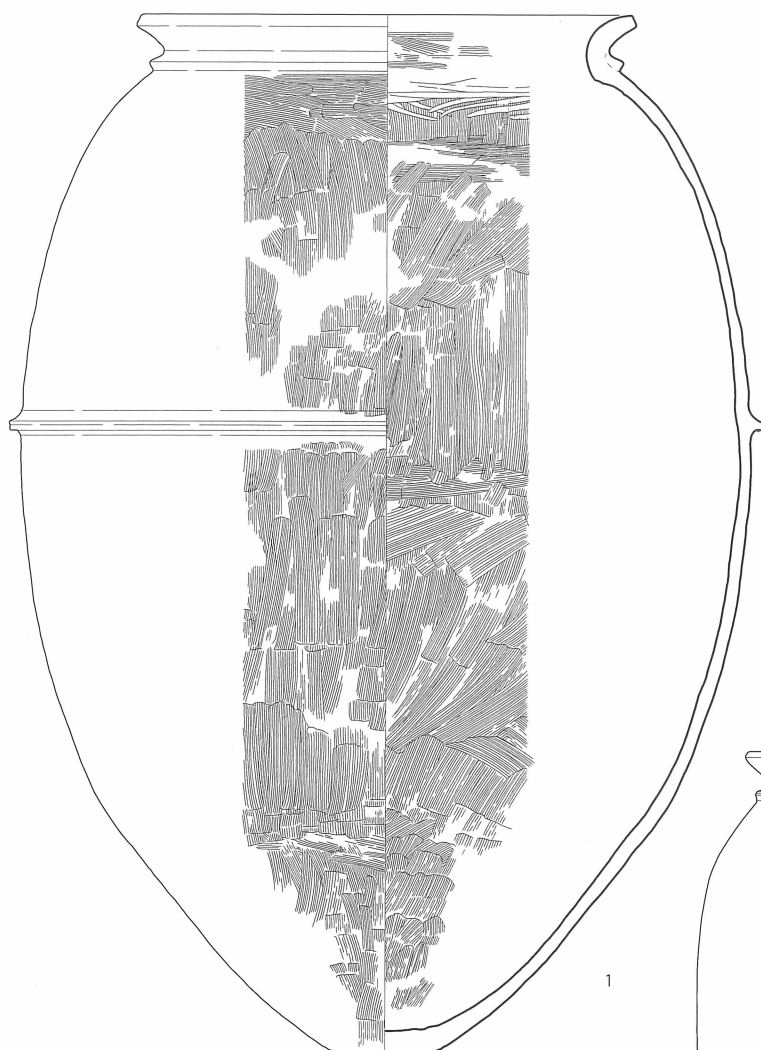
3号石棺墓の南西側で検出された不定形の遺構。出土遺物は無い。

7号不明遺構【SX07】[第71図]

15号甕棺墓と同一か、切り合いのある別遺構か不明。

8号不明遺構【SX08】〔第95図 図版10〕

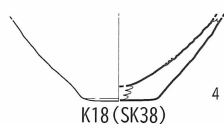
調査区東端、1号石棺墓の東側で検出された隅丸方形の遺構で、東側は調査区外で検出されていない。出土遺物は無い。



K07



K09



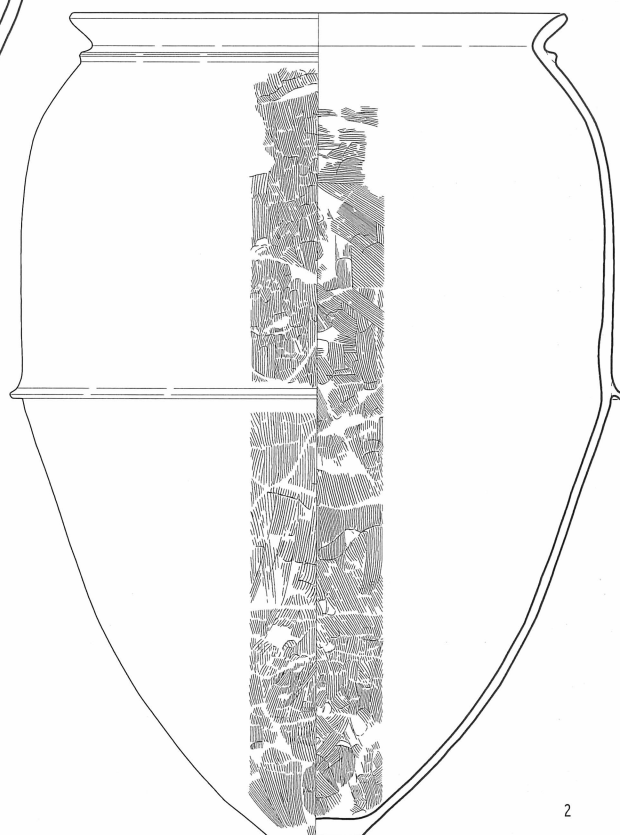
K18 (SK38)

9号不明遺構【SX09】〔第96図〕

調査区東端中央付近で1号不明遺構に切られる不定形の遺構、出土遺物は無い。

10号不明遺構【SX10】〔第97図〕

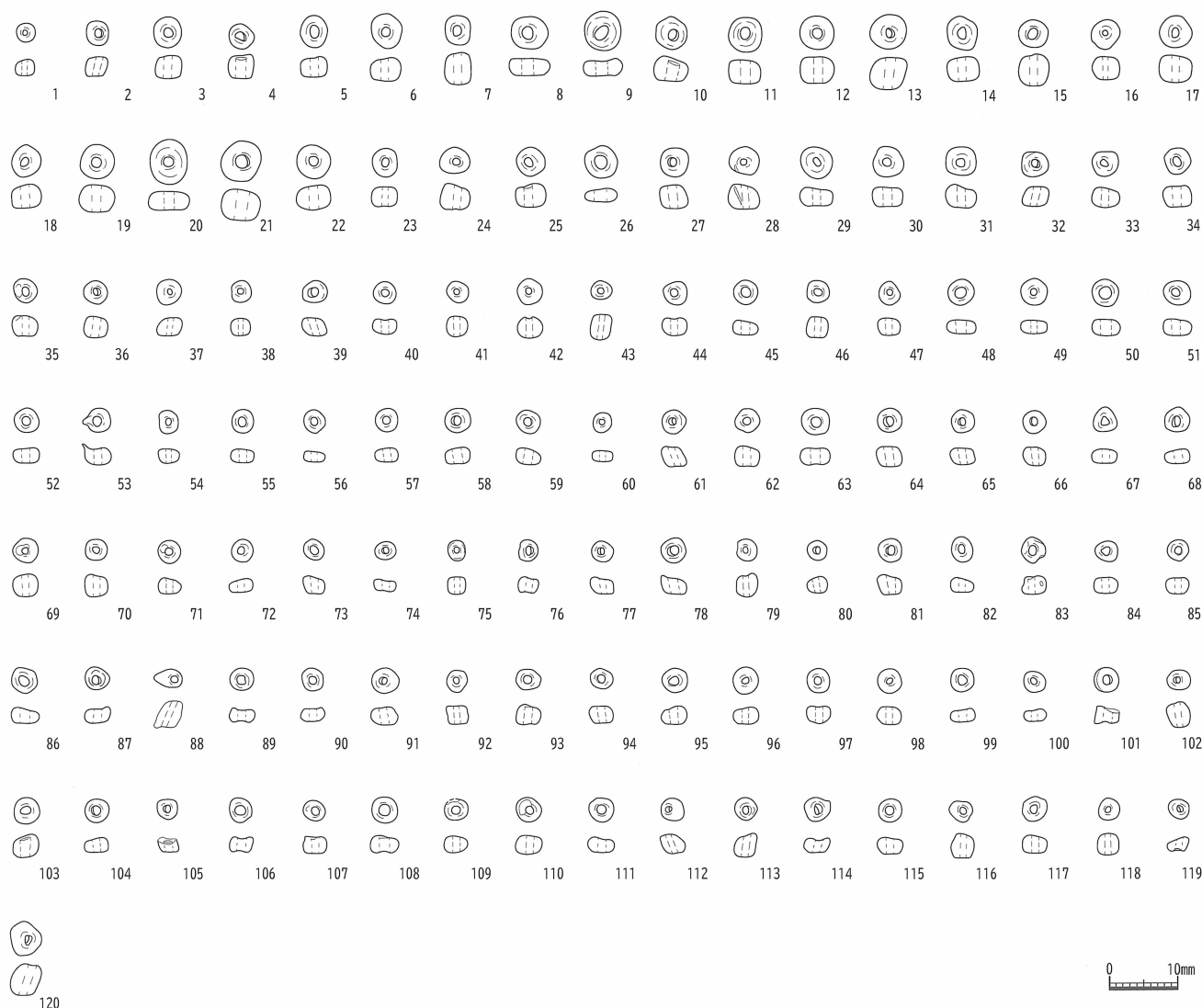
15号甕棺墓の北側で検出された不定形の遺構で、出土遺物は無い。削平された甕棺墓の墓壇か。



K08



第86図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 7号～9号、18号甕棺墓【K07～K09】〔1/8〕

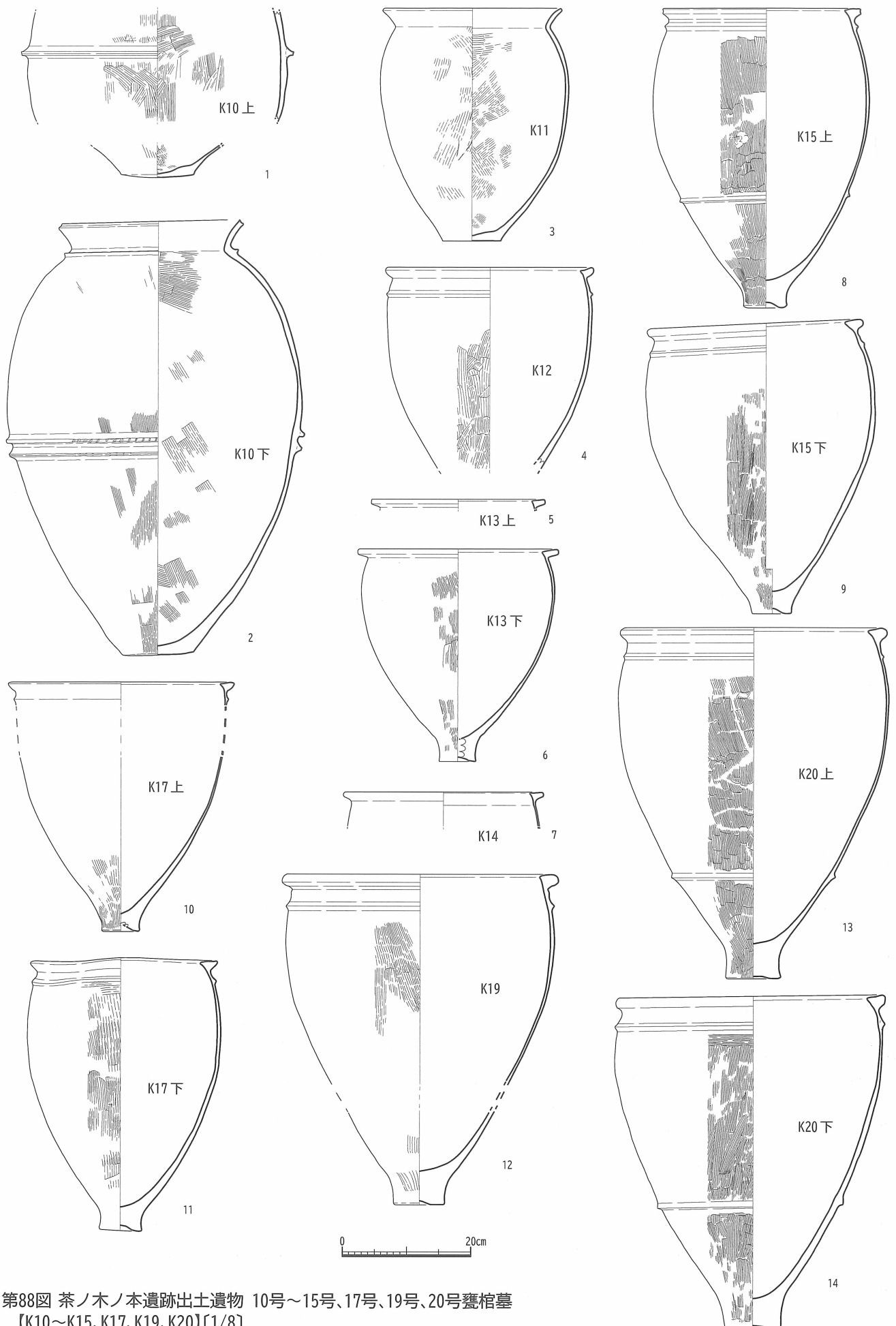


第87図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物（ガラス玉）9号甕棺墓【K09】〔1/1〕

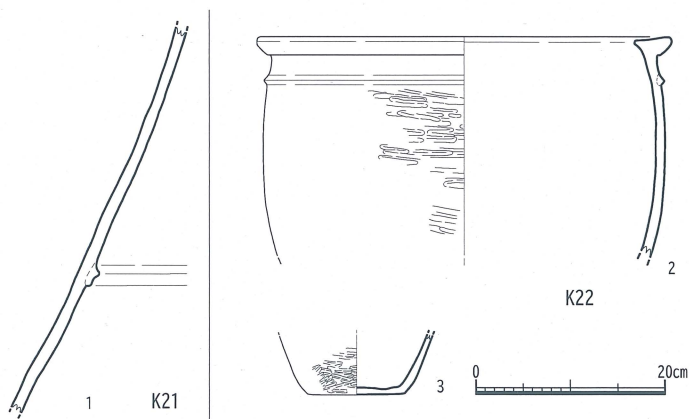
4 まとめ

茶ノ木ノ本遺跡では、石棺墓、甕棺墓は調査区の南東に集中して検出されている。そのうち、K12, K13, K14, K15, K17, K19, K20, K22は橋口編年(橋口2005)の南筑後における甕棺の編年のK1c～b期にあたり、調査区南端中央から東端中央やや南寄りにかけて二列埋葬墓となっていると考えられる[第101図]。周辺のSK37, SK34, SK45, SK21, SK46, SK30, SK31, SK43, SX10, SK39, SK48の遺構はは削平を受けた甕棺墓であった可能性が高い。周辺の遺跡では、茶ノ木ノ本遺跡から西北西100mほど離れた地点に松ノ本遺跡(B地点)の甕棺墓列が見つまっている。時期は当遺跡の甕棺墓列と同じく南筑後K1c期と考えられ、また甕棺墓列が南西～北東方向に延び主軸が茶ノ木ノ本遺跡に近い。同じ墓域に属する可能性がある。

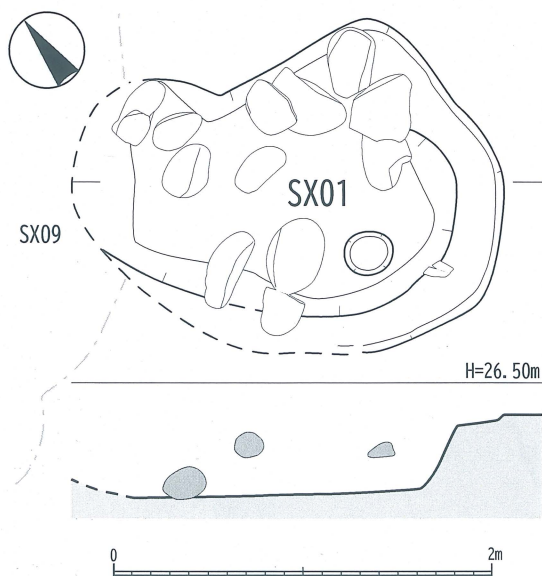
甕棺埋葬時の傾斜角について、少なくともK17, K20, K21, K22の中期の甕棺についてはほぼ水平に埋置されている。削平により1次墓壇の平面プランを確認できた遺構が無く、横壇の範囲も不明瞭で、ある。そのため上甕、下甕の区別がつけられなかった。今回の報告では現地での調査時での判断によるものをそのまま掲載している。



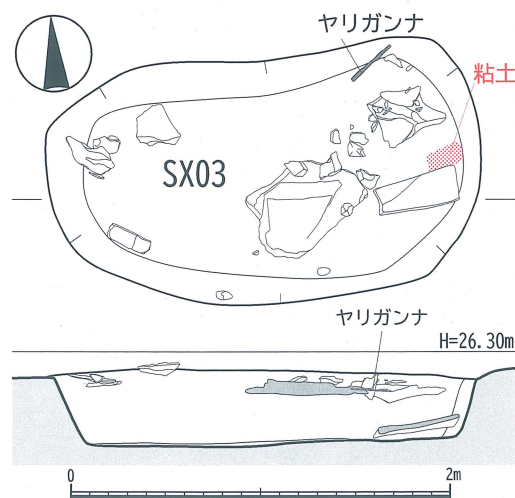
第88図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 10号～15号、17号、19号、20号甕棺墓
 【K10～K15、K17、K19、K20】〔1/8〕



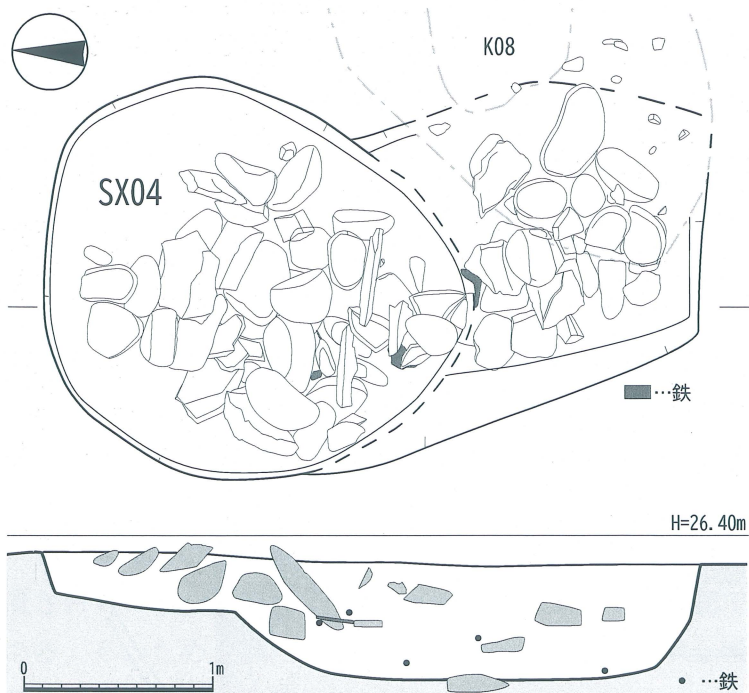
第89図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 21号、22号甕棺墓【K21, 22】
〔1/8〕



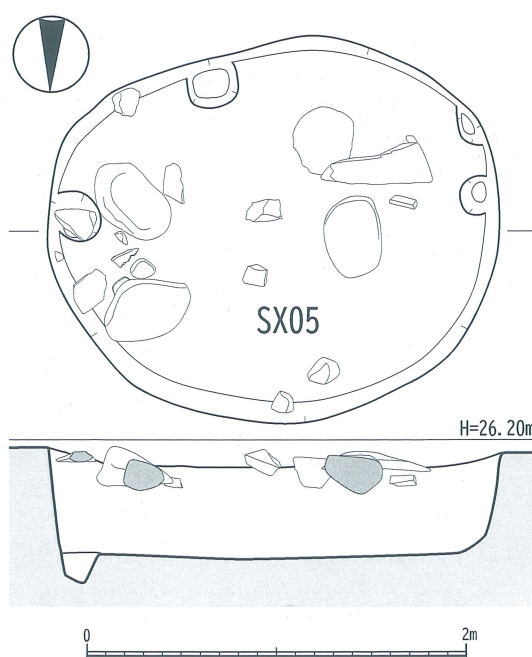
第90図 茶ノ木ノ本遺跡 1号不明遺構【SX01】
〔1/40〕



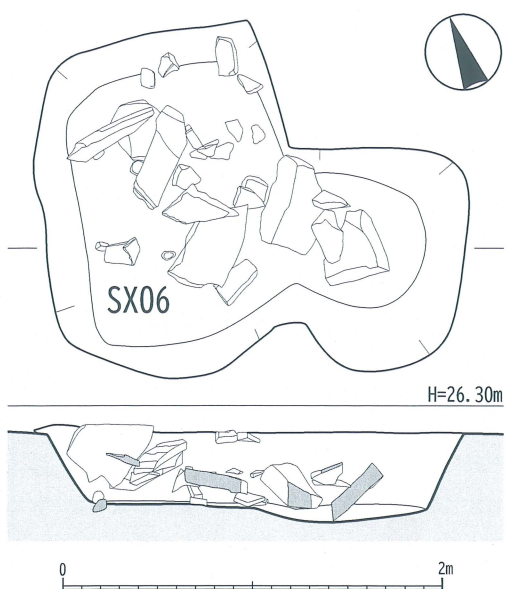
第91図 茶ノ木ノ本遺跡 3号不明遺構【SX03】
〔1/40〕



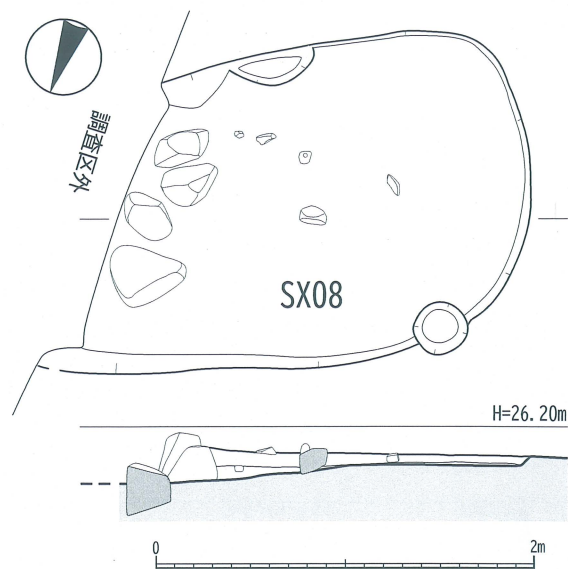
第92図 茶ノ木ノ本遺跡 4号不明遺構【SX04】〔1/40〕



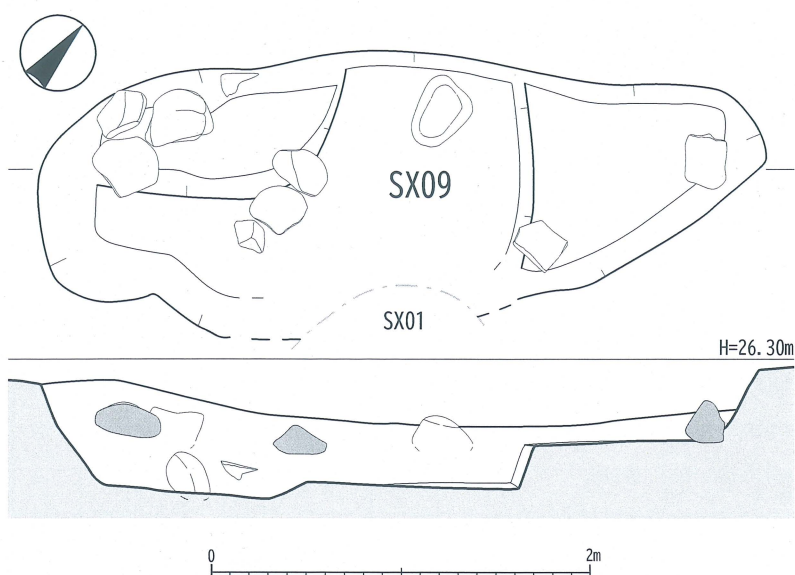
第93図 茶ノ木ノ本遺跡 5号不明遺構【SX05】
〔1/40〕



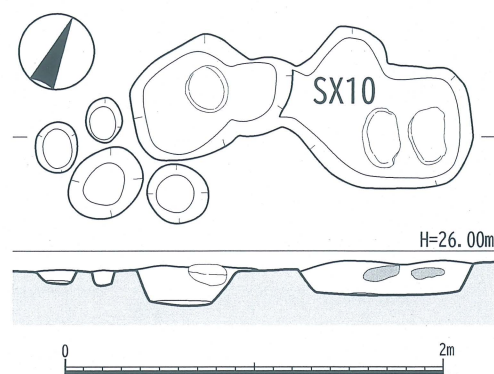
第94図 茶ノ木ノ本遺跡 6号不明遺構【SX06】
[1/40]



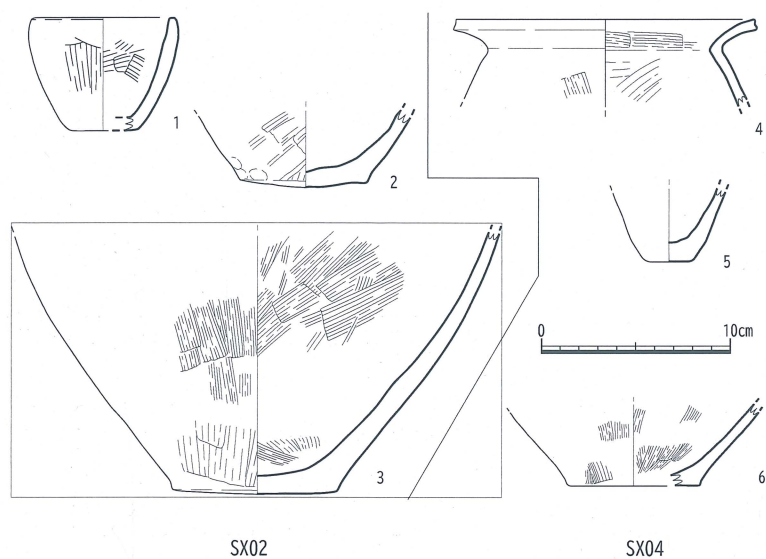
第95図 茶ノ木ノ本遺跡 8号不明遺構【SX08】[1/40]



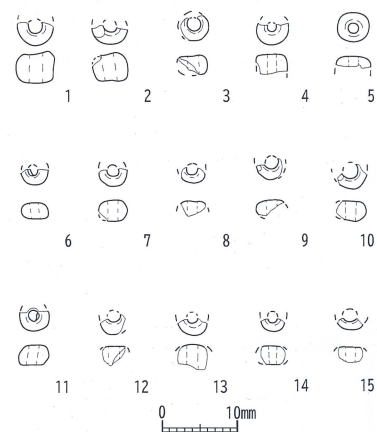
第96図 茶ノ木ノ本遺跡 9号不明遺構【SX09】[1/40]



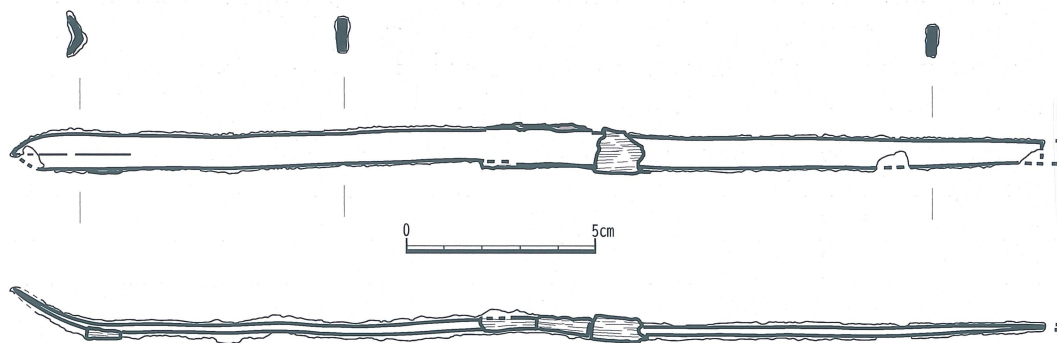
第97図 茶ノ木ノ本遺跡 10号不明遺構
【SX10】[1/40]



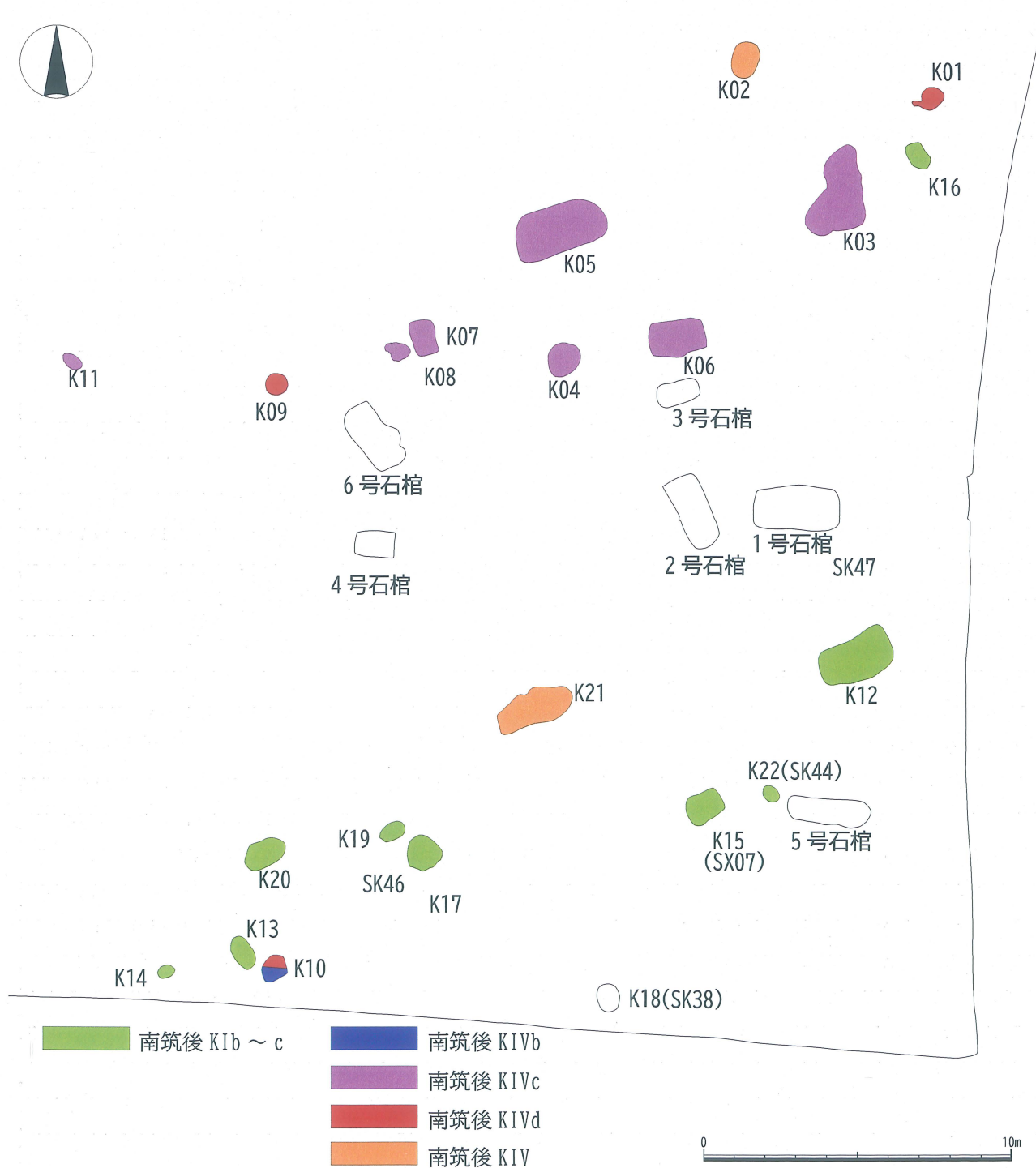
第98図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 不明遺構【SX】[1/4]



第99図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物
4号不明遺構【SX04】(ガラス玉)
[1/1]



第100図 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 3号不明遺構【SX03】(ヤリガンナ)[1/2]



第101図 茶ノ木ノ本遺跡 調査区南東側 甕棺形式別分布[1/200]

挿図	番号	遺構	材質	器種	法量 口径(長) (cm)	法量 底径(幅) (cm)	法量 器高(厚) (cm)	色調 外面	色調 内面	調整(文様) 外面	調整(文様) 内面	調整(文様) 底面高台 内印銘等	胎土	備考	時代
9	1	SB 01	土師器	碗		(10.0)	(2.4)	浅黄橙	浅黄橙	ナテ・ヨコナテ	ナテ	ナテ・ヨコナテ	礫を少量含む		7C
9	2	SB 01	土師器	坏	(18.9)		(6.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナテ・手持ちヘラ ナテ	ナテ		長石・石英・雲母含 む		古墳後期
9	3	SB 01	土師器	甕	(23.0)		(15.3)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナテ・ハケ	ヨコナテ・ナテ		精良	内外面に黒斑	古墳後期
9	4	SB 02	須恵器	蓋	14.4		3.8	灰	灰白	ナテ・回転ナテ	回転ナテ		精良	つまみ径3cm・歪み 大	7C後半
9	5	SB 02	土師器	坏	12.0		4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナテ・手持ちヘラ ナテ	ナテ	手持ちヘラナテ	赤色粒子・片岩含 む	外面に黒斑	7C
9	6	SB 02	土師器	坏	(15.0)		(4.4)	橙	にぶい黄橙	丹塗リ・手持 ちヘラナテ	ナテ		片岩含む	外面に丹塗	7C
9	7	SB 04	弥生土器	高坏	(20.0)		(5.05)	にぶい橙	浅黄橙	ヨコナテ・ナテ	ナテ		片岩含む	内面に一部黒斑	弥生後期
9	8	SB 04	弥生土器	壺			(5.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナテ・ヨコナテ・刻 み目	ナテ		長石・石英含む		弥生後期
49	1	SK 01	土師器	甕	(30.5)		(14.5)	にぶい橙	明赤褐	ナテ・ハケ	ナテ・ナテ後ナ テ		赤色粒子・片岩含 む		古墳後期
49	2	SK 10	弥生土器	甕	(18.0)		(1.9)	にぶい橙	にぶい橙	ナテ・ハケ	ハケ後ナテ		片岩・赤色粒子含 む		後期
49	3	SK 10	弥生土器	壺			(5.9)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナテ・ハケ	ハケ・ナテ		長石・石英・角閃石 含む		後期前半か
49	4	SK 10	弥生土器	甕			(3.5)	にぶい黄橙	にぶい橙	ハケ	ナテ・指ナテ	ナテ	長石・石英・角閃 石・雲母含む		後期前半か
49	5	SK 18	弥生土器	甕	(28.0)		(4.0)	浅黄橙	にぶい橙	ナテ	ナテ		片岩・赤色粒子含 む		弥生後期前半
49	6	SK 18	弥生土器	台付甕			(4.3)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ	ハケ	ナテ	片岩・赤色粒子・角 閃石含む		弥生後期
49	7	SK 18	弥生土器	大甕			(9.1)	にぶい黄橙	灰黄褐	ヨコナテ・ハケ後ナ テ	ナテ		片岩・石英・角閃 石・赤色粒子含む		弥生後期
49	8	SK 18	弥生土器	壺		(7.0)	(1.7)	暗灰黄	にぶい黄橙	ナテ	ハケ	ナテ	片岩・角閃石含む		後期
49	9	SK 19	弥生土器	甕			(5.9)	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナテ・ナテ	ナテ		長石・石英・角閃石 含む	内外面に付着物	中期
49	10	SK 19	弥生土器	大甕			(8.8)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナテ・ナテ	ヨコナテ・不明		片岩・石英・赤色粒 子含む		中期
49	11	SK 20	弥生土器	長頸壺		(8.0)	(13.0)	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナテ・ナテ	ナテ・ハケ	ナテ	長石・石英・角閃 石・雲母含む	底部穿孔か	後期
49	12	SK 20	弥生土器	甕		(6.3)	(7.1)	灰黄褐	灰黄褐	ハケ	不明	ナテ	片岩・石英含む		後期初頭?
49	13	SK 36	弥生土器	ミニチャ鉢	4.8		3.1	灰白	灰白	ナテ	ナテ		片岩・石英・角閃石 含む		弥生
56	1	ST 01	須恵器	碗		(9.0)	(2.6)	灰白・灰	灰	回転ナテ	ナテ	不明	片岩含む		7C後半
56	2	ST 05	弥生土器	高坏			(4.2)	明褐	明褐	ナテ	ヨコナテ・ナテ		長石・石英・雲母・ 角閃石含む		後期
56	3	ST 05	弥生土器	高坏			(2.8)	明褐	明褐	ナテ	ヨコナテ・ナテ		長石・石英・雲母含 む		後期
79	K 01	弥生土器	甕棺		(44.7)	10.0	(85.8)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナテ・ナテ・ハ ケ	ハケ・ナテ	ナテ	長石・石英・雲母・ 片岩含む	内外面に一部黒斑	弥生後期前半
80	K 02	弥生土器	甕棺		(63.0)		(18.2)	橙	にぶい橙	ヨコナテ・ハケ後ヨ コナテ・ハケ	ハケ後ナテ・ナ テ・ハケ		長石・石英・角閃 石・雲母含む	内面に黒斑	
81	1	K 03	弥生土器	甕棺 (上甕)		9.8	(80.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ・ヨコナテ	ハケ・ナテ	ハケ			
81	2	K 03	弥生土器	甕棺 (下甕)	(51.2)	10.6	(99.6)	灰褐	灰褐	ハケ・ナテ	ナテ・ハケ	ナテ	片岩・角閃石・石英 含む	朱あり	
82	K 03	鉄製品	鉄戈		30.8	7.4	0.2・1.2	黒褐					鉄	151.6g	
83	K 03	青銅器	銅鏡		11.2	11.2	0.4	ナテ・黒					青銅	244g・つまみ部厚 み1.1cm	
84	1	K 04	弥生土器	甕棺		11.8	(51.7)	橙	にぶい黄橙	ナテ・ハケ	ハケ	不明	片岩・石英・角閃石 含む		弥生後期前半
84	3	K 05	弥生土器	甕棺	58.0	9.4	101.7	にぶい橙	にぶい橙	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ		片岩・石英・赤色粒 子含む	外面に黒斑	弥生中期
84	4	K 06	弥生土器	甕棺	(39.0)	9.7	85.5	灰黄褐	灰黄褐	ハケ・ナテ	ハケ・ナテ・指圧 痕		片岩・石英・角閃石 含む	外面に黒斑	弥生後期前半
85	K 05	青銅器	細形銅剣		24.0	2.6	0.8	暗緑灰					青銅	114.8g	
86	1	K 07	弥生土器	甕棺	(51.6)	10.4	109.8	灰黄褐	にぶい橙	ナテ・ハケ	ハケ・ヨコナテ・ハ ケ後ナテ		片岩・赤色粒子含 む	内外面に黒斑	弥生後期前半
86	2	K 08	弥生土器	甕棺	(52.6)	9.6	87.1	にぶい橙	明褐灰	ヨコナテ・ハケ	ヨコナテ・ナテ・ハ ケ	ナテ	片岩含む	外面に一部黒斑	弥生後期前半
86	3	K 09	弥生土器	甕棺	(29.5)	13.4	(60.3)			ハケ・ヨコナテ・刻 み目	ハケ	ハケ調整	片岩・赤色粒子・角 閃石・石英含む		弥生後期前半
86	4	SK 38	弥生土器	甕		8.0	(8.9)	にぶい黄橙	橙	不明	不明		石英・片岩・角閃石 含む		後期
87	1	K 09	ガラス玉		0.25	0.25	0.25								
87	2	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.3								
87	3	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.35								
87	4	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.35								
87	5	K 09	ガラス玉		0.45	0.4	0.3								

押図	番号	遺構	材質	器種	法量 口径(長) (cm)	法量 底径(幅) (cm)	法量 器高(厚) (cm)	色調 外面	色調 内面	調整(文様) 外面	調整(文様) 内面	調整(文様) 底面高台 内印銘等	胎土	備考	時代
87	6	K 09	ガラス玉		0.5	0.45	0.35								
87	7	K 09	ガラス玉		0.45	0.4	0.45								
87	8	K 09	ガラス玉		0.45	0.55	0.25								
87	9	K 09	ガラス玉		0.55	0.55	0.25								
87	10	K 09	ガラス玉		0.5	0.5	0.35								
87	11	K 09	ガラス玉		0.5	0.5	0.35								
87	11	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	12	K 09	ガラス玉		0.5	0.5	0.4								
87	13	K 09	ガラス玉		0.5	0.5	0.45								
87	14	K 09	ガラス玉		0.5	0.45	0.35								
87	15	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.45								
87	16	K 09	ガラス玉		0.45	0.4	0.35								
87	17	K 09	ガラス玉		0.45	0.45	0.4								
87	18	K 09	ガラス玉		0.45	0.4	0.35								
87	19	K 09	ガラス玉		0.5	0.5	0.4								
87	20	K 09	ガラス玉		0.6	0.55	0.35								
87	21	K 09	ガラス玉		0.6	0.6	0.45								
87	22	K 09	ガラス玉		0.5	0.5	0.35								
87	23	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.3								
87	24	K 09	ガラス玉		0.4	0.45	0.4								
87	25	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.35								
87	26	K 09	ガラス玉		0.45	0.45	0.2								
87	27	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.35								
87	28	K 09	ガラス玉		0.4	0.45	0.35								
87	29	K 09	ガラス玉		0.45	0.45	0.3								
87	30	K 09	ガラス玉		0.45	0.45	0.3								
87	31	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.35								
87	32	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.35								
87	33	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.3								
87	34	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.3								
87	35	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	36	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	37	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	38	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	39	K 09	ガラス玉		0.3	0.35	0.25								
87	40	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	41	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.3								
87	42	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	43	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.35								
87	44	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	45	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	46	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.3								
87	47	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.25								

押図	番号	遺構	材質	器種	法量 口径(長) (cm)	法量 底径(幅) (cm)	法量 器高(厚) (cm)	色調 外面	色調 内面	調整(文様) 外面	調整(文様) 内面	調整(文様) 底面高台 内印銘等	胎土	備考	時代
87	48	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.2								
87	49	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.2								
87	50	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.2								
87	51	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.25								
87	52	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	53	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.3								
87	54	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.2								
87	55	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.2								
87	56	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.15								
87	57	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	58	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	59	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	60	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.15								
87	61	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	62	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	63	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.25								
87	64	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	65	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	66	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	67	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	68	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	69	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	70	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.3								
87	71	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.2								
87	72	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.2								
87	73	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	74	K 09	ガラス玉		0.25	0.3	0.2								
87	75	K 09	ガラス玉		0.3	0.25	0.25								
87	76	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	77	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	78	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.25								
87	79	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.35								
87	80	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	81	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	82	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.2								
87	83	K 09	ガラス玉		0.4	0.35	0.25								
87	84	K 09	ガラス玉		0.3	0.35	0.25								
87	85	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	86	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.2								
87	87	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	88	K 09	ガラス玉		0.25	0.4	0.4								
87	89	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	90	K 09	ガラス玉		0.35	0.3	0.2								

押図	番号	遺構	材質	器種	法量 口径(長) (cm)	法量 底径(幅) (cm)	法量 器高(厚) (cm)	色調 外面	色調 内面	調整(文様) 外面	調整(文様) 内面	調整(文様) 底面高台 内印銘等	胎土	備考	時代
87	91	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.3								
87	92	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	93	K 09	ガラス玉		0.3	0.35	0.3								
87	94	K 09	ガラス玉		0.3	0.35	0.25								
87	95	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	96	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.25								
87	97	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	98	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	99	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	100	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.2								
87	101	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.25								
87	102	K 09	ガラス玉		0.3	0.35	0.35								
87	103	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.35								
87	104	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	105	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.2								
87	106	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.2								
87	107	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.25								
87	108	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.25								
87	109	K 09	ガラス玉		0.3	0.35	0.25								
87	110	K 09	ガラス玉		0.4	0.4	0.25								
87	112	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.3								
87	113	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.35								
87	114	K 09	ガラス玉		0.35	0.4	0.2								
87	115	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	116	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.35								
87	117	K 09	ガラス玉		0.35	0.35	0.25								
87	118	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.3								
87	119	K 09	ガラス玉		0.3	0.3	0.2								
87	120	K 09	ガラス玉		0.5	0.45	0.4							小児甕	
88	1	K 10	弥生土器	甕棺			(17.2)	灰黄	灰黄	ハケ・ナテ・ヨナ デ	ハケ		片岩・赤色粒子含 む	上甕胴部	弥生後期前半
88	1	K 10	弥生土器	小児棺		11.2	(5.2)	にぶい橙	にぶい橙	ハケ・ナテ・ヨナ デ	ハケ後ナテ	ハケ	片岩含む	上甕底部・内外面 に一部付着物あり	
88	2	K 10	弥生土器	甕棺	(28.5)	10.9	67.4	灰黄褐	灰黄褐	ヨナテ・ハケ・刻 み目	ヨナテ・ハケ		長石・石英・雲母含 む	下甕	弥生後期前半
88	3	K 11	弥生土器	甕	(27.8)	9.0	36.2	浅黄橙	浅黄橙	ハケ後工具に よるナテ か?	ハケ・ナテ	ナテ	長石・石英含む	外面に一部黒斑 か?	後期前半
88	4	K 12	弥生土器	甕棺	(32.4)		(31.2)	にぶい橙	にぶい橙	ヨナテ・ナテ・ハ ケ	ヨナテ・ナテ		片岩含む	内外面に黒斑あ り・外面一部自然 剥か?	弥生中期
88	5	K 13	弥生土器	小児棺	(27.0)		(1.5)	灰白	灰白	不明	不明		片岩・赤色粒子含 む	西側	弥生中期
88	6	K 13	弥生土器	小児棺	(31.2)	(5.7)	33.0	灰黄褐	灰黄褐	ハケ	不明	ナテ	片岩・赤色粒子含 む	東側	弥生中期
88	7	K 14	弥生土器	小児棺	(31.0)		(5.3)	にぶい橙	にぶい橙	不明	不明		片岩・赤色粒子含 む		弥生中期
88	8	K 15	弥生土器	小児棺	(30.8)	6.8	46.6	にぶい橙	にぶい橙	ヨナテ・ハケ	ナテ	ナテ	長石・石英・雲母含 む	上甕・内面底部に 黒斑あり	弥生中期
88	9	K 15	弥生土器	小児棺	32.5	6.0	45.7	橙	橙	ナテ・ハケ	ナテ		片岩・赤色粒子・石 英含む	下甕	弥生中期
88	10	K 17	弥生土器	小児棺	(35.0)	6.0	(38.7)	橙	橙	ナテ・ヨナテ・ハ ケ	ヨナテ・ナテ	ナテ	長石・石英含む	上甕	弥生中期
88	11	K 17	弥生土器	小児棺	(29.0)	6.7	42.4	にぶい橙	にぶい橙	ナテ・ハケ	ナテ		片岩・赤色粒子含 む	下甕	弥生中期
88	12	K 19	弥生土器	小児棺	(42.8)	8.0		にぶい橙	にぶい橙	ヨナテ・ハケ後ナ テ・ハケ	ナテ	ナテ	片岩含む	内外面に一部付着 物あり	弥生中期
88	13	K 20	弥生土器	小児棺	(41.4)	8.6	54.5	にぶい橙	褐灰	ヨナテ・ナテ・ハ ケ	ヨナテ・ナテ	ナテ	長石・石英・角閃 石・雲母含む	上甕(東側)	弥生中期

押図	番号	遺構	材質	器種	法量 口径(長) (cm)	法量 底径(幅) (cm)	法量 器高(厚) (cm)	色調 外面	色調 内面	調整(文様) 外面	調整(文様) 内面	調整(文様) 底面高台 内印銘等	胎土	備考	時代
88	14	K 20	弥生土器	小児棺	40.7	8.6	51.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナテ・ハケメ	ナテ		片岩・赤色粒子・石英含む	下甕(西側?)	弥生中期
89	1	K 21	弥生土器	甕棺			(40.1)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	不明	不明		片岩・赤色粒子含む		
89	2	K 22	弥生土器	甕		(22.0)	(11.6)	灰褐	にぶい黄橙	ナテ・ミガキ	不明		片岩・赤色粒子含む		後期
89	3	K 22	弥生土器	甕		10.3	(6.5)	にぶい橙	褐灰	ミガキ	ナテ	不明	片岩・赤色粒子・角閃石含む		後期
98	1	SX 02	ミチア土器	甕	(7.5)	6.0	(3.6)	にぶい橙	暗灰黄	ナテ・ハケメ	ハケメ		片岩・石英・角閃石含む		弥生
98	2	SX 02	弥生土器	甕		6.8	(4.1)	灰黄褐	浅黄橙	ハケメ・指押エ	ナテ	ハケメ後ナテ	片岩・石英・角閃石含む	K16?	弥生後期
98	3	SX 02	弥生土器	甕		8.6	(13.9)	明黄褐	黄灰	ハケメ	ハケメ	ハケメ	片岩・石英・角閃石含む	K16?	弥生
98	4	SX 04	弥生土器	甕	(15.8)		(4.7)	にぶい橙	にぶい黄橙	ヨコナテ・ハケメ	ハケメ		片岩・角閃石・石英含む		後期前半
98	5	SX 04	ミチア土器	甕		2.5	(4.0)	にぶい黄橙	にぶい橙	ナテ	ナテ	ナテ	片岩・角閃石含む		
98	6	SX 04	弥生土器	甕		(8.0)	(5.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ後ナテ	ハケメ	ハケメ	片岩・角閃石含む		後期前半
99	1	SX 04	ガラス玉		(0.3)	0.45	0.4								
99	2	SX 04	ガラス玉		(0.2)	0.45	0.4								
99	3	SX 04	ガラス玉		(0.35)	(0.35)	0.25								
99	4	SX 04	ガラス玉		(0.25)	0.4	(0.25)								
99	5	SX 04	ガラス玉		0.4	0.45	(0.15)								
99	6	SX 04	ガラス玉		(0.2)	0.4	0.2								
99	7	SX 04	ガラス玉		(0.25)	0.4	0.3								
99	8	SX 04	ガラス玉		(0.2)	(0.3)	(0.2)								
99	9	SX 04	ガラス玉		(0.3)	(0.35)	(0.2)								
99	10	SX 04	ガラス玉		(0.35)	(0.4)	0.25								
99	11	SX 04	ガラス玉		(0.3.)	0.4	0.25								
99	12	SX 04	ガラス玉		(0.25)	(0.35)	(0.25)								
99	13	SX 04	ガラス玉		(0.2)	(0.4)	(0.35)								
99	14	SX 04	ガラス玉		(0.15)	(0.35)	0.25								
99	15	SX 04	ガラス玉		(0.15)	(0.3)	(0.2)								
100		SX 03	鉄製品	ヤリガンナ	27.3	1.2	0.6	黒褐					鉄	23.4g	

5 八女市茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈について

茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈の時期的・地域的位置づけに関し記す。

鉄戈研究では小田富士雄氏による飯塚市立岩遺跡での分類案提唱以来、全長を基準に短峰式(25 cm以下)・中峰式(25~35cm)・長峰式(35cm 以上)の3区分がなされることが多く、短峰式から長峰式へと長大化する変化の方向性が示されている。また、長大化と連動した鉄戈独特の形態変化として、「胡(こ)(関にあたる部分)の直線→湾曲化」が指摘されている(立谷2020)。

以下に、立谷聡明氏(唐津市教育委員会)による、茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈に関する資料調査時の所見を示す。「(2019年10月16日調査)全長は30.5cm(中峰式)。緊縛孔は大型の方形で一辺が約8.7mm。胡の両端を欠損するが、わずかに有機質(柄)の痕跡が残存し、胡の両端に向けてわずかに湾曲する形状と推測される。刃部中位付近は、層状剥離が激しく刃部両端も欠損多数。身部の厚みは、切先付近で3~3.5mm。2つの穿(緊縛孔)間の厚み約2.5mm、内の厚み約4mm。」

茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈は、中峰式の中でもやや長大化しており、中峰式でもやや新しい特徴を有しているため、鉄戈そのものの製作時期は、弥生時代中期後半~後期前半に位置づけられる。

鉄戈の他遺跡出土例を表1に示す。北限は中間市・宗像市付近、西は佐賀県唐津市や長崎県大村市付近、南は筑後平野・佐賀平野までと、福岡平野付近を中心として北部九州西半に分布しており、事例は30例に満たない。また、他の副葬品を伴う厚葬墓から出土事例も多く、鉄戈保有が可能であるのは限られた一部の層と思われる。茶ノ木ノ本遺跡例は南筑後地域では唯一であり、鉄戈分布の南限にもあたる。

茶ノ木ノ本遺跡鉄戈の出自であるが、朝鮮半島で出土する鉄戈は「短身・幅広の内(ない)(柄と装着する箇所)・短胡(こ)・円形の穿(せん)(緊縛孔)」であるとの指摘がある(川越 1993)。茶ノ木ノ本遺跡出土の鉄戈は身部が薄く緊縛孔は方形であることから、舶載品ではなく、石戈(円形孔)を祖型として日本国内で銅戈(方形孔)の影響も受けつつ成立したものと推測される。併せて、内も極小化している形状であることから、本来の実用武器としての戈ではなく、儀礼祭祀用具に変化している可能性が高い。生産地はいまだ諸説あるが、出土地の分布から、「奴国」に代表される福岡平野域が第一候補に挙げられる。なお、立谷聡明氏によると、茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈は他遺跡出土の鉄戈と比べてやや身が薄い傾向にあり、緊縛孔の大きさは長峰式鉄戈に近い等、他の中峰式鉄戈と異なる特徴も有することから、福岡平野以外の地域での制作(地域差/工人差)の可能性もある。また、刃部両端の欠損が多数あることや、出土甕棺の推定時期からも、製作から副葬までの時間差(伝世)がある可能性もある、とのことである。

以上、茶ノ木ノ本遺跡出土鉄戈に関する所見を記したが、今後さらなる類例の増加や、調査による実態把握が望まれる。(檀)

<参考文献>

小田富士雄1977『鉄器』『立岩遺跡』福岡県飯塚市立岩遺跡調査委員会 河出書房新社

川越哲志 1993『弥生時代の鉄器文化』雄山閣

立谷聡明2020『弥生時代の九州地方における鉄製武器の普及』『古代武器研究』16 古代武器研究会

※執筆に際し、立谷聡明氏(唐津市教育委員会生涯学習文化財課)より多くのご教示を得た。記して謝意を表したい。

第2表 鉄戈出土遺跡

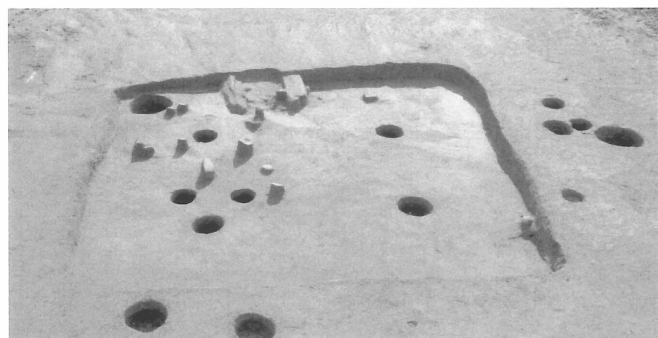
番号	主在地	遺跡名	全長(分類)	時期	備考
1	福岡県中間市	上り立遺跡	40.5cm(長峰式)	弥生時代 中期後半?	2号箱式石棺より貝輪と共に出土
2	福岡県宗像市	富地原梅木遺跡	29.5cm(中峰式)	弥生時代 中期後半	大型土坑墓より出土
3	福岡県福岡市	岸田遺跡	33.8cm(中峰式)	弥生時代 中期後半	K0443甕棺より出土
4	福岡県糸島市	御床松原遺跡	19.0cm(短峰式)	?	砂取現場で採取された。詳細は不明
5	福岡県那珂川市	安德台遺跡	29.0cm(中峰式)	弥生時代 中期後葉	甕棺より剣・ガラス勾玉・貝輪とともに出土
6	福岡県春日市	須玖岡本遺跡	23.6cm(中峰式)	弥生時代 中期後半	甕棺内より出土
7 8	福岡県春日市	門田遺跡	33.9cm(中峰式) 33.0cm(中峰式)	弥生時代 中期後半	24号甕棺 甕棺墓棺外より出土(鉄剣を伴う) 27号甕棺 甕棺墓棺外より出土 (計2例)
9	福岡県筑紫野市	隈西小田遺跡	39.7cm(長峰式)	弥生時代 中期後半	13地点23号甕棺墓より鉄剣・貝輪・前漢鏡と ともに出土し、首長墓と目される。
10	福岡県筑紫野市	道場山遺跡	43.0cm(長峰式)	弥生時代 後期初頭	100号甕棺より出土
11 12	福岡県飯塚市	立岩堀田遺跡	41.8cm(長峰式) 49.6cm(長峰式)	弥生時代 中期後半	34号甕棺墓より貝輪・前漢鏡とともに出土 35号甕棺から出土 (計2例)
13	福岡県筑前町	東小田峯遺跡	41.7cm(長峰式)	弥生時代 中期後半	10号甕棺の棺外より出土 (ガラス璧・鉄剣・前漢鏡を伴う)
14	福岡県筑前町	吹田遺跡	44.9cm(長峰式)	弥生時代 中期後半	甕棺棺外より出土
15	福岡県朝倉市	平塚栗山遺跡	30.4cm(中峰式)	?	甕棺内より出土
16	福岡県八女市	茶ノ木ノ本遺跡	30.5cm(中峰式)	弥生時代中期後半 ～後期前半	3号甕棺墓棺外より鏡とともに鉄戈1
17	佐賀県基山町	久保田遺跡	41.5cm(長峰式)	弥生時代 中期	工事中不時発見。甕棺より出土
18	佐賀県神埼市	二子・山崎遺跡	36cm?(長峰式)	?	工事中に不時発見、甕棺に伴うとされる
19	佐賀県鹿島市	旭ヶ丘遺跡	40.9cm(長峰式)	弥生時代 中期末	SJ206大型甕棺より出土。胡の湾曲は大きい
20	佐賀県唐津市	中原遺跡	33.2cm(中峰式)	弥生時代 中期後半	7号甕棺棺外より鉄戈1出土
21 22 23	長崎県大村市	富の原遺跡	32.1cm(中峰式) 41.0cm(長峰式) 30.6cm(中峰式)	弥生時代 中期後半～ 後期初頭	A2号甕棺 A4号甕棺 B23号甕棺 (計3例)

図版



図版1 茶ノ木ノ本遺跡 上空から

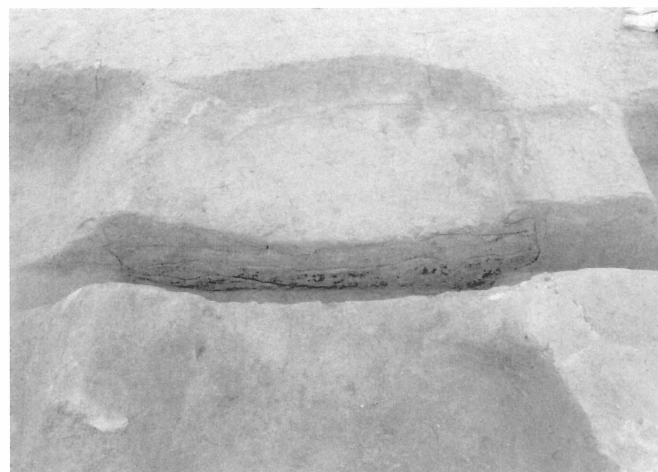
図版 2 茶ノ木ノ本遺跡 竪穴建物



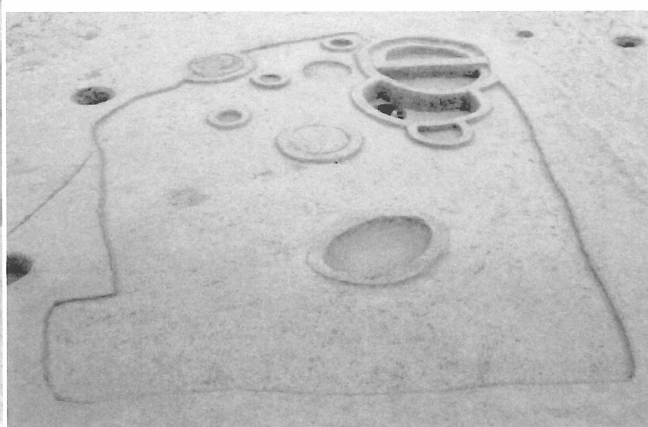
(1)1号竪穴建物【SB01】(北から)



(5)2号竪穴建物【SB02】(南西から)



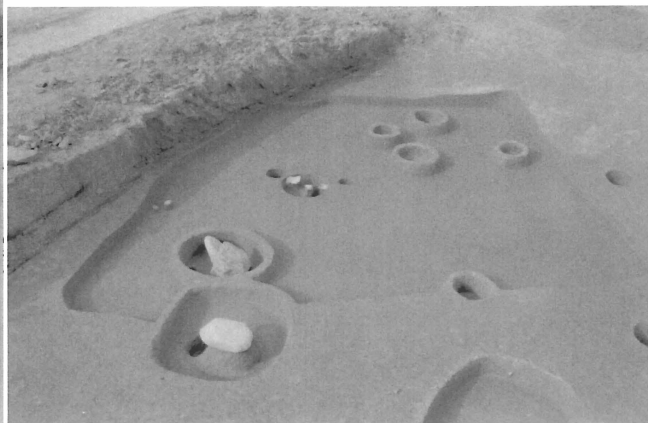
(2)1号竪穴建物【SB01】カマド(北から)



(6)3号竪穴状遺構【SB03】(南西から)



(3)1号竪穴建物【SB01】カマド(北から)



(7)4号竪穴状遺構【SB04】(北東から)

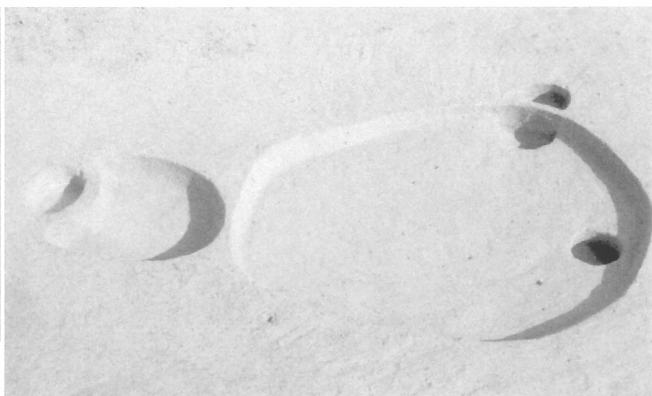


(4)1号竪穴建物【SB01】カマド(北から)

図版3 茶ノ木ノ本遺跡 土坑



(1)8号土坑【SK08】(南西から)



(5)23号土坑【SK23】(西から)



(2)10号土坑【SK10】(東から)



(6)25号土坑【SK25】(西から)



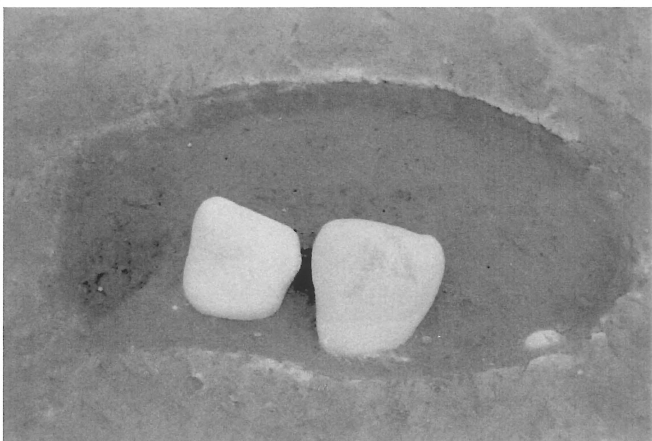
(3)20号土坑【SK20】(南から)



(7)26号土坑【SK26】(南西から)



(4)20号土坑【SK20】遺物出土状況(南東から)



(8)39号土坑【SK39】(南東から)

図版4 茶ノ木ノ本遺跡 土坑・溝状遺構



(1)土坑【SK41】(東から)



(4)溝状遺構【SD02】(南から)

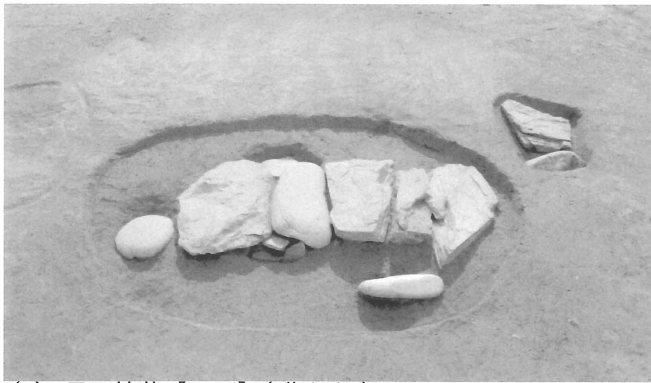


(2)土坑【SK42】(北から)

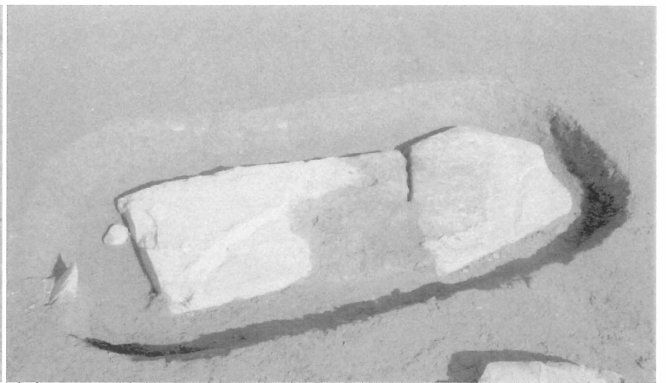


(3)土坑【SK46】(北から)

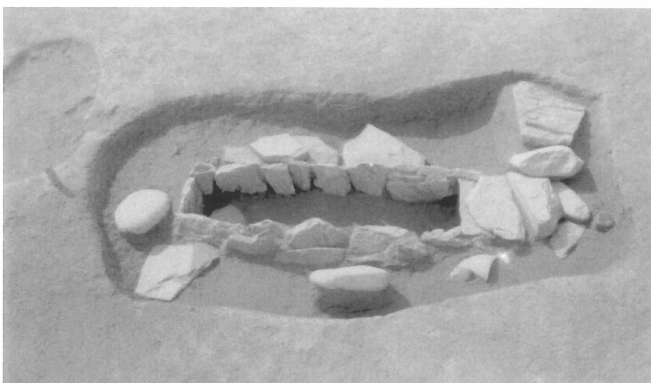
図版5 茶ノ木ノ本遺跡 石棺墓



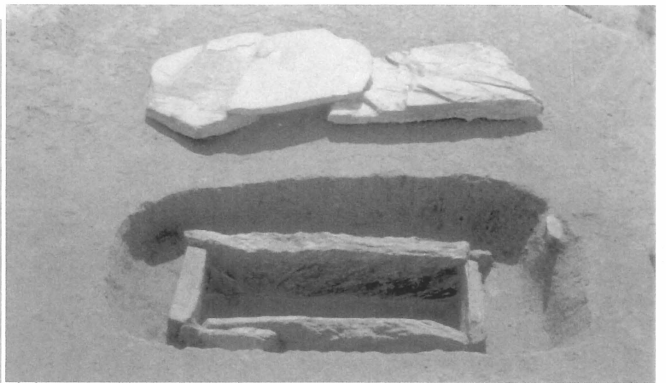
(1)1号石棺墓【ST01】(北から)



(4)3号石棺墓【ST03】(南から)



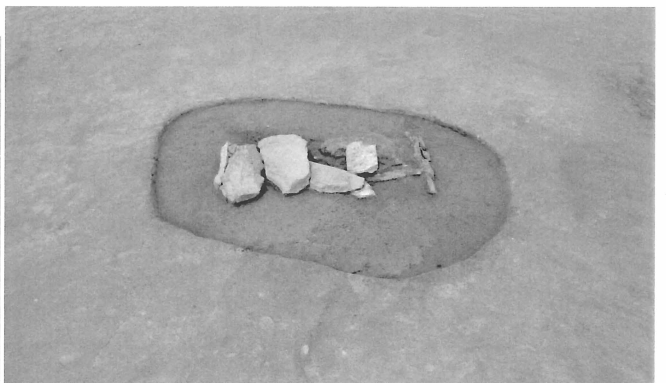
(2)1号石棺墓【ST01】(北から)



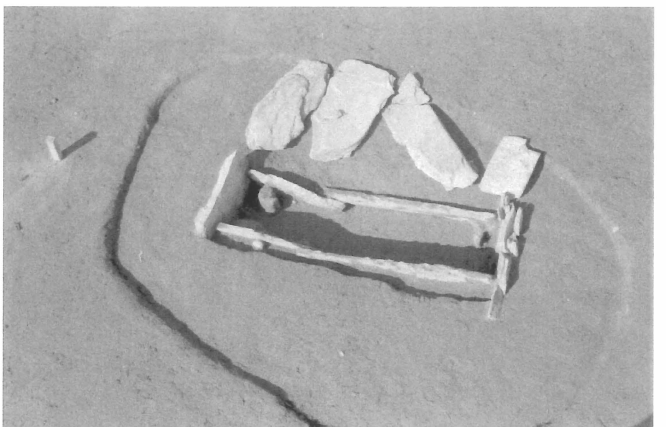
(5)3号石棺墓【ST03】(北から)



(3)2号石棺墓【ST02】(南西から)



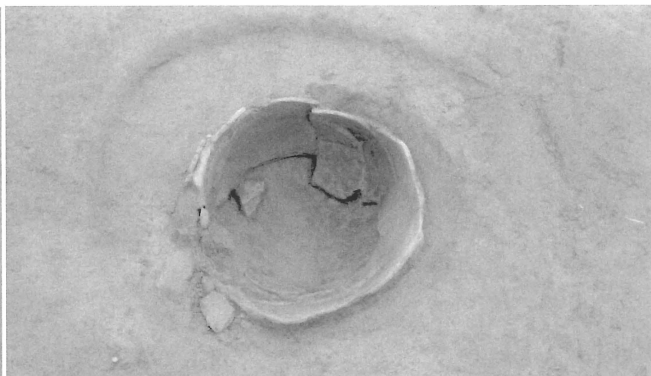
(6)4号石棺墓【ST04】(南から)



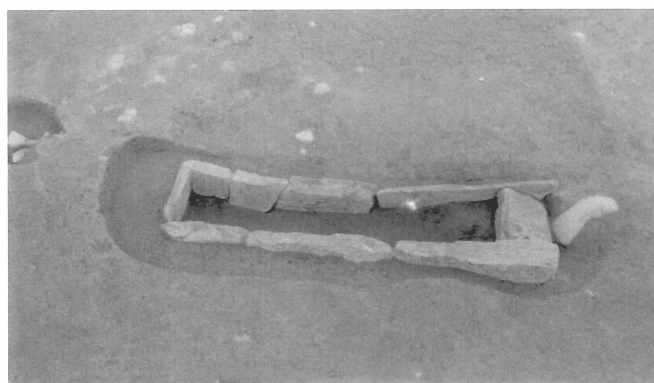
(7)4号石棺墓【ST04】(南東から)



(1)5号石棺墓【ST05】(南から)



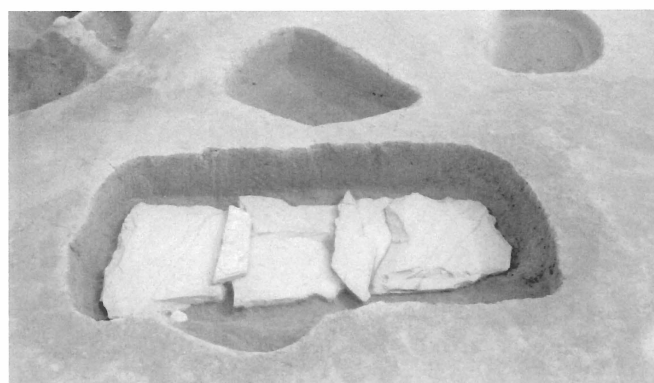
(5)1号甕棺墓【K01】(北東から)



(2)5号石棺墓【ST05】(南から)



(6)1号甕棺墓【K01】(北から)



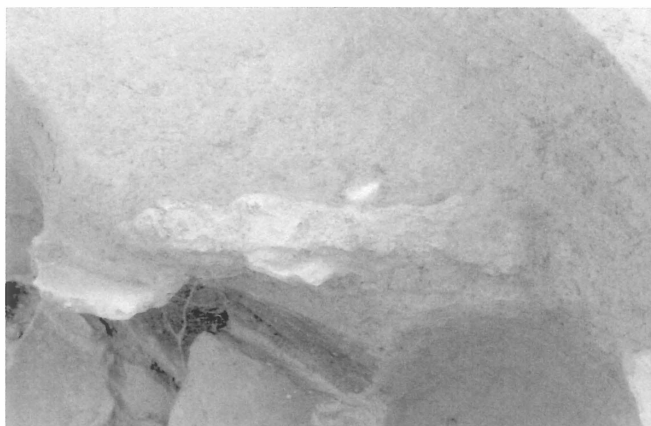
(3)6号石棺墓【ST06】(北東から)



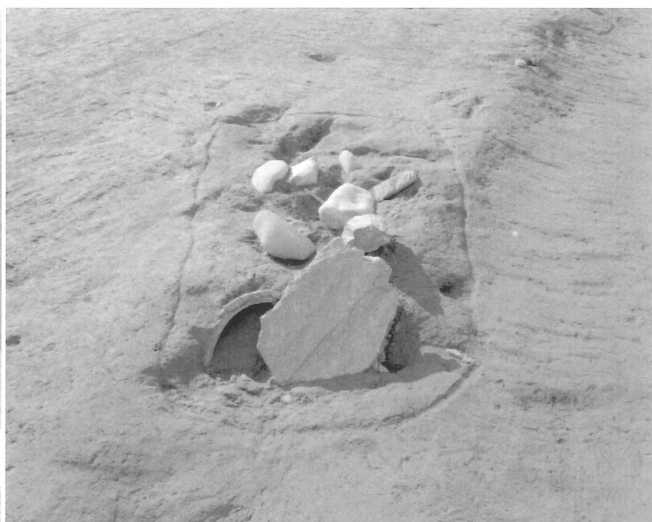
(7)3号甕棺墓【K03】(北西から)



(4)6号石棺墓【ST06】(北東から)



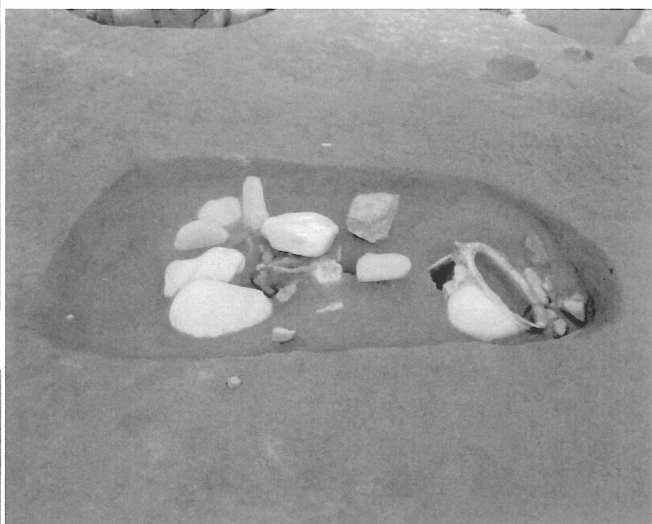
(1)3号甕棺墓【K03】(鉄戈出土状況 西から)



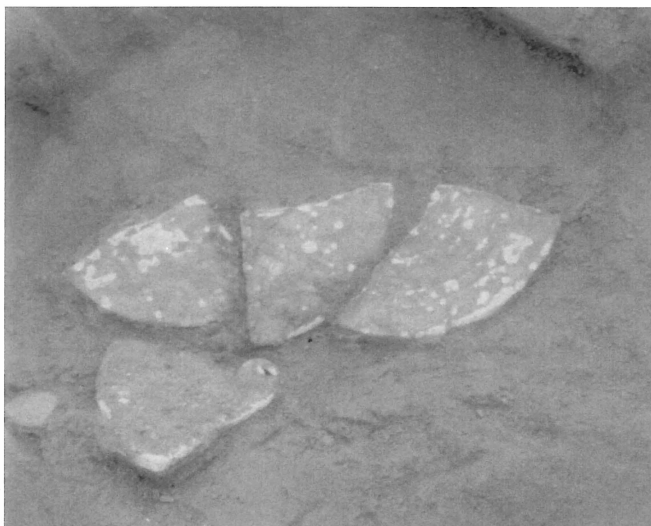
(5)5号甕棺墓【K05】(北東から)



(2)3号甕棺墓【K03】(銅鏡出土状況 1 北東から)



(6)5号甕棺墓【K05】(石蓋除去後 1 南東から)



(3)3号甕棺墓【K03】(銅鏡出土状況 2 北東から)



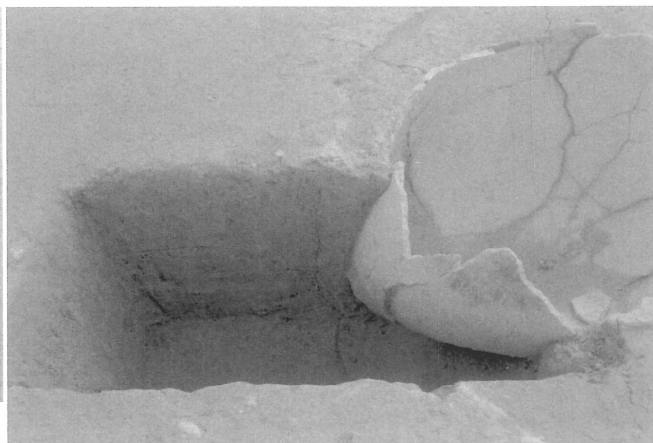
(7)5号甕棺墓【K05】(石蓋除去後 2 北東から)



(4)4号甕棺墓【K04】(南東から)



(1) 6号甕棺墓【K06】(北から)



(5) 9号甕棺墓【K09】(北から)



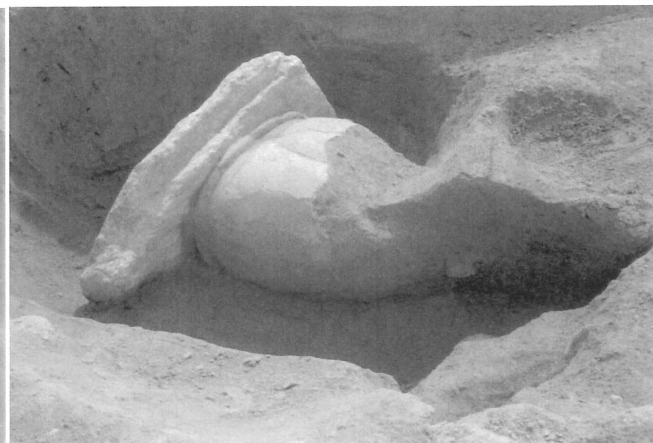
(2) 6号甕棺墓【K06】(北から)



(6) 10号甕棺墓【K10】(南東から)



(3) 7号甕棺墓【K07】(東から)



(7) 12号甕棺墓【K12】(北西から)



(4) 7号甕棺墓【K07】(東から)

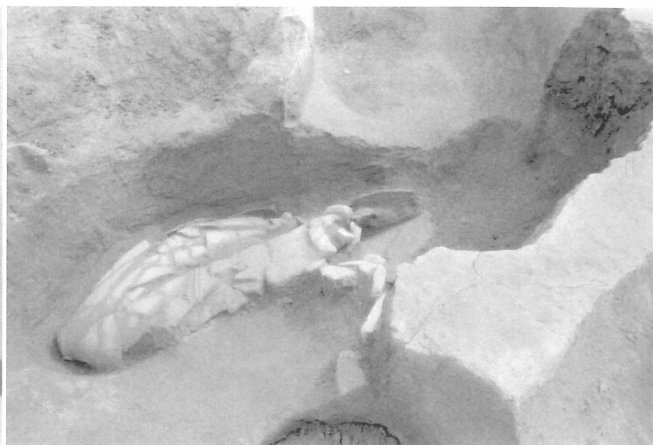


(8) 14号甕棺墓【K14】(南から)

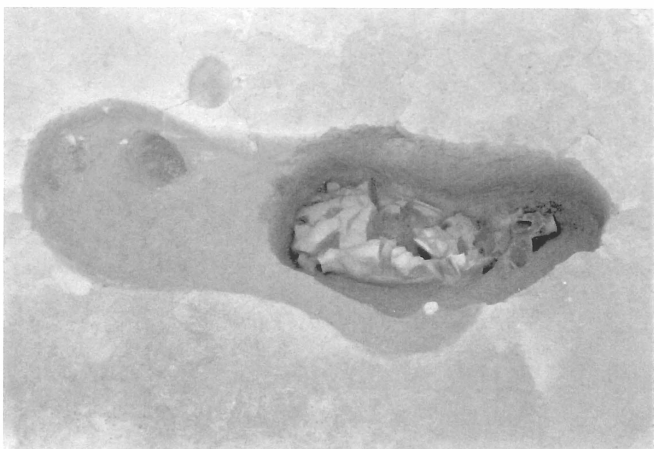
図版9 茶ノ木ノ本遺跡 甕棺墓



(1)15号甕棺墓【K15】(南東から)



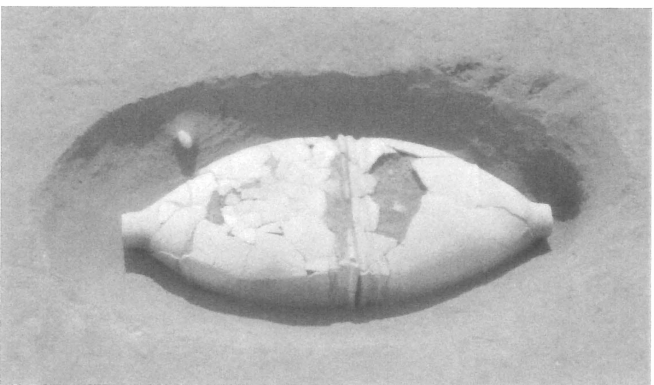
(5)21号甕棺墓【K21】(北から)



(2)17号甕棺墓【K17】(南から)



(3)19号甕棺墓【K19】(東から)



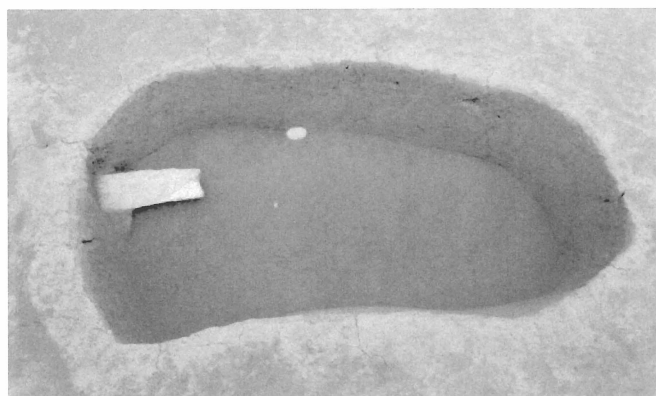
(4)20号甕棺墓【K20】(北西から)



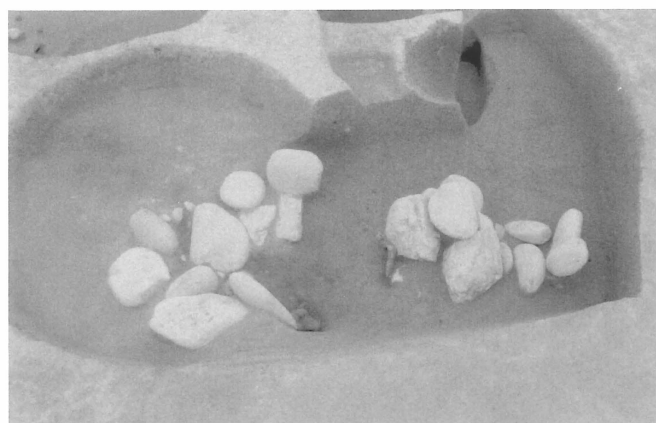
(1)不明遺構【SX02】(南から)



(5)不明遺構【SX08】(南東から)



(2)不明遺構【SX03】(北から)



(3)不明遺構【SX04】(西から)



(4)不明遺構【SX06】(西から)



(1) 第 9 図 1 (底部)



(5) 第 9 図 5



(2) 第 9 図 2



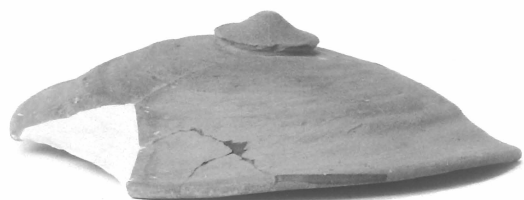
(6) 第 9 図 6



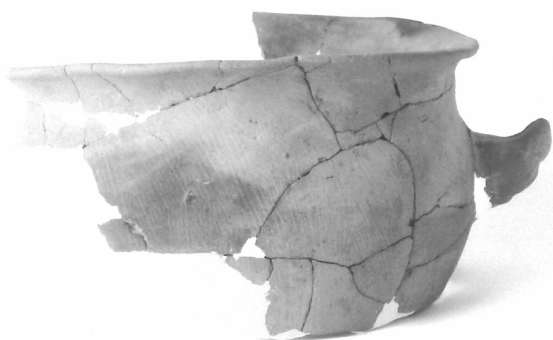
(3) 第 9 図 3



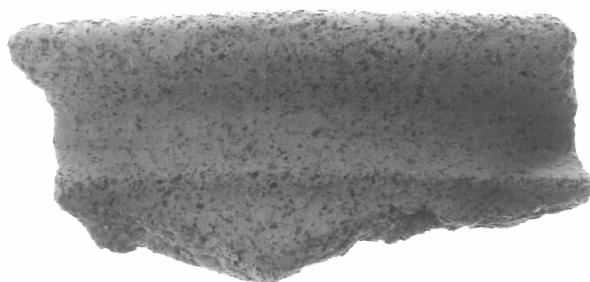
(7) 第 9 図 8



(4) 第 9 図 4



(1)第 49 図 1



(5)第 49 図 5



(2)第 49 図 2



(6)第 49 図 6



(3)第 49 図 3



(7)第 49 図 8



(4)第 86 図 4



(8)第 49 図 9



(1)第 49 図 11



(2)第 49 図 12



(3)第 49 図 13



(4)第 56 図 1



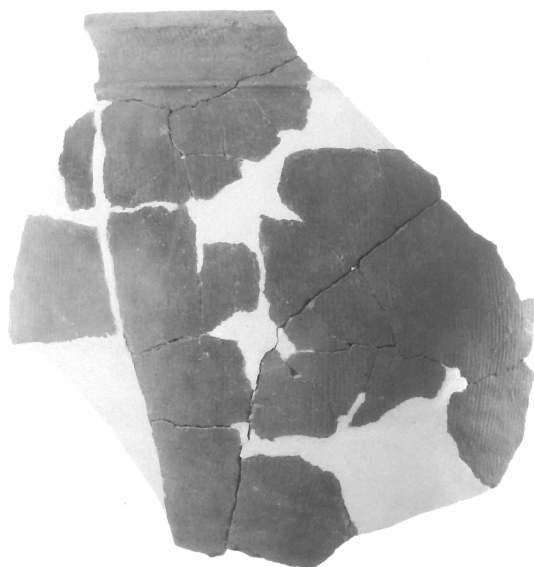
(5)第 56 図 2



(6)第 56 図 3



(1)第 79 図



(5)第 81 図

K03 下

K01



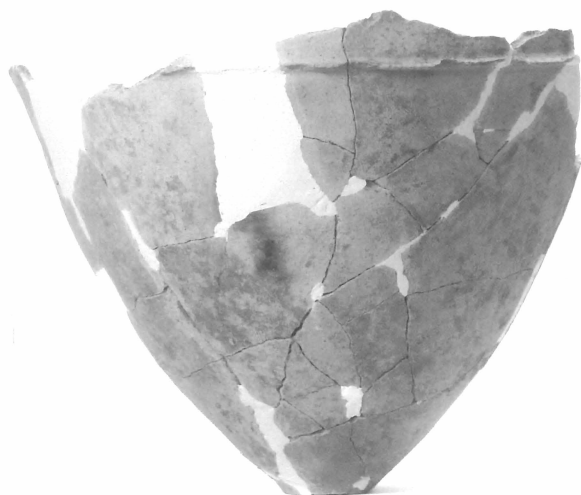
(2)第 80 図

K02



(4)第 81 図

K03 下



(3)第 81 図

K03 上



(1) 第 84 図 1



K04 (3) 第 84 図 4

K06

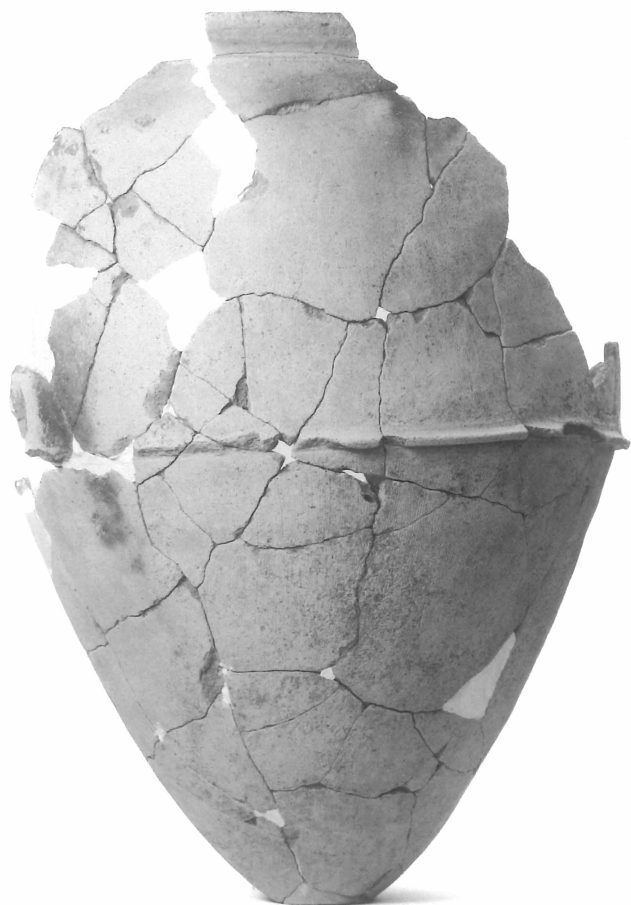


(2) 第 84 図 3

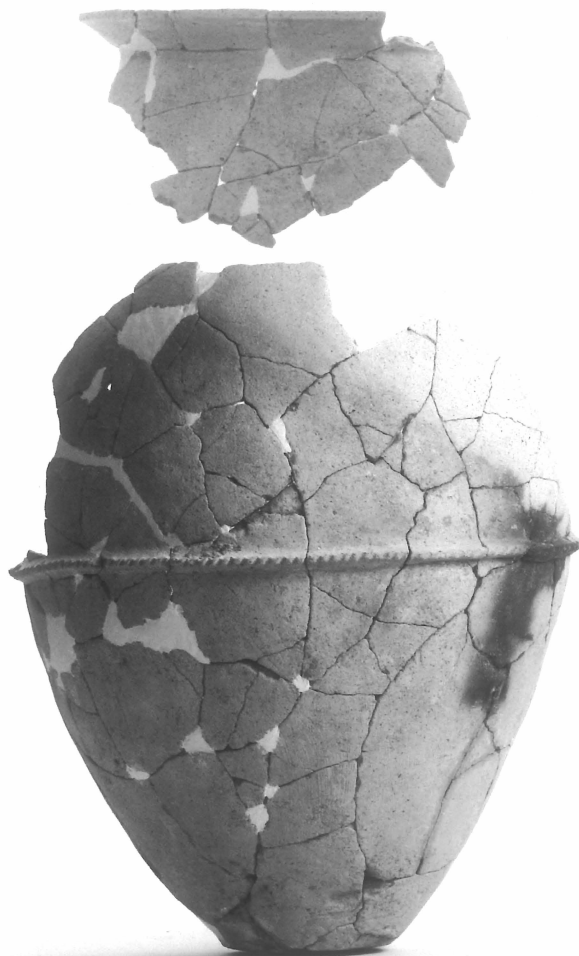


K05 (4) 第 86 図 1

K07



(1)第 86 図 2



K08

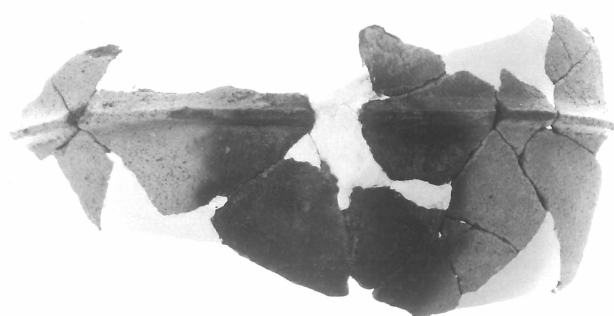
(2)第 86 図 3

K09



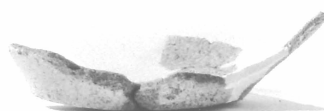
(4)第 88 図 2

K10 下



(3)第 88 図 1

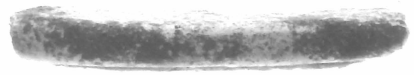
K10 上





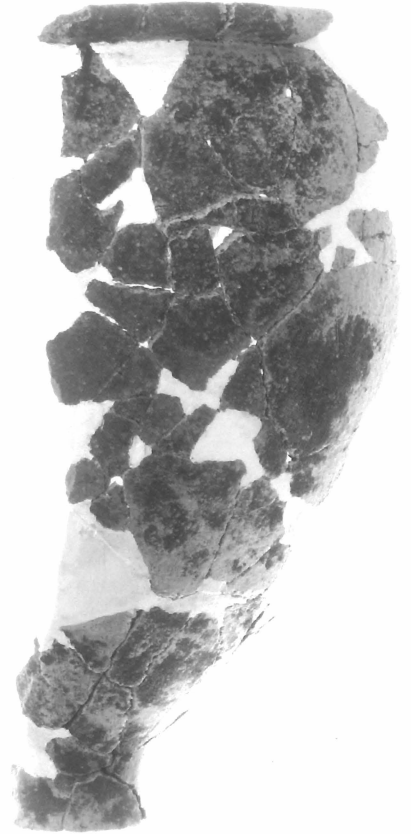
(1)第 88 図 3

K11



(3)第 88 図 5

K13 上甕



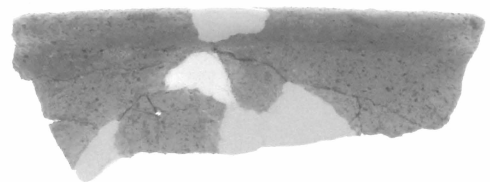
(4)第 88 図 6

K13 下甕



(2)第 88 図 4

K12



(5)第 88 図 7

K14



(1)第 88 図 8

K15 上甕



(3)第 88 図 10

K17 上甕



(2)第 88 図 9

K15 下甕



(4)第 88 図 11

K17 下甕



(1)第 86 図 4



(3)第 88 図 13

K20 上甕



(2)第 88 図 12

K19



K22



(5)第 89 図 2

(4)第 88 図 14

K20 下甕



(6)第 89 図 3

K22 出土遺物



(1)第 82 図

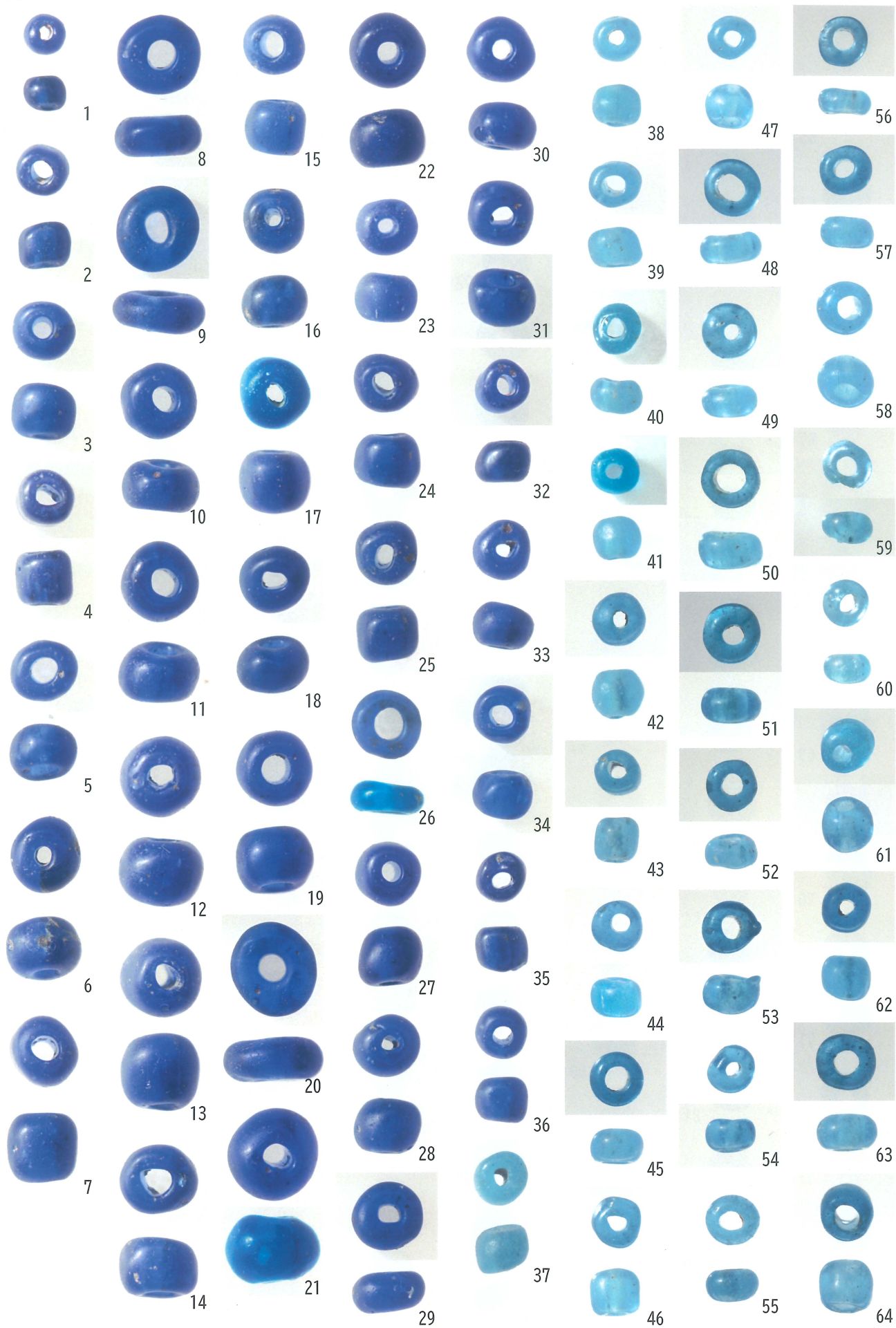


(2)第 83 図

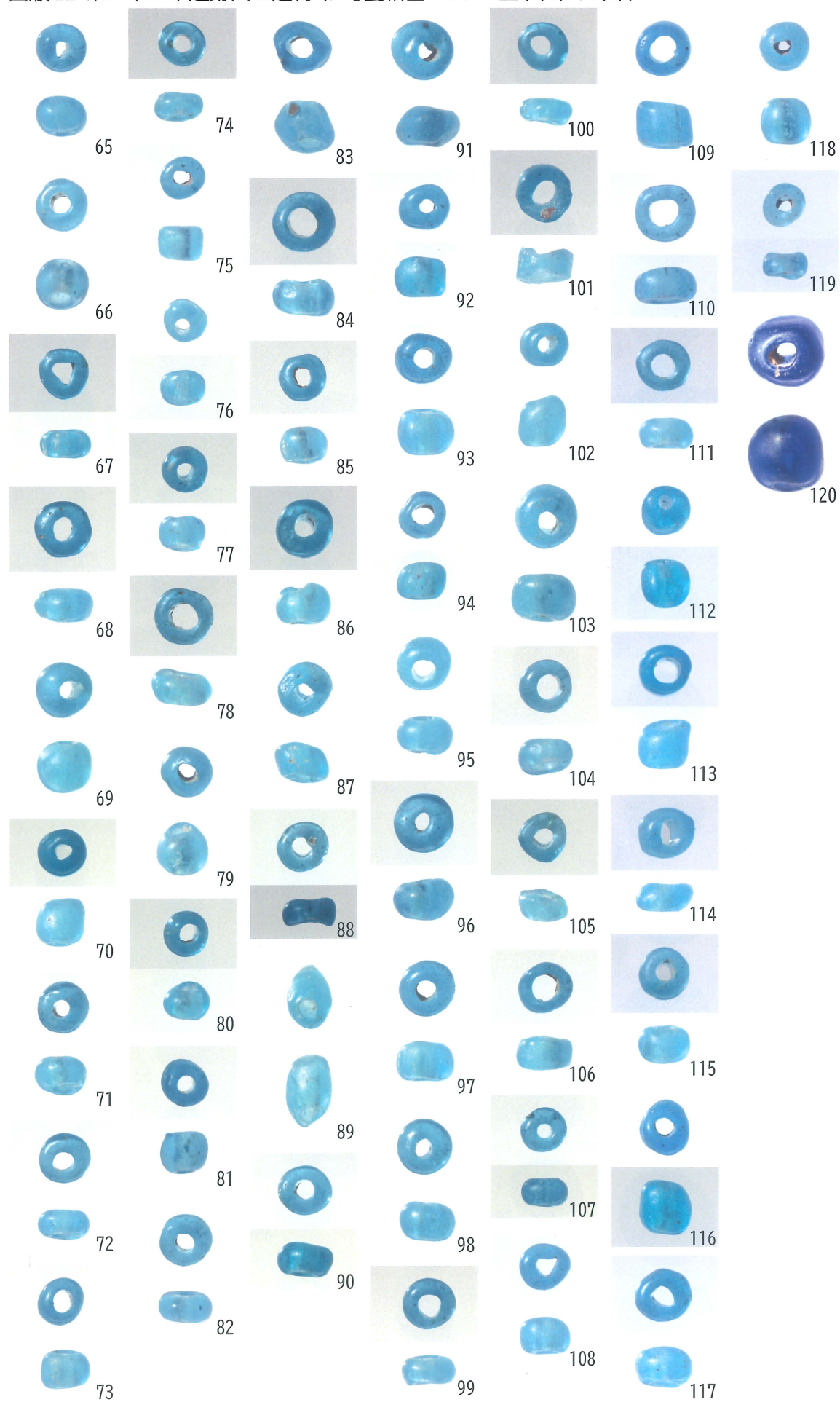


(3)第 85 図

図版 21 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 (9 号甕棺墓 ガラス玉) (第 87 図)



図版 22 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 (9 号甕棺墓 ガラス玉) (第 87 図)





(1)第 98 図 1



(5)第 98 図 5



(2)第 98 図 2



(6)第 98 図 6

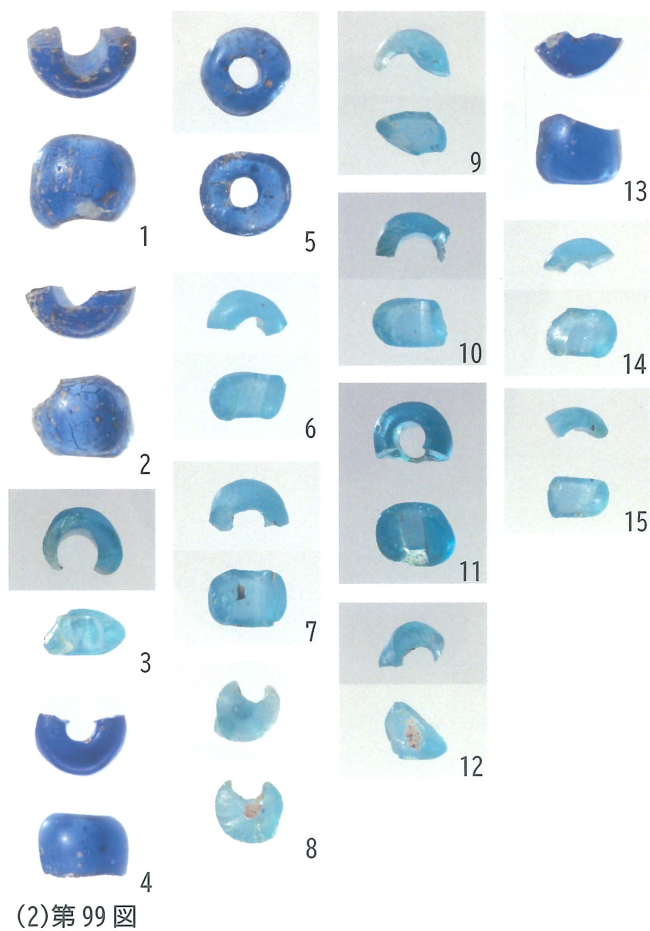


(3)第 98 図 3



(4)第 98 図 4

図版 24 茶ノ木ノ本遺跡出土遺物 (3, 4 号不明遺構)



(1)第 100 図

はじめに

茶ノ木ノ本遺跡で出土した銅鏡は、後漢代に大陸で製作された鏡(以下、漢鏡と記す)で、弥生時代後期後葉(2世紀中葉)に副葬品とされた、完形に復元されるものである。この時期の遺構から出土した完形鏡は福岡県北部を中心として中・四国までの範囲で見られる。漢鏡は弥生時代中期後半(紀元前1世紀)の段階から日本列島にもたらされており、王墓と呼ばれる他とは隔絶した内容の墓で多量に出土することから、その保有は「権威の象徴」であったと考えられている(高倉1993)。漢鏡は弥生時代を通じてこのような社会的意義を有しており、漢王朝から伊都国や奴国の所在した北部九州中枢部(現福岡県糸島市、春日市、福岡市を中心とする地域)へ、そしてそこから周辺地域へともたらされたと考えられている。

漢鏡はこのような性質を有する器物であることから、茶ノ木ノ本遺跡の弥生時代における性格に迫るために欠かせないものと言える。ここではまず漢鏡の文様や製作技術から製作時期を検討する。そして、北部九州を中心とした完形漢鏡の拡散状況を概観し、茶ノ木ノ本遺跡出土鏡(以下、茶ノ木ノ本鏡と記す)の歴史的な意義について考察する。

1. 製作時期の検討

【鏡式・文様の型式】

鏡式は方格規矩鏡である。方格規矩鏡は前漢末から製作が開始され、後漢代を通じて主要な位置を占めた鏡式である。これまでの研究では岡村秀典によって編年が構築されている(岡村1984・1993)。岡村は外区文様と主文を基準として方格規矩鏡をⅠ～Ⅶ式に型式分類し、さらにⅤ式はA～Cに細分している。Ⅰ～Ⅳ式は前漢鏡、Ⅴ～Ⅶ式は後漢鏡に位置づけられており、後漢鏡についてはⅤ式を後漢前期(紀元1世紀代)、Ⅵ・Ⅶ式を後漢中期(紀元2世紀前半)とした。ただし同じ文様構成をとる鏡でも出土時期が下る資料が頻出しているので、この年代は各型式のほぼ上限を示したものと理解すべきだろう(南2016b・2019)。

茶ノ木ノ本鏡についてみると、外区文様は浮彫の鋸歯文の外側に複線波文を配する岡村鋸c1類である(図1)。一方、主文は4体で、四神ではない瑞獣が配されており、岡村の分類基準にはないものである。岡村は鋸c1類の外区文様をⅥ式としているが、Ⅵ式は主文が鳥のみ、もしくは渦文とされており、茶ノ木ノ本鏡の主文よりも退化したものである。寺沢薫は、このような状況に、さらに四葉座の退化、方格のTと円圈のLの乱れを指摘し、岡村のⅤC式からⅥ式の過渡期の一型式と考え、2世紀前葉に日本列島に流入したものと考えている(寺沢2004)¹⁾。

ここで注目すべきは外区文様の複線波文である。一般的に岡村分類の鋸c1類は浮彫の鋸歯文と複線波文がほぼ同程度の幅

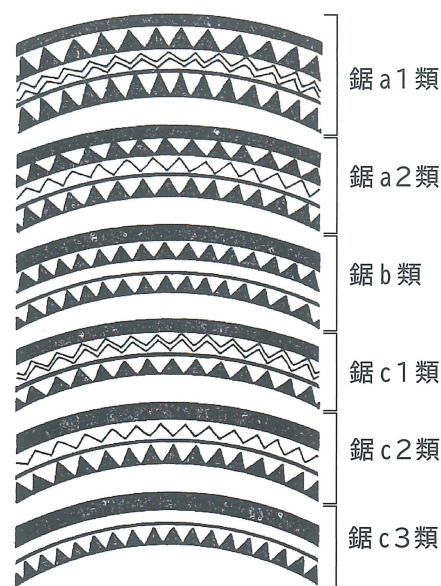


図1 岡村による外区鋸歯文分類
(岡村1993を一部改変)



図2 茶ノ木ノ本鏡の外区文様

で構成されるが、茶ノ木ノ本鏡は複線波文がむしろ複線鋸歯文状になってしまっており、幅が内側の浮彫鋸歯文の約2倍となっている(図2)。このような構成の鋸c1類は大陸出土鏡を含めても極めて希少で、一般的な鋸c1類とは異なる設計原理が想定される。さらに複線鋸歯文は浮彫鋸歯文よりも横幅が大きくとられているため、前者の鋸歯文数が圧倒的に少ない。これはつまり一つの鋸歯文が大きくなっているということであり、このような特徴はむしろ岡村Ⅶ式の鋸歯文に通じる特徴であると言える。

このことから、外区文様からみると、茶ノ木ノ本鏡は岡村Ⅵ式からⅦ式への過渡的様相を示していると言え、製作年代の上限は2世紀前半と考えることができる。

【製作技術】

①鑄型の製作方法

一般的に銅鏡を鑄造する際は、鑄型に鏡の形や文様が直接彫り込まれる。しかし茶ノ木ノ本鏡はこのような方法で製作された鑄型ではなく、踏み返し技法によって製作された鑄型が使われている(南2010)。踏み返しとは、あらかじめ原型となる製品が存在し、その原型の鏡背面(文様面)を土製の鑄型に押し付けることで形や文様を転写させて鑄型を製作することを指す。その根拠としては、方格内にキサゲ削り痕跡のみが残存しており、その表面は鑄肌の状態であることが挙げられる。後漢前半の方格規矩鏡の多くは、方格やTLVの内側部分をキサゲと呼ばれるナイフ状の工具で削られており、キサゲの刃先が動いた範囲は一段窪み、そこには細やかな線状痕が明瞭に観察される。一方、このようなキサゲ削りを有する鏡を踏み返した場合は、刃先の動いた範囲の窪みは転写されるが、線状痕までは写し取られない。このため、踏み返し技法で製作された鑄型で鑄造された鏡には、線状痕のないキサゲ削りの範囲を示す一段窪んだ痕跡(キサゲ削り痕跡)のみが観察されるのである(図3)。茶ノ木ノ本鏡でも方格にキサゲ削り痕跡が明瞭に観察できる(図4)。

②湯口の位置

鑄型を製作する際は、銅・錫・鉛を溶かし合わせた素材(溶材と記す)の注ぎ口である湯口を設けなければならない。製品の観察による湯口の位置の特定には、現状では文様が不鮮明な範囲を抽出することが有効であると考えられている。溶材は、鑄型に注ぎこまれた直後から冷えて凝固が始まる。溶材は湯口の反対方向から湯口方向に向かって凝固していくため、湯口付近は鑄型内で最終的に凝固するところとなる。溶材は凝固する際に収縮するため、最終的に凝固する湯口付近は溶材が凝固方向に引っばられてしまい、文様の彫り込みの最深部まで密着することなく凝固してしま

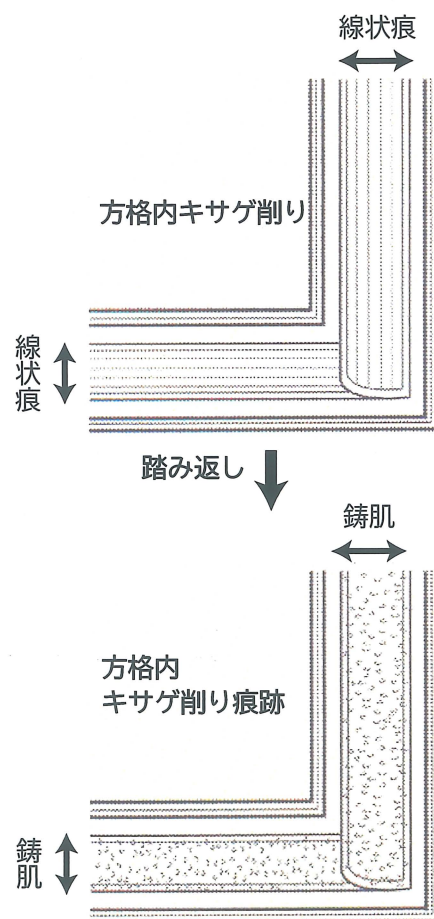


図3 キサゲ削り痕跡の発生過程

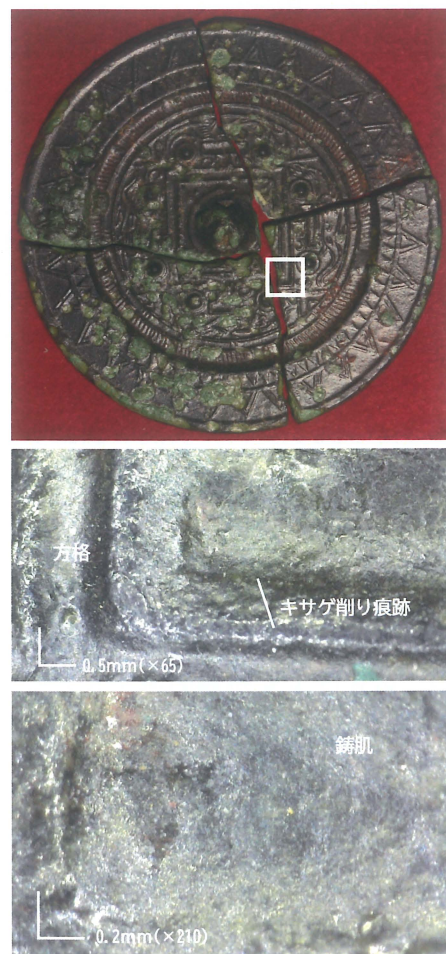


図4 キサゲ削り痕跡

う場合がある。このような現象を鑄引けと呼んでおり、湯口付近は鑄引けによって文様が不鮮明になってしまうことがある。このため文様不鮮明な範囲が偏る方向に湯口が存在した可能性が高いと考えられるのである。

茶ノ木ノ本鏡では片側の鈕孔が上辺の下半のみ不自然に右方向に広がっており、これは鑄引けによるものであると考えられる。また外区文様帯では鈕孔の変形方向の延長線上のみ複線鋸歯文が他所よりも不鮮明になっている(図5)。このような鑄造欠陥の発生状況から、湯口は鈕孔方向に対して斜め方向に設置されていた可能性を指摘することができる。

③鑄造後のケズリ

上記のように後漢前半の方格規矩鏡では一般的に方格やTLV間はキサゲ削りが施されるが、茶ノ木ノ本鏡ではすべての位置でキサゲ削りが確認されない点も注意しなければならない。

【製作時期】

文様構成からはすでに述べたように製作時期の上限は後漢中期(2世紀前半)に位置づけられる。では製作技術の面からみると、どのように考えられるだろうか。茶ノ木ノ本鏡が踏み返し鏡であることはすでに述べた。踏み返し鏡は原型があれば、原型製作以降いつでも製作が可能であるため、文様からみた製作時期の上限以降であれば、いつでも製作することが可能である。このことを念頭に置いたうえで湯口の設置位置と鑄造後のケズリから时期的な位置づけを考えてみよう。湯口の設置位置は時期による変動があり、後漢前半は鈕孔の延長線上に湯口が設置されるが、後漢後半以降は鈕孔方向に対して斜めや直交方向に湯口を設けられるようになる(柳田2005、南2015・2016a・2016b・2019b)。茶ノ木ノ本鏡は鈕孔方向に対して斜め方向に湯口が設置されたと考えられるため、後漢後半以降の方法で製作されたということになる。また茶ノ木ノ本鏡はキサゲ削りが省略されているが、このような事例は福岡県糸島市平原遺跡出土方格規矩四神鏡や、漢末三国期に製作された方格規矩鏡にみられる特徴であり(柳田2000・2017、南2016b)、湯口の設置位置からみた編年的位置付けとも矛盾しない。

以上のことから茶ノ木ノ本鏡は後漢中期(2世紀前半)以降に鑄造されたものとするのが妥当であり、後漢末まで下る可能性も十分ある。銅鏡が伴った甕棺の時期が弥生時代後期後葉であることから、入手時期の下限は2世紀中葉に設定できるだろう。

2. 弥生時代後期後葉の完形鏡の拡散

茶ノ木ノ本鏡は製作時期が後漢中期以降にあり、弥生時代後期後葉までに入手されたものと思われる。ここでは弥生時代後期後葉前後における完形鏡の拡散状況についてみてみよう。

弥生時代の完形鏡が最もたくさん出土しているのは福岡県の糸島地域である。弥生時代中期後葉以降、常に完形鏡の保有において他地域よりも優位な位置に立ち続けた。弥生時代後期後葉～末の状況をみると、平原遺跡1号墓に圧倒的な集中がみられる。平原遺跡では40面の銅鏡が出土したが、その内訳は面径約46.5cmの超大型内行花文鏡5面、面径27.0cmの大型内行花文鏡1面、18.7cmの内行花文鏡1面、16.5cmの虺龍文鏡1面、約11.7cm～23.4cmの方格規矩鏡32面である。方格規矩鏡は約11.7cmの1

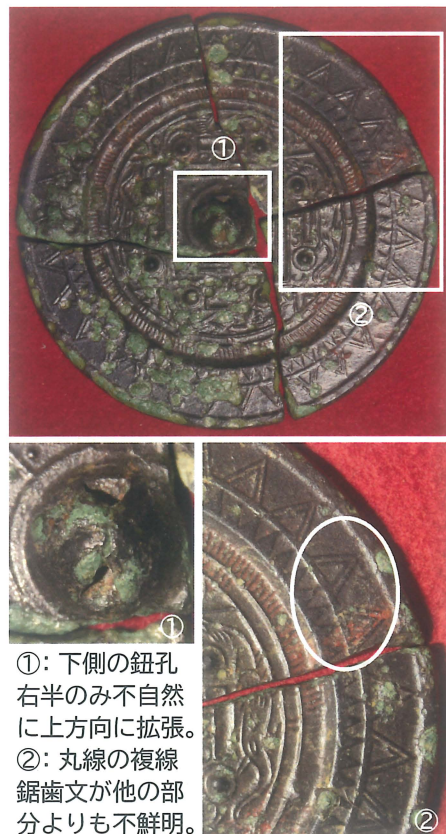


図5 鑄造欠陥

面を除くといずれも15cm以上である。当該期の他の墓では2面を副葬した福岡県香春町宮原遺跡3号箱式石棺が最多であり、他は1面のみの副葬である。面径は宮原遺跡3号箱式石棺出土の19.5cmの内行花文鏡、佐賀県伊万里市午戻遺跡SC010出土の19.7cmの内行花文鏡が大型鏡である点を除いて、いずれも15cm以下のものである。これらの点からは、当該期においては保有数、面径の面において平原遺跡の位置する伊都国の絶対的な優位性が示され、鏡を分有することによって地域間の紐帯が示されたものと考えられる。

ここで九州島における伊都国領域以外の弥生時代後期後葉前後の完形鏡出土地域をみると、唐津地域、伊万里地域、筑豊地域、豊前地域、筑後地域、肥後地域北部が挙げられるが、出土総数は20面にも満たないもので、非常に限定的である点が注目される。唐津地域や筑豊地域は弥生時代中期後半以降、断続的にはあるが完形鏡を受容した地域であったが、筑後地域、肥後地域はこの時期になってはじめて完形鏡を受容した地域である。筑後地域では筑後川北岸の福岡県久留米市良積遺跡、その南の矢部川北岸の茶ノ木ノ本遺跡、そしてそこから南へと産地を越えた菊池川・合志川などの合流地点の熊本県菊池市小野崎遺跡で完形鏡が出土している。この点は、この時期に筑後川から矢部川中流、そして筑肥山地を越えて熊本県地域へと向かう北部九州中枢部からの働きかけの強まりがあった状況を見出すことができる。

3. 銅鏡からみた茶ノ木ノ本遺跡の歴史的位置付け

ここまでの検討において、茶ノ木ノ本鏡は弥生時代後期後葉から末に受容され、その背景には北部九州中枢部の南方への政治的働きかけの伸長があったことを指摘した。希少な完形鏡を受容していることは、当該期の社会における茶ノ木ノ本遺跡の重要性を示しており、北部九州中枢部と熊本県地域を繋ぐために不可欠な存在であったことがわかる。さらに茶ノ木ノ本鏡は完形鏡を破碎した後、遺体が納められた棺の外に埋め置くという、破碎棺外副葬をおこなっている。このような特殊な銅鏡の取り扱いが埋葬にあたっての儀礼的な行為と考えられているが、破碎棺外副葬という風習は前出の平原遺跡1号墓で最も顕著である。埋葬儀礼という習俗をも共有していることから、北部九州中枢部とのより強い結びつきを想起させる。

このように茶ノ木ノ本遺跡は弥生時代終末期前後の社会状況を考える上で重要な意味を持つと言える。今後周辺の墓、集落の動き、さらに前後の時代の分析を進めることで、遺跡の所在する筑後地域の実像にも迫ることができるだろう。

註

1) 寺沢は茶ノ木ノ本鏡出土甕棺を北部九州の橋口達也分類のKIVc式としているが、本書報告では橋口分類南筑後KIVc式(橋口1985・2005: 北部九州KV式併行、弥生時代後期後葉)に位置づけられている。筆者も以前、鏡の製作時期や甕棺の時期を寺沢氏同様の時期として、踏み返し鏡の製作時期を検討した(南2010)。しかし、以後示すように近年の資料の蓄積や製作技術研究の進展によって、鏡の製作時期をより下らせて考えることが可能となった。このため筆者の見解は以後に示す見解にあらため、検討を進めていく。

参考文献

- 岡村秀典1984「前漢鏡の編年と様式」『史林』67-55 史学研究会
- 岡村秀典1993「後漢鏡の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集 国立歴史民俗博物館
- 高倉洋彰1993「前漢鏡にあらわれた権威の象徴性」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集 国立歴史民俗博物館
- 橋口達也1985「南筑後における甕棺の編年」『権現塚北遺跡』瀬高町文化財調査報告書第3集 瀬高町教育委員会
- 橋口達也2005『甕棺と弥生時代年代論』雄山閣
- 南健太郎2010「漢代における踏み返し鏡製作について－日本列島出土漢鏡の観察を中心に－」『FUSUS』2号 アジア鑄造技術史学会
- 南健太郎2016a「日本列島における漢鏡の東方拡散と保有・廃棄の意義」『考古学研究』62-4 考古学研究会
- 南健太郎2016b「漢・三国・西晋期の銅鏡編年に関する新視覚－特に方格規矩鏡と内行花文鏡について－」『ヒストリア』259 大阪歴史学会
- 南健太郎2019『東アジアの銅鏡と弥生社会』同成社
- 寺沢薫2004「考古資料から見た弥生時代の暦年代」『考古資料大観』第10巻 小学館
- 柳田康雄2000「平原王墓出土銅鏡の観察総括」『平原遺跡』前原市文化財調査報告書第70集 前原市教育委員会
- 柳田康雄2005「銅鏡鑄造における湯口の位置について」『鏡範研究』Ⅲ 奈良県立橿原考古学研究所・古代二上鑄金研究会
- 柳田康雄2017「平原王墓の出土銅鏡の観察総括」『平原遺跡』糸島市文化財調査報告書第16集 糸島市教育委員会

報 告 書 抄 録

ふりがな		やめしないいせきぐん23						
書名		八女市内遺跡群						
副書名		福岡県八女市柳瀬所在遺跡の調査報告書						
巻次								
シリーズ名		八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号		第140集						
編著者名		(編)永田 寧 檀 佳克 南 健太郎						
編集機関		八女市教育委員会						
所在地		〒834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982						
発行年月日		西暦2024年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ちゃのきのもと 茶ノ木ノ本	ふくおかけん 福岡県 やめし 八女市 やなげ 柳瀬	40210	7012	33° 13' 17"	130° 33' 49"	平成5年12月6日 ～ 平成6年3月25日	約 3,600㎡	圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
ちゃのきのもと 茶ノ木ノ本	集落 ・墓	弥生中期 古墳時代	竪穴建物 甕棺墓 石棺墓 土坑 溝状遺構		土師器・弥生土器・後漢鏡・銅剣・鉄戈・ヤリガンナ・ガラス玉			
要約	弥生時代中期～後期にかけての墓地群で、その他古墳時代後期の竪穴住居と溝、土坑、ピット等がみつかったりる。墓地群は調査区南東側に範囲が限られている。甕棺墓は中期前半と後期後半に見られ、中期前半の甕棺墓は列埋葬墓をなしている。他に石棺墓が6基検出されている。							

八女市内遺跡群23

八女市文化財調査報告書

第 140 集

令和6年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 (株) 東兄弟
八女市祈祷院563